

ふじ やま
藤山第1遺跡

Fujiyama 1 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 39

2007

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第142集

ふじ やま
藤山第1遺跡

Fujiyama 1 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 39

2007

宮崎県埋蔵文化財センター

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成11年度から実施しております。本書はその発掘調査報告書であります。

本書に掲載した藤山第1遺跡は、平成14年度に第一次調査、平成15年度に第二次調査を行い、縄文時代早期における集石遺構42基とともに縄文時代後期の土器を確認することができました。

ここに報告する内容は、今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたってご協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成19年1月

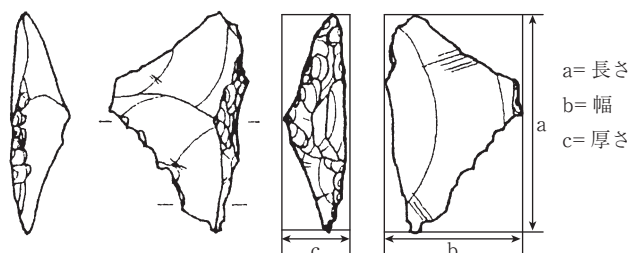
宮崎県埋蔵文化財センター
所 長 清野 勉

例 言

- 1 本書は、東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴い、宮崎県教育委員会が実施した藤山第1遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、日本道路公団の委託により宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
なお、日本道路公団は平成17年10月1日より分割民営化され、西日本高速道路株式会社となったが、本報告書中では日本道路公団として記載する。
- 3 現地での実測・写真撮影等の記録は、小山博、渡辺美幸が行い、一部について発掘作業員の協力を得た。集石遺構の実測では、多くの職員・調査員の協力を得た。また、本書で使用した遺物写真は、今塩屋毅行が撮影した。
- 4 調査区の座標設置及びグリッドの設定は、有限会社服部測量設計に委託した。なお、国土座標は旧国土座標第Ⅱ系に拠る。
- 5 地形測量実測は、有限会社三和コンサルタントに委託した。
- 6 空中写真撮影は、有限会社ふじたに委託した。
- 7 石器実測委託は、大成エンジニアリング株式会社に委託した。
- 8 整理作業は、遺物については埋蔵文化財センターで行い、礫の整理については東畦原整理作業事務所において行った。
- 9 本書で使用した位置図は国土地理院発行の2万5千分の1図をもとに作成し、遺跡周辺地形図等は、日本道路公団宮崎工事事務所から提供された1000分の1図をもとに作成した。
- 10 本書で使用した方位は主に磁北（M.N.）であり、位置図等の一部は座標北（G.N.）である。また、標高は海拔絶対高である。
- 11 土層断面・石材の色調については農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」に準拠した。
- 12 本書の執筆と編集は、小山が担当した。
- 13 石器の実測や図面の作成、本書の執筆にあたって、小山幸子（元宮崎市教育委員会）の協力を得た。
- 14 出土遺物、その他の諸記録は宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

凡 例

- 1 遺構の略号は次のとおりとする。
S I 集石遺構 S C 土坑
- 2 挿図の縮尺は次のとおりとする。
遺物実測図… 2/3 1/2 2/5 1/4
遺構実測図… 1/20 1/30
土層断面図… 1/50 ※以上を基本とするが、これ以外のものもある。
- 3 石器計測表の計測値は、下記の計測方法に拠った。単位は、cm、gである。
- 4 石器の節理面は一点鎖線で表示した。微細剥離のみられる部分は←→でその範囲を示した。「折れ」の部分は、欠損部分に／＼の記号を記した。ガジリは白抜きで表現している。



【石器の分類について】

本文中に掲載されている石器は、すべて下記に基づいて分類されている。

ナイフ形石器

I類：一側縁加工のもの

a：縦長剥片を素材として使用するもの

b：横長剥片を素材として使用するもの

c：不定形剥片を素材として使用するもの（例、幅広の剥片）

II類：二側縁加工のもの

a：縦長剥片を素材として使用するもの

b：横長剥片を素材として使用するもの

c：不定形剥片を素材として使用するもの（例、幅広の剥片）

d：横剥ぎ（瀬戸内系の可能性のあるもの）

e：切り出し型

エンド・スクレイパー

I類：素材の下縁のみに刃部を形成するもの

II類：素材の全周に対して1/2の縁辺に刃部加工を施すもの

III類：素材の全周もしくは3/4周程度に刃部を形成するもの

IV類：いわゆる「ラウンド・スクレイパー」と称されるもので、円形を呈するもの

サイド・スクレイパー

I類：素材の片側の縁辺に刃部加工を施すもの

II類：素材の両側の縁辺に刃部加工を施すもの

二次加工剥片

I類：縦長剥片を素材として使用するもの

II類：横長剥片を素材として使用するもの

III類：幅広の剥片を素材として使用するもの

使用痕剥片

I類：縦長剥片を素材として使用するもの

II類：横長剥片を素材として使用するもの

III類：幅広の剥片を使用するもの

石核

I類：単設打面を中心に剥片剥離作業が行われるもの

II類：打面転移を繰り返しながら剥片剥離作業が行われるもの

III類：石核縁辺を打面として剥片剥離作業を行うもの

磨石・敲石・磨石兼敲石

I類：素材の形状が扁平な円形もしくは楕円形をなすもの

II類：素材の形状が棒状をなすもの

石鏃

I類：正面観が正三角形を呈するもの

a：脚部が平基のもの

b：脚部が凹基のもの

II類：正面観が二等辺三角形を呈するもの

a：脚部が平基のもの

b：脚部が凹基のもの

III類：未製品

石斧

I類：打製

II類：磨製

本文目次

第I章 はじめに	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第II章 遺跡の環境	
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第III章 調査の経過と方針	
第1節 確認調査の概要	5
第2節 発掘調査の方法	5
第3節 整理作業及び報告書作成	7
第IV章 調査の概要	
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 後期旧石器時代の遺物	
(1) 遺物	10
第4節 縄文時代早期の遺構と遺物	
(1) 遺構	22
(2) 遺物	45
第5節 縄文時代後期・晩期の遺物	
(1) 遺物	55
第6節 その他の遺構・遺物	
(1) 遺構	61
(2) 遺物	61
第V章 まとめ	
集石遺構	
(1) 形態分類について	64
(2) 使用された礫について	64
遺物	66
まとめ	66

挿図目次

第1図 遺跡分布図	3	第21図 A区集石遺構実測図(2)	29
第2図 遺跡周辺地形図	4	第22図 A区集石遺構実測図(3)	30
第3図 確認調査トレンチ配置図	6	第23図 A区集石遺構実測図(4)	31
第4図 グリッド配置図	8	第24図 A区集石遺構実測図(5)	32
第5図 接合資料分布図(B区)	10	第25図 A区集石遺構実測図(6)	33
第6図 旧石器時代の遺物実測図(1)	12	第26図 A区集石遺構実測図(7)	34
第7図 旧石器時代の遺物実測図(2)	13	第27図 A区集石遺構実測図(8)	35
第8図 旧石器時代の遺物分布図(1)	14	第28図 A区集石遺構実測図(9)	36
第9図 旧石器時代の遺物分布図(2)	15	第29図 A区集石遺構実測図(10)	37
第10図 旧石器時代の遺物実測図(3)	16	第30図 A区集石遺構実測図(11)	38
第11図 旧石器時代の遺物実測図(4)	17	第31図 A区集石遺構実測図(12)	39
第12図 旧石器時代の遺物実測図(5)	18	第32図 B-1区集石遺構実測図(1)	40
第13図 VIII層出土遺物分布図(1)	19	第33図 B-1区集石遺構実測図(2)	41
第14図 VIII層出土遺物分布図(2)	20	第34図 B-1区集石遺構実測図(3)	42
第15図 VII層出土遺物分布図	21	第35図 B-2区集石遺構実測図(1)	43
第16図 A区地形図・遺構分布図		第36図 B-2区集石遺構実測図(2)	44
及び土層断面	24	第37図 B-2区集石遺構実測図(3)	45
第17図 集石遺構分布図(1)	25	第38図 縄文時代早期遺物分布図(1)	46
第18図 集石遺構分布図(2)	26	第39図 縄文時代早期遺物分布図(2)	47
第19図 集石遺構分類グラフ	27	第40図 縄文時代早期の遺物実測図(1)	48
第20図 A区集石遺構実測図(1)	28	第41図 縄文時代早期の遺物実測図(2)	49

第42図	縄文時代早期の遺物実測図（3）	50
第43図	縄文時代早期の遺物実測図（4）	51
第44図	縄文時代早期の遺物実測図（5）	52
第45図	縄文時代早期の遺物実測図（6）	53
第46図	縄文時代早期の遺物実測図（7）	54
第47図	縄文時代後・晩期遺物分布図	55
第48図	縄文時代後・晩期の遺物実測図（1）	56
第49図	縄文時代後・晩期の遺物実測図（2）	57
第50図	縄文時代後・晩期の遺物実測図（3）	58
第51図	その他の時代の遺物分布図	61
第52図	土坑実測図	62
第53図	その他の時代の遺物実測図	63
第54図	集石遺構礫重量分布図	67
第55図	集石遺構礫分析図（1）	68
第56図	集石遺構礫分析図（2）	69

図版9	出土遺物（3）：遺物No40、48、51、52、54～69	83
図版10	出土遺物（4）：遺物No70～87	84
図版11	出土遺物（5）：遺物No88～101	85
図版12	出土遺物（6）：遺物No102～119	86
図版13	出土遺物（7）：遺物No121～128、130～133 爆弾の尾翼部分	87

表目次

第1表	接合資料計測表	11
第2表	石器計測表（旧石器）	19
第3表	集石遺構一覧表	23
第4表	集石遺構分類表	42
第5表	土器観察表	49
第6表	石器計測表（縄文時代）	54
第7表	土器観察表	59
第8表	土器観察表	63
第9表	石器計測表①	70
第10表	石器計測表②	71

図版目次

図版1	遺跡遠景（北から） 調査区全景（南から）	75
図版2	A区散礫検出状況 B-1区散礫検出状況	76
図版3	A区散礫検出状況（北から） B-2区散礫検出状況（南から） SI1散礫検出状況（南から） B-1区集石遺構検出状況（北から）	77
図版4	SI3検出状況・完掘状況、SI4検出状況・完掘状況 SI40検出状況・完掘状況、SI1検出状況・完掘状況	78
図版5	SI15検出状況・SI2検出状況・配石検出状況・完掘状況、 SI9検出状況・配石検出状況、 SC3完掘状況	79
図版6	SC6半截状況、A区遺物出土状況 B-1区XI層状況、作業風景1・2	80
図版7	出土遺物（1）：接合資料1～4、遺物No15～24	81
図版8	出土遺物（2）：遺物No25～39、41～47、49、50	82

第 I 章 はじめに

第 1 節 調査に至る経緯

東九州自動車道（都農～西都間）は、平成元年 2 月に基本計画がなされ、平成 9 年 3 月には整備計画路線となった。さらに、平成 9 年 12 月に建設大臣から日本道路公団へ施行命令が出され、公団では翌年の 2 月から事業に着手している。その間、県教育委員会では、平成 6 年度に延岡～西都間の遺跡詳細分布調査を行い、それに基づき埋蔵文化財の保護について関係機関と協議を重ねた結果、工事施工によって影響が出る部分については工事着手前に発掘調査を実施することとなった。調査は平成 11 年度から日本道路公団の委託を受け、宮崎県埋蔵文化財センターで行っている。

藤山第 1 遺跡は児湯郡新富町大字新田字綿内の工事区内にある。平成 13 年 11 月 1 日～11 月 20 日に確認調査を実施した。調査対象地のうち、国の所有地を平成 14 年 6 月 3 日～7 月 15 日に一次調査として調査した。残りの調査対象地は、平成 16 年 6 月 7 日～6 月 29 日に確認調査を実施した。確認調査の結果、調査対象地を広げて平成 16 年 7 月 13 日～9 月 24 日まで第二次調査を実施することになった。

第 2 節 調査の組織

藤山第 1 遺跡の調査組織を次に示す。

調査主体 宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

所 長

矢野 剛（平成 13 年度）

米良 弘康（平成 14・15 年度）

宮園 淳一（平成 16・17 年度）

清野 勉（平成 18 年度）

副所長兼総務課長

菊池 茂仁（平成 13 年度）

大藪 和博（平成 14～16 年度）

副所長

加藤 悟郎（平成 18 年度）

副所長兼調査第二課長

岩永 哲夫（平成 13～18 年度）

総務課長

宮越 尊（平成 17・18 年度）

総務係長

亀井 維子（平成 13 年度）

野邊 文博（平成 14 年度）

主幹兼総務係長

石川 恵史（平成 15～17 年度）

主幹兼総務担当リーダー

高山 正信（平成 18 年度）

調査第一課長

面高 哲郎（平成 13 年度）

児玉 章則（平成 14・15 年度）

高山 富雄（平成 16～18 年度）

調査第一係長

谷口 武範（平成 13～16 年度）

主幹兼調査第一係長

長津 宗重（平成 17 年度）

主幹兼調査第一担当リーダー

長津 宗重（平成 18 年度）

調査第二係長

長津 宗重（平成 13～15 年度）

主幹兼調査第二係長

長津 宗重（平成 16 年度）

主幹兼調査第二係長

菅付 和樹（平成 17 年度）

主幹兼調査第二担当リーダー

菅付 和樹（平成 18 年度）

一次確認調査担当（平成 13 年度）

主査 戌亥 浩志

一次調査担当（平成 14 年度）

主任主事 小山 博

調査員 小宇都 あずさ

二次確認・調査担当（平成 16 年度）

主査 小山 博

主事 渡辺 美幸

調査協力

一ツ瀬土地改良区

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

藤山第1遺跡は、新富町大字新田字綿内に所在する。新富町は、宮崎平野のやや中央寄りの沿岸部にあり、洪積台地が大部分を占める。北部には茶臼原台地、三財原台地、新田原台地と丘陵が広がり、南部には一ツ瀬川の低地が広がる。

本遺跡は、新田原台地の南西部の台地縁辺部に広がる丘陵と藤山川流域沿いの低位段丘面に位置する。本遺跡の周辺に広がる台地は小河川による浸食を受けており、開析谷が広がっていたとみられるが、採石やため池の建設などによって、地形は改変されている。

第2節 歴史的環境

本遺跡では、旧石器時代の遺物が確認され、縄文時代早期の遺構・遺物が検出・確認された。また、弥生時代の遺物も確認された。そこで、遺跡周辺の同時期の遺跡について概観する。

1 旧石器時代

新富町内では、新田原台地の北西端に位置する畦原地区で大野寅夫氏が「畦原型細石核」を表採している。この細石核は南九州の一部に限定して分布するという、地域性のきわめて強いものである。

また、新田原台地上の溜水遺跡、銀代ヶ迫遺跡などでは、ナイフ形石器や角錐状石器・細石刃・スクレイパー等が出土している。

東九州自動車道建設に伴う発掘調査でも、新富町内の遺跡では旧石器時代の遺構や遺物が確認されている。

2 縄文時代

新富町内におけるこの時期の代表的な遺跡は、新田原段丘面の西南端の春日地区に所在する瀬戸口遺跡である。標高約70mの台地縁辺部にあり、集石遺構23基を検出し、縄文時代草創期の隆起線文土器、早期の押型文・貝殻条痕文土器、石鏃・石斧・石錘・磨石等の石器などが出土している。

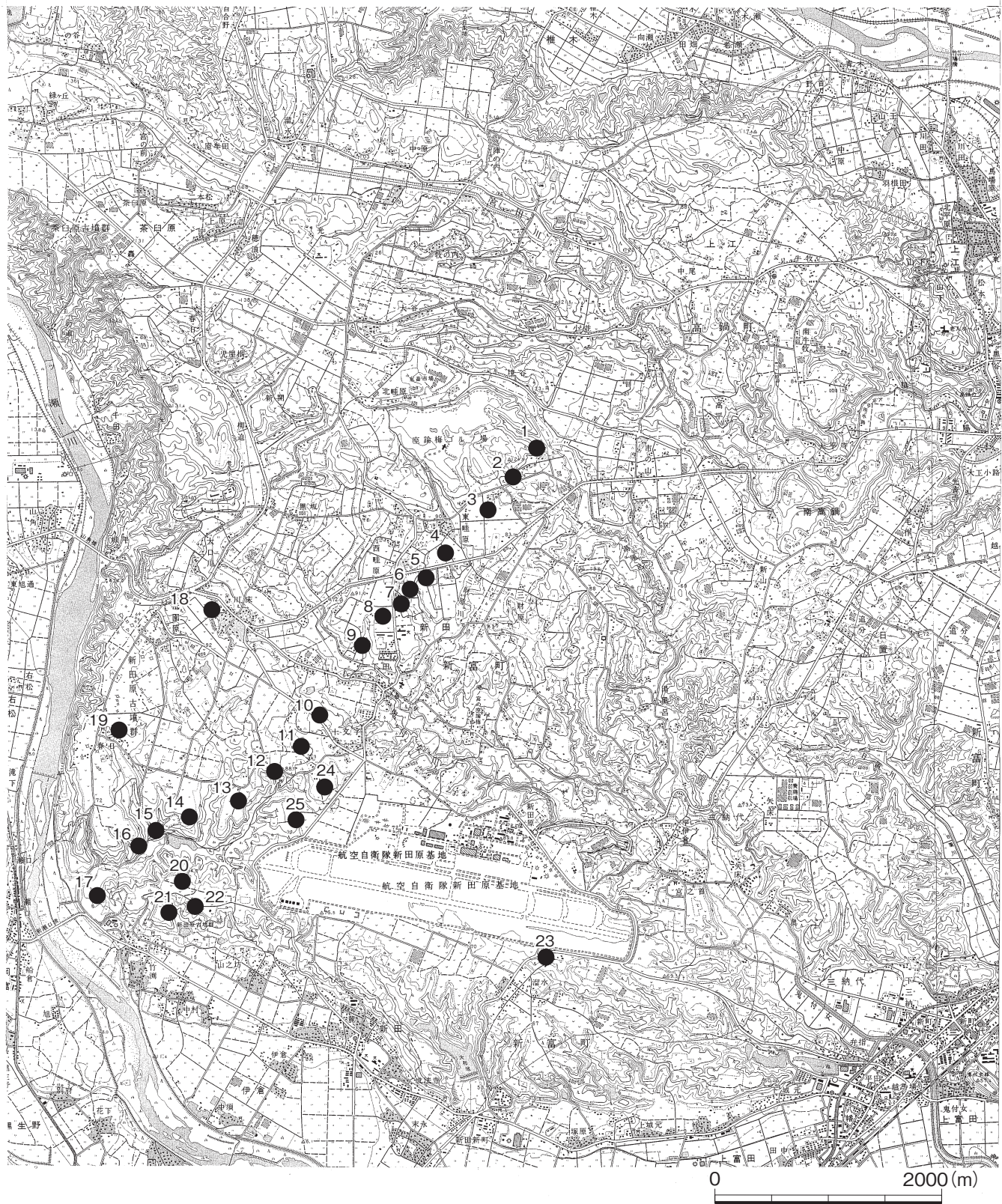
また、新田原段丘面最南端に位置する八幡上遺跡や七又木遺跡、銀代ヶ迫遺跡でも縄文時代早期の集石遺構が検出され、同時期の遺物が出土している。

東九州自動車道関連の調査でも、同様の成果が確認されている。本遺跡に近い藤山第2遺跡と向原第1遺跡でも、集石遺構と同時期の遺物が出土している。本遺跡の北東に位置する尾小原遺跡(三次調査)では、尾根上に散礫が広がりその下から集石遺構を65基、炉穴を7基検出しており、押型文土器や条痕文土器などが出土している。その他に、勘大寺遺跡、上新開遺跡、西畦原第1遺跡(二・三次)、西畦原第2遺跡、東畦原第1遺跡(三・四次)、東畦原第3遺跡、音明寺第1遺跡でも集石遺構が検出されている。

3 弥生時代

新富町内のこの時代の遺跡としては、鬼付女川と日置川の間を南東に延びる標高約60mの洪積台地南端に立地する鐙遺跡がある。調査の結果、弥生時代中期前半の竪穴住居跡2軒とV字溝が一条検出された。弥生時代後期の遺跡として、新田原台地を大きく刻んだ藤山川の上流の谷に位置する新田原遺跡がある。新田原遺跡では、花卉状住居跡を始めとする住居跡や弥生土器が出土している。また、鬼付女川の西側、鬼付女川のほとりにあたりわずかに高くなった砂丘状に位置する鬼付女西遺跡でも、後期の竪穴住居跡と周溝状遺構が検出され、同時代の遺物も出土している。鬼付女西遺跡の約20mの鬼付女川上流に菌田遺跡が位置する。菌田遺跡でも後期の竪穴住居跡が検出され、銀代ヶ迫遺跡でも後期中葉の竪穴住居跡が検出され同時代の土器が出土している。

東九州自動車道関連の遺跡でも、同時代の遺構や遺物が確認されている。本遺跡で出土した突帯文土器が出土している遺跡は、本遺跡の周辺に位置する向原第1遺跡、藤山第2遺跡で出土している。他に尾小原遺跡(二次)、永牟田第1遺跡、西畦原第1遺跡、西畦原第2遺跡D区でも出土している。



- | | | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|------------|------------|
| 1. 音明寺第1遺跡 | 2. 音明寺第2遺跡 | 3. 東畦原第1遺跡 | 4. 東畦原第2遺跡 | 5. 東畦原第3遺跡 |
| 6. 西畦原第1遺跡 | 7. 西畦原第2遺跡 (三次) | 8. 西畦原第2遺跡 (二次) | 9. 上新開遺跡 | 10. 勘大寺遺跡 |
| 11. 永牟田第1遺跡 | 12. 永牟田第2遺跡 | 13. 尾小原遺跡 | 14. 向原第1遺跡 | 15. 藤山第1遺跡 |
| 16. 藤山第2遺跡 | 17. 宮ノ東遺跡 | 18. 川床遺跡 | 19. 瀬戸口遺跡 | 20. 八幡上遺跡 |
| 21. 銀代ヶ迫遺跡 | 22. 七又木遺跡 | 23. 溜水遺跡 | 24. 新田原A遺跡 | 25. 新田原B遺跡 |

第1図 遺跡分布図 (1/50,000)



第2図 周辺地形図〈S=1/4,000〉 0 200m

【参考文献】

『新富町史』通史編、新富町、1992年

『新富町史』資料編、新富町、1992年

『新富町の埋蔵文化財 遺跡詳細分布調査報告書』

新富町、1982年

『西畦原第1遺跡 西畦原第2遺跡D区』（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第82集）宮崎県埋蔵文化財センター、2004年

『東畦原第3遺跡』（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第87集）宮崎県埋蔵文化財センター、2004年

『藤山第2遺跡』（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第95集）宮崎県埋蔵文化財センター、2004年

『西畦原第2遺跡（第一次調査）』（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第106集、宮崎県埋蔵文化財センター、2004年

『音明寺第1遺跡』（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第102集）宮崎県埋蔵文化財センター、2004年

『永牟田第1遺跡』（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第114集）宮崎県埋蔵文化財センター、2005年

『向原第1遺跡』（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第119集）宮崎県埋蔵文化財センター、2006年

『上新開遺跡』（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第129集）宮崎県埋蔵文化財センター、2006年

『東九州自動車道（都農～西都間）』関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書VI』（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第131集）宮崎県埋蔵文化財センター、2006年

第Ⅲ章 調査の経過と方針

第1節 確認調査の概要

調査対象地には、国の所有地と個人の所有する住宅地と畑があり、住宅地は移転が終了するのが平成16年度の予定であった。最初に国有地である畑で、平成13年11月1日～11月20日にかけて確認調査を実施した（一次確認調査）。3m×3mのトレンチを3本、3m×5mのトレンチを1本の合計4本のトレンチを入れたところ、集石遺構を1基と、古墳時代と縄文時代の遺物が確認された。この結果を受けて、翌平成14年度に国の所有地である畑を発掘調査することになった（一次発掘調査）。

平成16年度に住宅などの移転が終了したので、平成16年6月7日～6月29日の期間に、残りの対象地の確認調査を実施した（二次確認調査）。この確認調査では、一次確認調査で確認された土器は遺構内からの出土ではなく、北側の丘陵からの流れ込みの可能性が高かったので、牧場として利用されていた丘陵を加えて確認調査を実施した。それぞれにトレンチを設定し作業員による掘り下げを実施したところ、剥片などの遺物や集石遺構の一部と見られる焼けた礫などが確認された。この結果を受けて、翌月に発掘調査を実施することとなった（第二次発掘調査）。

1 一次確認調査の概要

国の所有地である土地は、牧草地として利用されていた。この土地に3m×3mのトレンチを3本と3m×5mのトレンチを1本、合計4本のトレンチを設定した。掘り下げを実施したところ、1箇所のトレンチより散礫を確認し、集石遺構を1基検出した。また、別のトレンチからは古墳時代と縄文時代の土器片などの遺物が出土した。3m×5mのトレンチの一部を深掘りし、基盤層である宮崎層群やその上部の堆積層である砂礫層を確認した。

調査結果から、調査区の北東側を発掘調査することになった。

2 二次確認調査の概要

住居などの移転が終了した平成16年度に、本調査に先立ち確認調査を実施した。一次調査で調査した畑の部分を除いた畑地に、丘陵を加えた箇所を確認調査した。一次調査では、縄文時代後期と古墳時代の土器が出土しており、出土状況から流れ込みと考えられたので、北側の丘陵も確認調査の対象地として範囲を広げた。一次調査で調査した部分を除く畑地に4本と道路をはさんだ畑地に3本、丘陵の頂上部に4本、緩やかに傾斜している尾根に4本の合計15本のトレンチをそれぞれ設定し、作業員の手掘りで掘り下げを行った。一次調査をした畑と道路をはさんだ畑地からは遺物などは確認されず、他のトレンチからは集石遺構の礫とみられる焼けた礫や石器の剥片などが確認された。

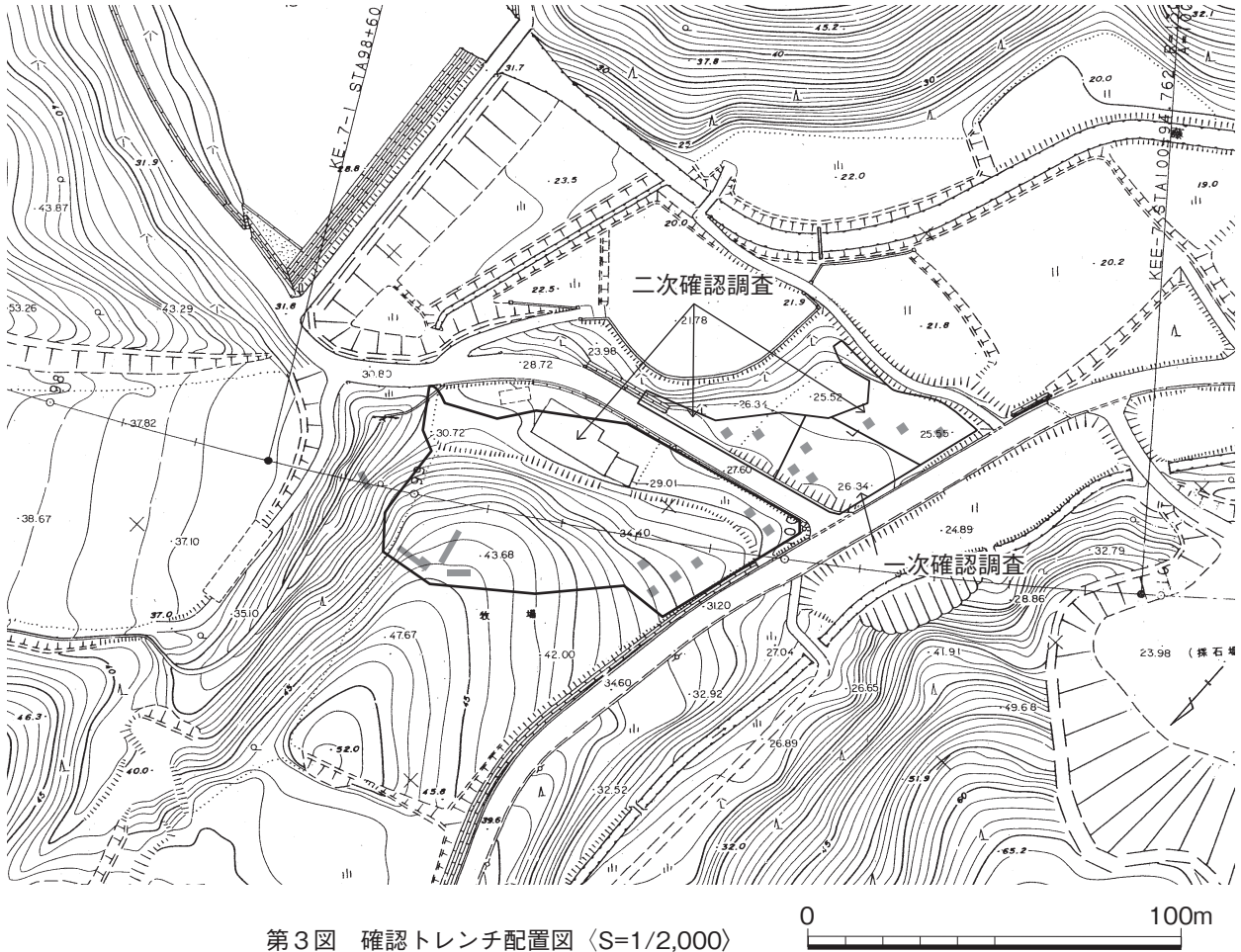
この結果、一次調査を実施した畑地と道路をはさんで位置する畑地は除外し、北側の丘陵を加えた範囲を本調査することになった。

第2節 発掘調査の方法

1 調査の方法と調査区の設定・調査の手順

平成14年度に国の所有地である畑を第一次発掘調査として調査した。第一次確認調査で確認されたアカホヤ火山灰層の残存する箇所を調査対象地とした。また、集石遺構を確認したトレンチを広げながら他に集石遺構がないか確認した。表土は重機で剥ぎ、後は作業員による掘り下げを行った。旧地権者の来訪があり、戦後一時期までは畑地はもともと住宅地として使用されていたことを聞いた。調査区からは宅地の礎石やサイロ跡とみられる円形のコンクリートの塊などが検出され、かつて住宅地であったことが確認された。

平成16年度には、残りの調査区と当初調査対象外であった丘陵を加えた箇所を二次調査として発掘調査した。重機による表土剥ぎを実施した後、作業員による掘り下げを順次実施した。平坦部の畑地にはアカホヤ火山灰層が残存していた。丘陵は小林軽石を伴う褐色ロームが残存していた。掘り下げを行っ



第3図 確認トレンチ配置図 (S=1/2,000)

たところ、散礫に伴う礫が検出され、散礫を取りはずした後、集石遺構を検出した。丘陵の緩やかに傾斜する尾根部は牧草を重機で剥いだ時点で焼けた礫が検出された。

2 調査報告会

平成17年7月9日に、東九州自動車道（都農～西都間）関連の新富町内の遺跡と、新富町教育委員会が発掘調査中の百足塚古墳の合同報告会を新富町文化会館で実施した。106名の参加があった。

3 日誌抄

【第一次発掘調査】

○平成14年6月

3日にプレハブなどの搬入を行う。4日重機による表土剥ぎを実施する。5日より作業員によるジョレンかけを行い、遺構の検出作業を行う。調査区はもともと宅地として利用されていたことから、廃材

や家屋の基礎とみられるコンクリート片が確認される。そこで、一次確認調査でトレンチを入れていない箇所を中心にトレンチを数本入れて攪乱されていない箇所を絞り込み、掘り下げることとする。10日より調査区を絞り込み掘り下げを実施する。掘り下げとともに土器などの遺物が出土する。25日アカホヤ火山灰層の直上まで掘り下げ終了。26日からアカホヤ火山灰層の掘り下げを行う。

○平成14年7月

3日より確認調査で集石遺構を検出したトレンチを中心に周囲を掘り下げ、礫の広がりを確認する。8日より集石遺構の検出作業と同時にアカホヤ火山灰層下の層の掘り下げを行う。11日散礫の範囲を確定し、散礫の礫の取り外しを行う。12日より集石遺構の実測を行う。17日集石遺構の実測終了。18日埋め戻しを実施し、調査を終了する。

【第二次発掘調査】

○平成16年7月

12日重機業者と打ち合わせを行う。宅地跡を排土置き場にするために、13日より排土置き場の整備を行う。20日より重機による表土剥ぎを実施する。21日より重機による表土剥ぎを行いながら、作業員によるジョレンかけを行う。26日より畑部分と丘陵部分に分かれて作業を行う。丘陵部では焼けた礫を検出する。

○平成16年8月

2日より小林軽石を含む褐色土までの掘り下げを行う。9日畑部で集石遺構を検出する。12日丘陵の頂上部で散礫と思われる礫の検出作業を行う。

○平成16年9月

1日畑部でアカホヤ火山灰層の掘り下げ中に第二次世界大戦中の米軍の爆弾と思われる尾翼部分を発見。高鍋警察署、県警察署による爆弾の撤去を行う。爆弾は尾翼のみであり、弾頭は発見されなかった。新富町役場と対応を協議する。爆弾の尾翼を発見した箇所の掘り下げは、安全上問題があるので掘り下げず終了する。2日より集石遺構の実測を開始する。24日集石遺構の実測を終了する。現場事務所などの撤去を行う。

○平成16年10月

1日集石遺構の礫を東畦原整理作業事務所に搬出する。調査終了する。



爆弾撤去作業（高鍋警察署）

第3節 整理作業及び報告書作成

1 整理の方針・方法

本遺跡で発掘された資料の整理作業は、平成16年11月より、遺物等については本センターで整理作業を開始し、新富町大字新田字下迫口所在の東畦原整理作業事務所では集石遺構の礫の整理を実施した。

本センターでの整理作業は、平成16年11月から翌平成17年3月までに水洗、注記を行い、石器の計測、石材の分類を実施し、石器の接合作業を実施した後、土器の接合作業を実施した。

東畦原整理作業事務所では、二次調査で検出した集石遺構の礫の整理を実施した。平成16年11月から翌平成17年5月まで礫の洗浄、注記、計測を行った。計測は、礫の計測値と石材・赤化の有無などの記録をとった。

石器の接合作業終了後には、石器実測委託を平成17年10月に行った。

平成18年4月より、土器の実測と礫データの入力作業を実施する。

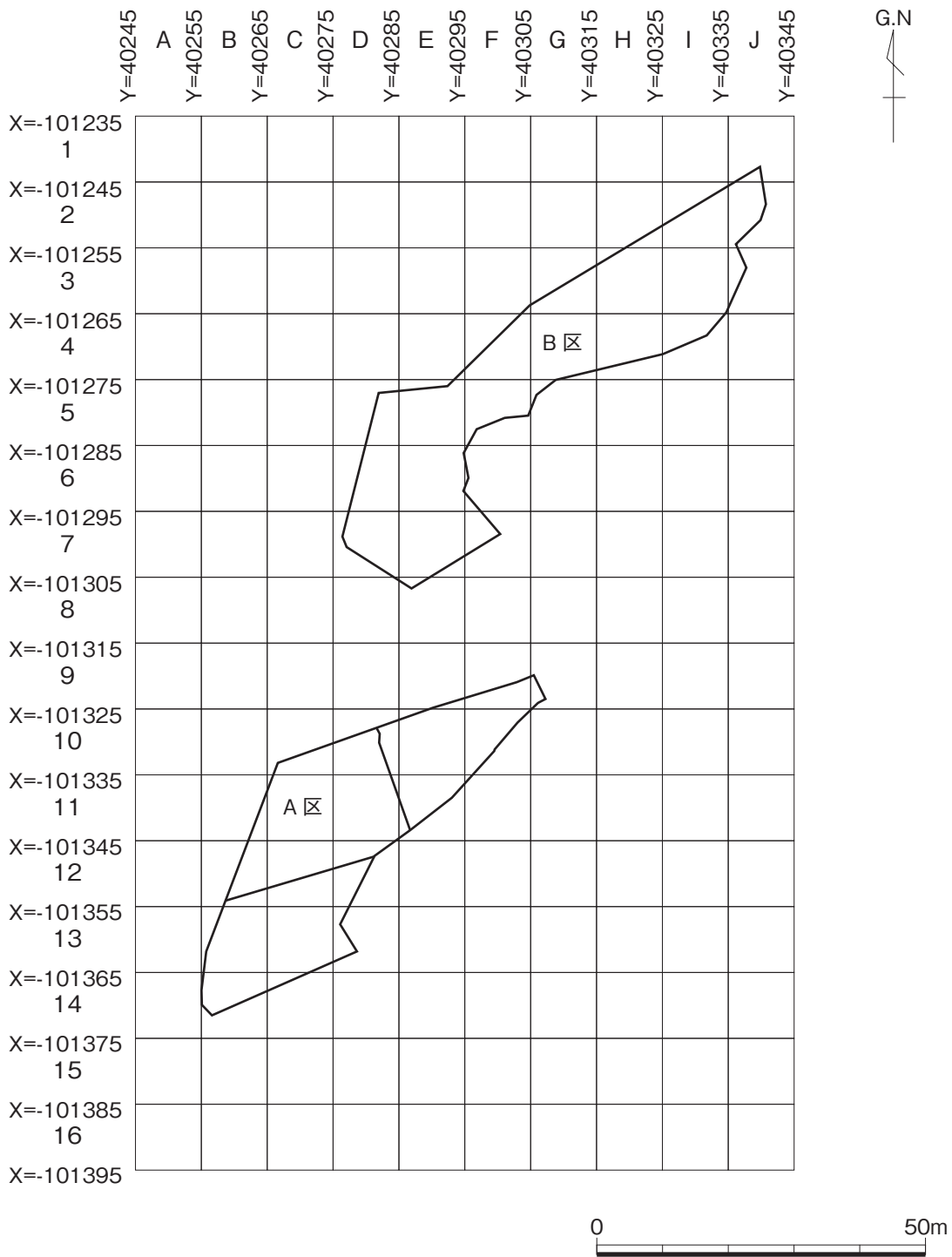
2 報告書作成の方針・方法

報告書作成について、遺物の整理作業の進捗に合わせて礫や遺物のデータの整理を順次行った。平成18年4月より遺構・遺物の実測図やトレース図等の作成と点検、報告書レイアウトと文章作成等を随時行った。

3 整理作業・報告書作成作業工程の実際

東畦原整理作業事務所平成16年11月1日より礫の整理を開始する。礫の水洗・注記・計測・データ入力の作業を実施する。平成17年5月に作業が終了する。

本館での作業は、平成16年11月から平成17年3月まで水洗・注記・接合・計測の作業を実施した。平成18年4月から土器の実測作業を開始し、平成18年8月に終了する。



第4図 グリッド配置図 〈S=1/1,000〉

平成17年10月11日から平成18年1月17日までに大成エンジニアリング株式会社に石器実測を委託する。

平成18年4月より報告書作成を開始する。

第Ⅳ章 調査の概要

第1節 調査の概要

本遺跡の調査では、後期旧石器時代の遺物と縄文時代早期の遺構と遺物、縄文時代後期と弥生時代、古墳時代の遺物が出土した。

後期旧石器時代の遺物は、小林軽石（Kr-Kb）を含む褐色ローム層中から出土している。また、始良Tn火山灰（AT）の降灰は、B2区の一部で確認できたが、他では確認されなかった。地形が丘陵であり、遺物が流れ込んだりしている可能性もあるので、層位的に時代を明確化するのは困難である。

縄文時代早期の遺構としては、集石遺構が42基検出された。いずれもアカホヤ火山灰層（K-Ah）の下の小林軽石（Kr-Kb）を含む褐色ローム層中から検出された。集石遺構は丘陵の頂上部（B1区）で13基、丘陵の緩やかな尾根部（B2区）で10基、平坦地の畑地（A区）で19基検出された。丘陵の頂上部で検出された集石遺構には土器は出土しておらず上部の散礫中から貝殻条痕文土器が出土している。丘陵の尾根部と平坦部で検出された集石遺構からは、押型文土器が出土している。出土した土器が異なることより時期的な違いが窺える。

平坦部の畑地（A区）の旧地形は、谷地形とみられ、その落ち込み部分と見られる箇所が縄文時代後期と弥生時代の遺物が出土している。また、I層の黒色土が一部残存しており、古墳時代の遺物が出土している。

二次調査では、A区の東側の調査区でアカホヤ火山灰層（K-Ah）が残存していることが確認された。上層の掘り下げが終了し、アカホヤ火山灰層（K-Ah）を作業員によって掘り下げていたときに、第二次世界大戦中の米軍の爆弾と思われる尾翼を確認した。アカホヤ火山灰層に爆弾が突き刺さった状態であり爆発していなかった。高鍋警察署と新富町役場に連絡し、宮崎県警察本部と高鍋警察署の生活安全課の職員によって爆弾の撤去を行ったが、尾翼部分のみで爆弾の弾頭部分は確認されなかった。宮崎県警察本部の生活安全課の職員が金属探知器を使用して探査を行なったが発見されなかった。作業員の安全の

ため、この箇所でのアカホヤ火山灰層の掘り下げを中止することにした。

第2節 基本層序（第16図）

本遺跡で確認された層序は、概ね下記の基本層序に集約される。畑地では一部I層の黒色土が残っており、IV層のK-Ahから残存していた。丘陵部は牧場として整地されたためにⅧ層のKr-Kbを含む褐色ロームから残存していた。Ⅷ層より下は、Ⅸ層のATが確認されたB2区を除いて、すべて礫層である。

基本層序は以下に示すとおりである。

表 土

第I層；黒色土

第II層；明黄褐色ローム

第III層；暗褐色ローム

第IV層；アカホヤ火山灰層（K-Ah）

第V層；黒褐色ローム（MB0）

第VI層；暗褐色ローム

第VII層；明褐色ローム（ML1）

第VIII層；小林軽石（Kr-Kb）を含む褐色ローム

第IX層；始良Tn（AT）

第X層；明黄褐色ローム

第XI層；礫層

第3節 後期旧石器時代の遺物

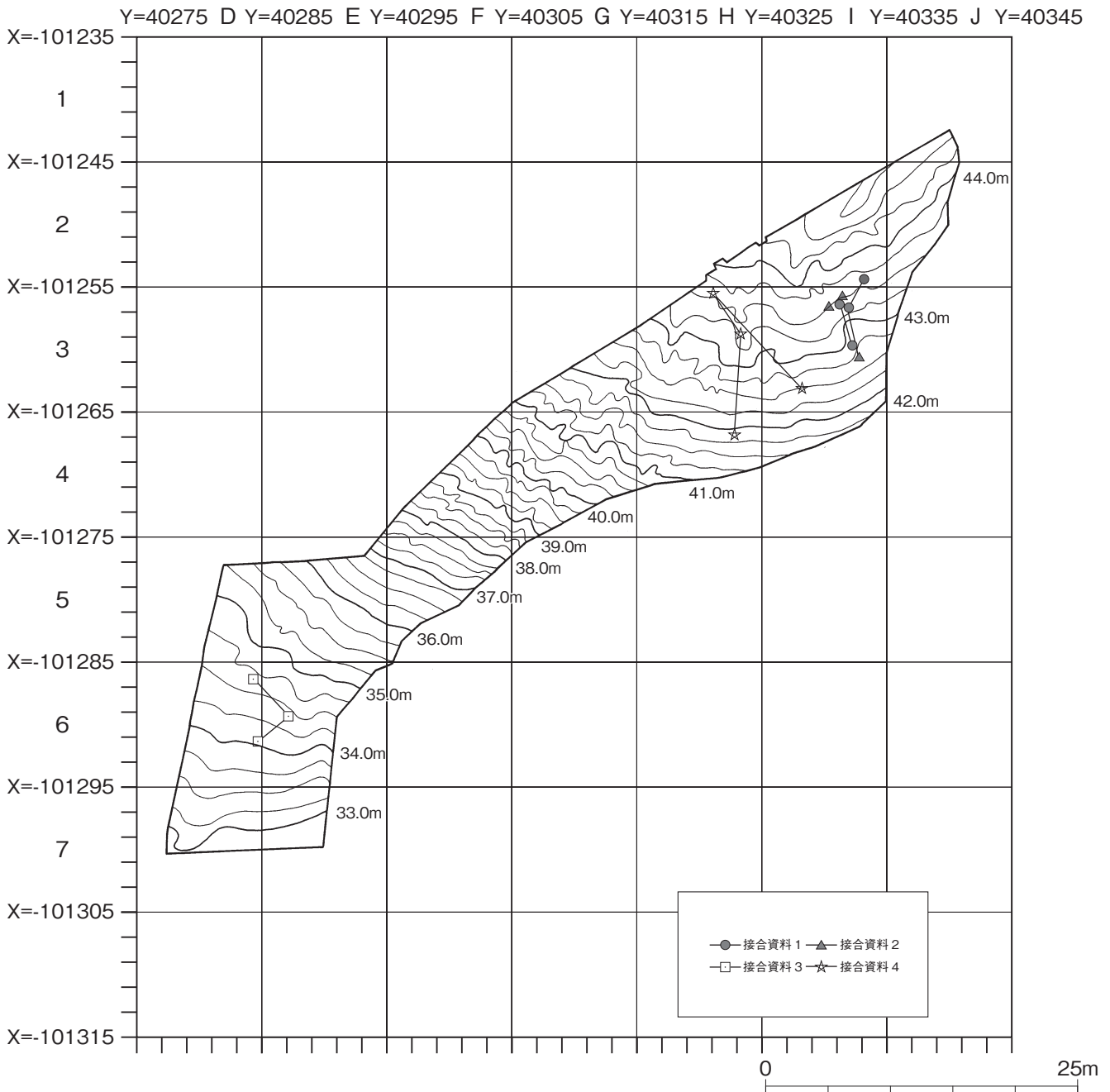
(1) 遺物

後期旧石器時代の遺物は主にⅧ層から出土している。丘陵部の一段低くなった緩やかな斜面であるB2区では、部分的にATを確認できたが、その他の箇所では確認できなかった。丘陵という地形であり流れ込みなどの可能性も高いので、層位的には時代を明確化できない。遺物が出土したⅧ層の小林軽石を含む褐色ロームは、後期旧石器時代と縄文時代の包含層である。丘陵という傾斜地である地形的な状況もあり、接合資料を旧石器時代とするには不安がある。接合資料を観察すると、幅広で不定形な剥片

が剥離されていること、石核の形態的特徴が剥片剥離技術を考慮して、旧石器時代の特徴を反映していること、石材もホルンフェルス・砂岩・流紋岩などを中心に利用していることから、旧石器時代の遺物と判断している。また製品などの石器は、主に器種で旧石器時代と判断している。

【接合資料】

接合資料は丘陵の頂上部であるB1区と緩やかに傾斜している尾根部であるB2区のⅧ層から出土している（第5図）。



第5図 接合資料分布図 (B区) 〈S=1/500〉

接合資料1 (第6図)

B1区のⅧ層出土の剥片4点が接合している。石材はホルンフェルスである。剥離順序は1→4→3→2で剥片剥離が行われている。

接合資料2 (第6図)

B1区のⅧ層出土の石核1点と剥片2点の合計3点が接合している。石材は流紋岩である。打面転移を繰り返し剥片剥離作業を行っている。剥離順序は7→6で、5は剥片剥離の行われた残核とみられる。

接合資料3 (第7図)

B2区のⅧ層出土の石核1点と剥片2点の合計3点が接合している。石材はホルンフェルスである。単設打面により剥片剥離作業を行っている。剥離順序は10→9で、8は剥片剥離の行われた残核とみられる。

接合資料4 (第7図)

B2区のⅧ層出土の剥片4点が接合している。石材はホルンフェルスである。剥離順序は14→13で、11は何らかのアクシデントにより割れたものとみられる。

第1表 接合資料計測表

接合資料1

レイアウトNo.	調査区	Gr.	層	取上げNo.	石材	X座標	Y座標	Z座標	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
接合資料1	B		Ⅷ						接合資料	10.55	10.55	6.4	280.7	
1	B1	I4	Ⅷ	5547	ホルンフェルス	-101,254.550	40,333.248	41.484	剥片	5.2	7.3	2.3	56.8	
2	B1	I3	Ⅷ	5550	ホルンフェルス	-101,256.856	40,332.025	42.061	剥片	5.5	4.1	1.75	32.1	
3	B1	I3	Ⅷ	5551	ホルンフェルス	-101,256.593	40,331.408	42.122	剥片	5.8	7.2	2.3	72.5	
4	B1	I3	Ⅷ	5899	ホルンフェルス	-101,259.887	40,332.371	42.478	剥片	9.35	7	1.7	118.5	

接合資料2

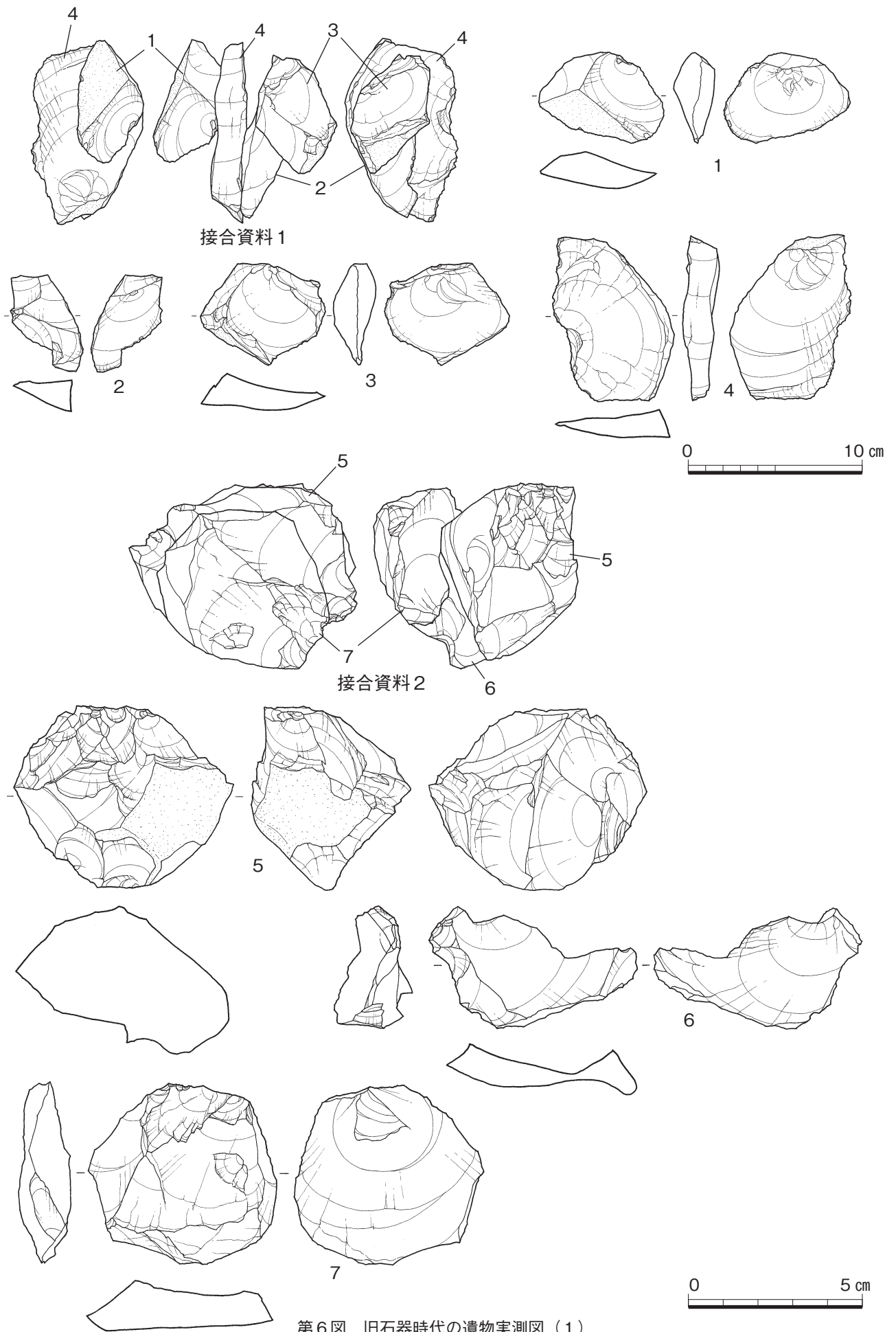
レイアウトNo.	調査区	Gr.	層	取上げNo.	石材	X座標	Y座標	Z座標	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
接合資料2	B		Ⅷ						接合資料	6.4	5.4	-	180.2	
5	B1	I3	Ⅷ	5552	流紋岩	-101,256.712	40,330.484	42.221	石核	5.2	6.3	4.65	115.8	残核
6	B1	I3	Ⅷ	5549	流紋岩	-101,256.041	40,331.603	41.991	剥片	3.5	6	2.1	22.7	
7	B1	I3	Ⅷ	5895	流紋岩	-101,260.619	40,332.856	42.271	剥片	5.2	5.45	1.5	41.6	

接合資料3

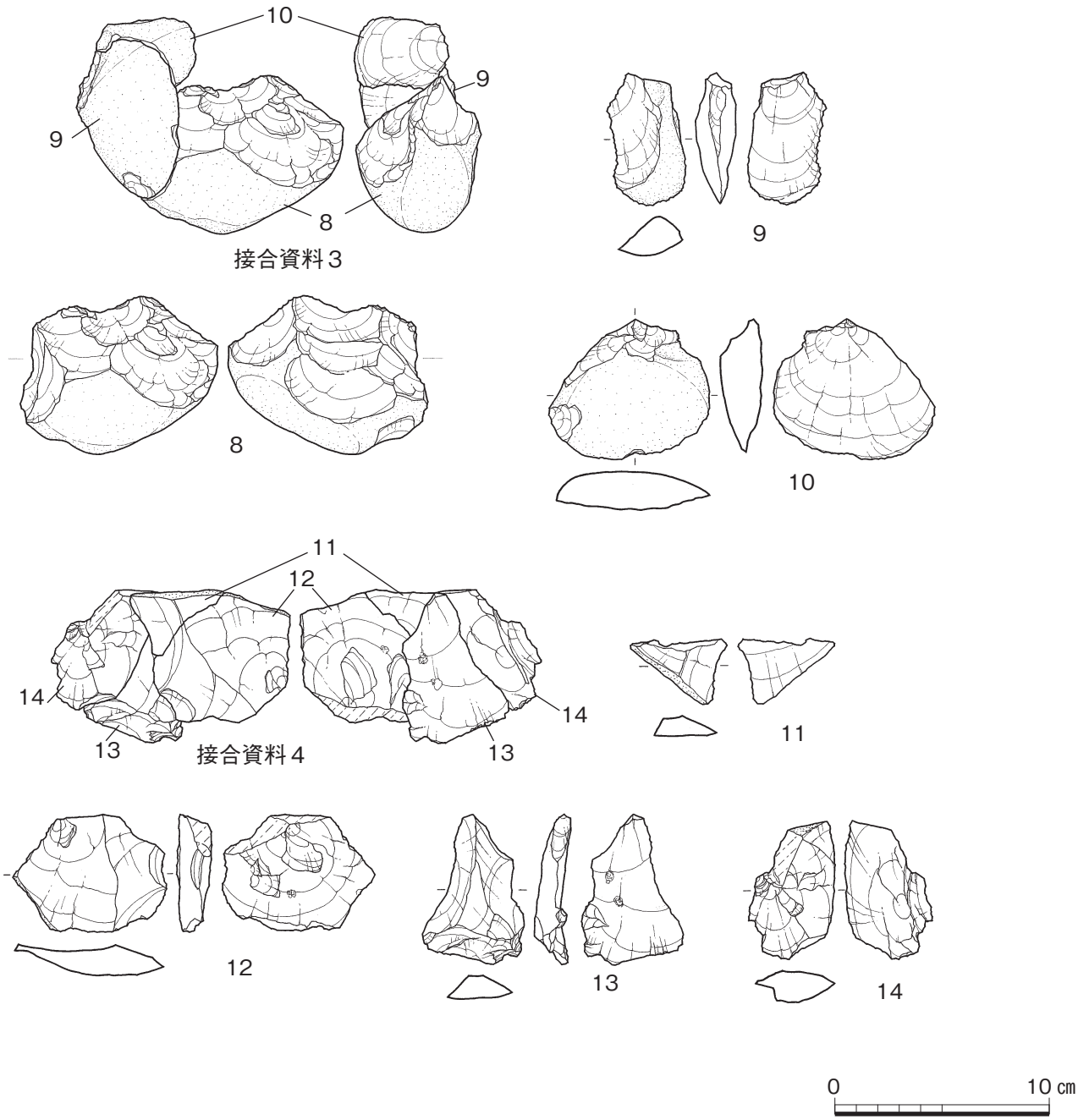
レイアウトNo.	調査区	Gr.	層	取上げNo.	石材	X座標	Y座標	Z座標	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
接合資料3	B		Ⅷ						接合資料	10.05	12.5	5.9	548.3	
8	B2	D6	Ⅷ	5669	ホルンフェルス	-101,286.401	40,284.328	33.809	石核	9.3	7.1	5.6	414.3	残核
9	B2	D6	Ⅷ	5442	ホルンフェルス	-101,289.476	40,287.251	33.972	剥片	6.1	3.7	1.35	37.2	
10	B2	D6	Ⅷ	5948	ホルンフェルス	-101,291.492	40,284.833	33.965	剥片	6.5	7.55	1.8	96.9	

接合資料4

レイアウトNo.	調査区	Gr.	層	取上げNo.	石材	X座標	Y座標	Z座標	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
接合資料4	B		Ⅷ						接合資料	7.1	11.2	-	141.7	
11	B1	I3	Ⅷ	5891	ホルンフェルス	-101,263.219	40,328.304	42.355	剥片	6.4	4.05	1.5	38.3	
12	B1	I2	Ⅷ	5978	ホルンフェルス	-101,255.662	40,321.173	42.124	剥片	5.45	7.15	1.5	56.1	
13	B1	H3	Ⅷ	5984	ホルンフェルス	-101,258.884	40,323.374	43.655	剥片	3	4.5	0.95	35.8	
14	B1	H4	Ⅷ	21903	ホルンフェルス	-101,267.000	40,322.940	41.797	剥片	6.95	4.75	1.3	37.8	



第6図 旧石器時代の遺物実測図(1)



第7図 旧石器時代の遺物実測図(2)

【石器】（第10図～第12図、第15図～第39図）

15～22はナイフ形石器である。15～20はⅠ類であり、15・16はⅡ類aに分類され、基部を加工している。石材は15は頁岩で16は流紋岩である。17～20はⅡ類cに分類される。17～19の石材はチャート、20の石材は黒曜石であり、スクレイパーの可能性もある。19・20は下部を欠損している。21・22はⅡ類aに分類され、基部を加工している。石材はいずれも頁岩である。

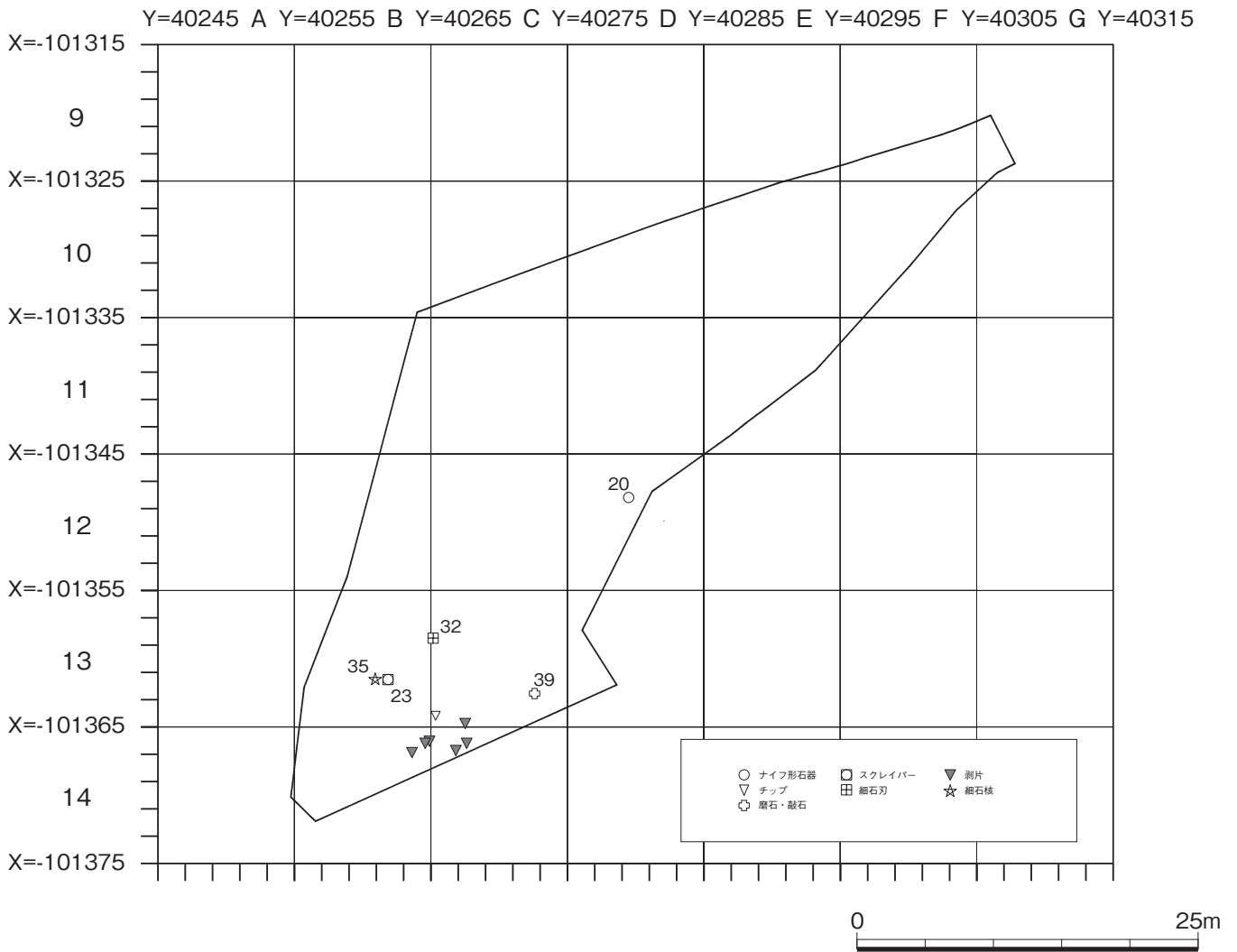
23～24はスクレイパーである。23はサイド・スクレイパーでⅠ類であり、石材は大分県姫島産の黒曜石である。24はエンド・スクレイパーでⅡ類であり、石材はチャートである。

8・25～28は石核である。8は接合資料3を構成する石核であり、Ⅰ類に分類される。25は石材は流紋岩でⅡ類に分類される。26・27はⅢ類に分類される。26の石材はホルンフェルス、27の石材は流紋岩である。28はⅢ類に分類され、石材は流紋岩である。

29～31は使用痕剥片である。いずれも縦長剥片を素材としておりⅠ類に分類される。石材はいずれも流紋岩である。

32～34は細石刃である。石材は32はホルンフェルスであり、33・34は黒曜石である。いずれも下部が欠損している。

35は細石刃核である。石材は黒曜石である。黒曜石の剥片を調整して素材とし、その一定部位に一定



第8図 旧石器時代の遺物分布図(1) (A区) (S=1/500)

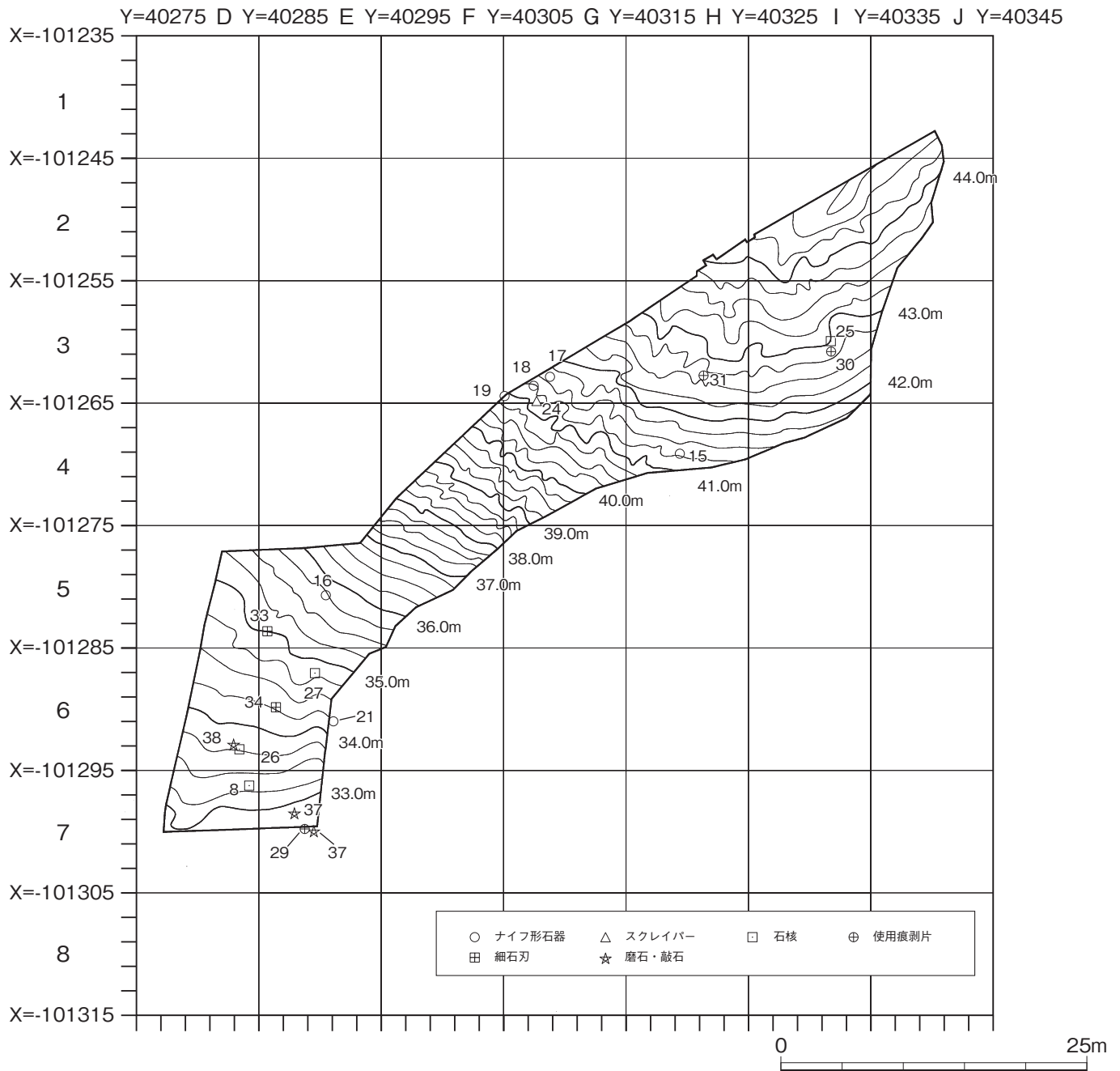
方向の剥片剥離を行っている。

36は敲石である。石材は砂岩でⅡ類に分類される。

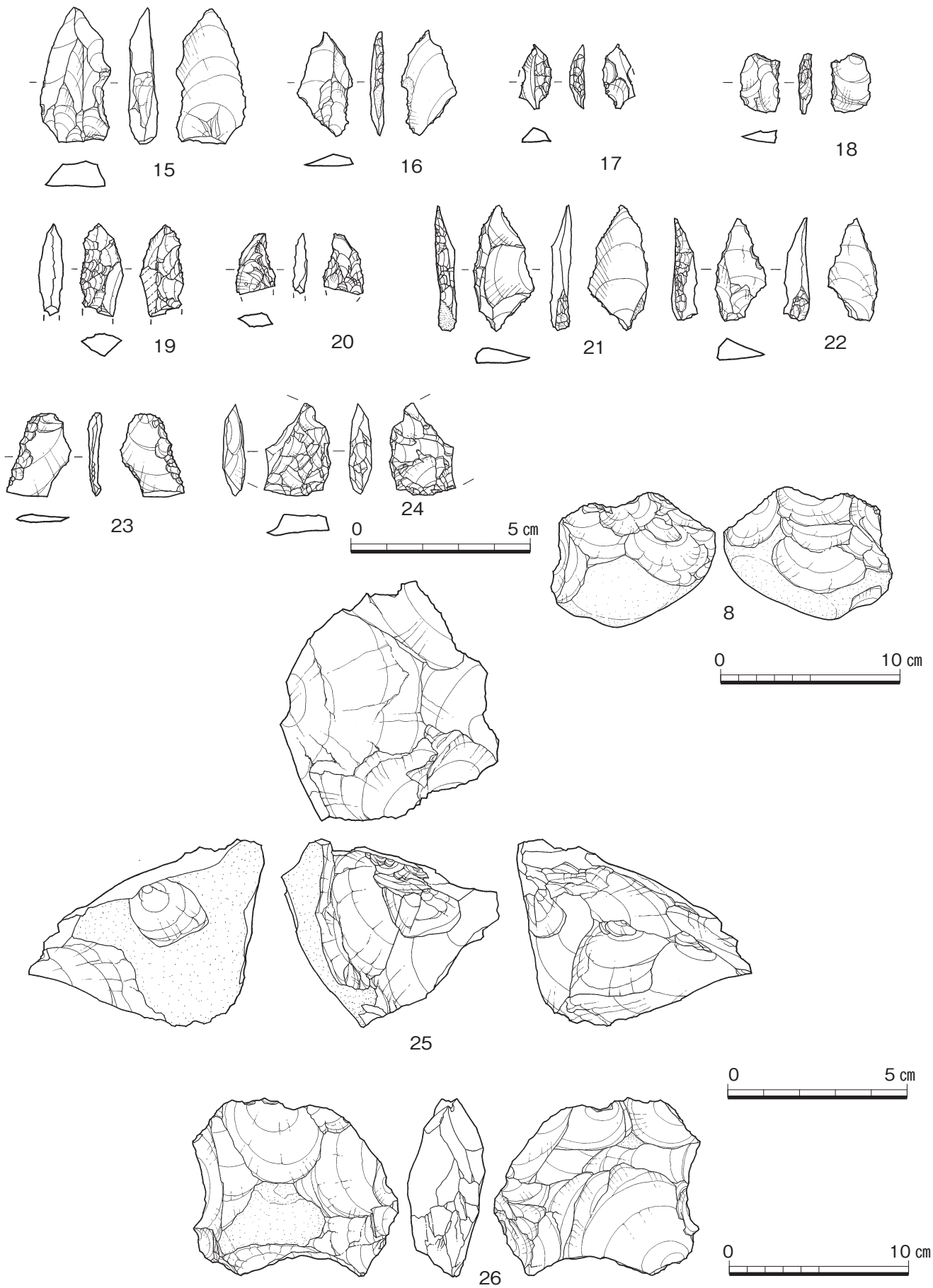
37・38は磨石兼敲石である。石材はいずれも砂岩

であり、Ⅰ類に分類される。

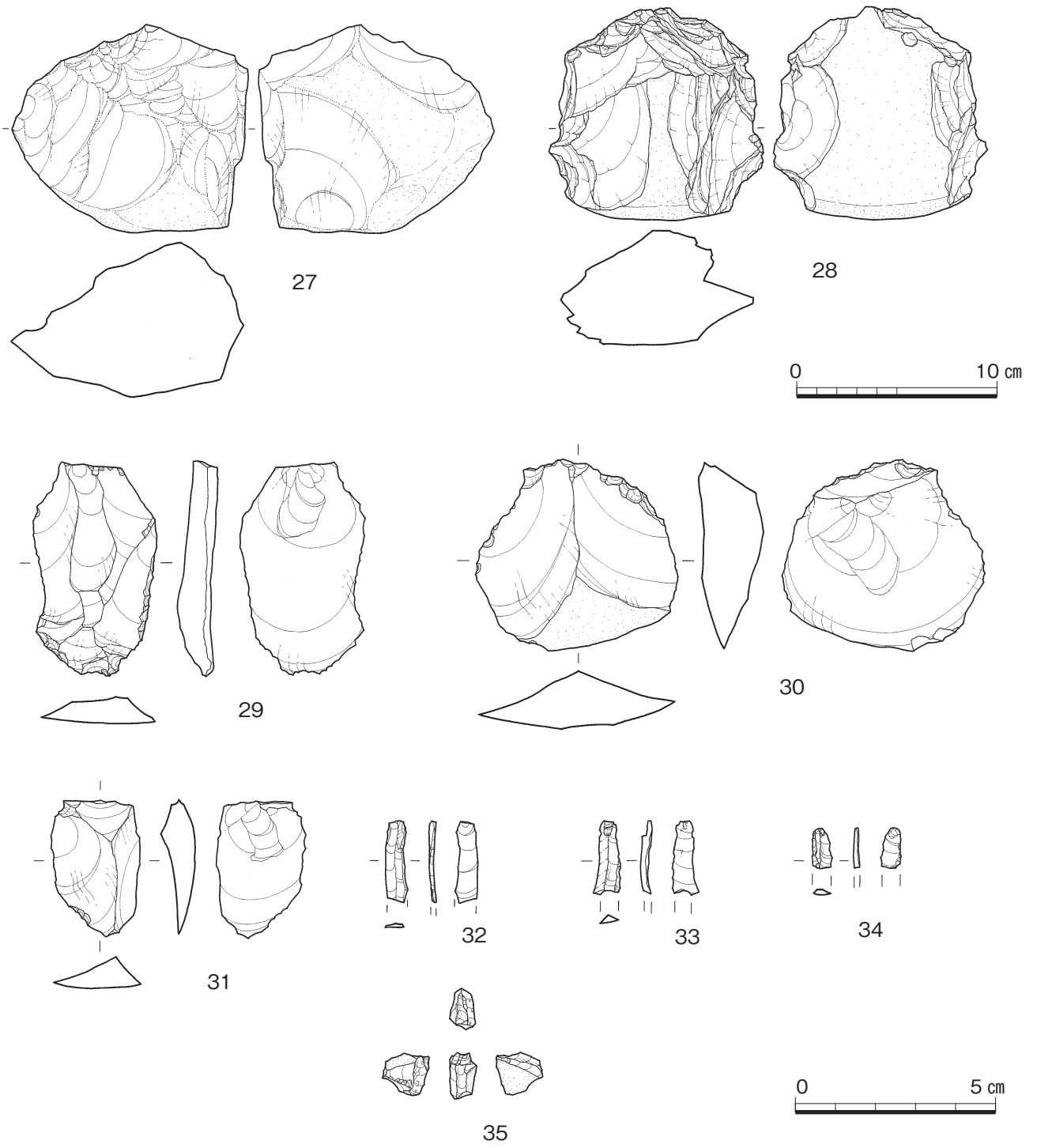
39は磨石である。石材は尾鈴山酸性岩類でⅠ類に分類される。



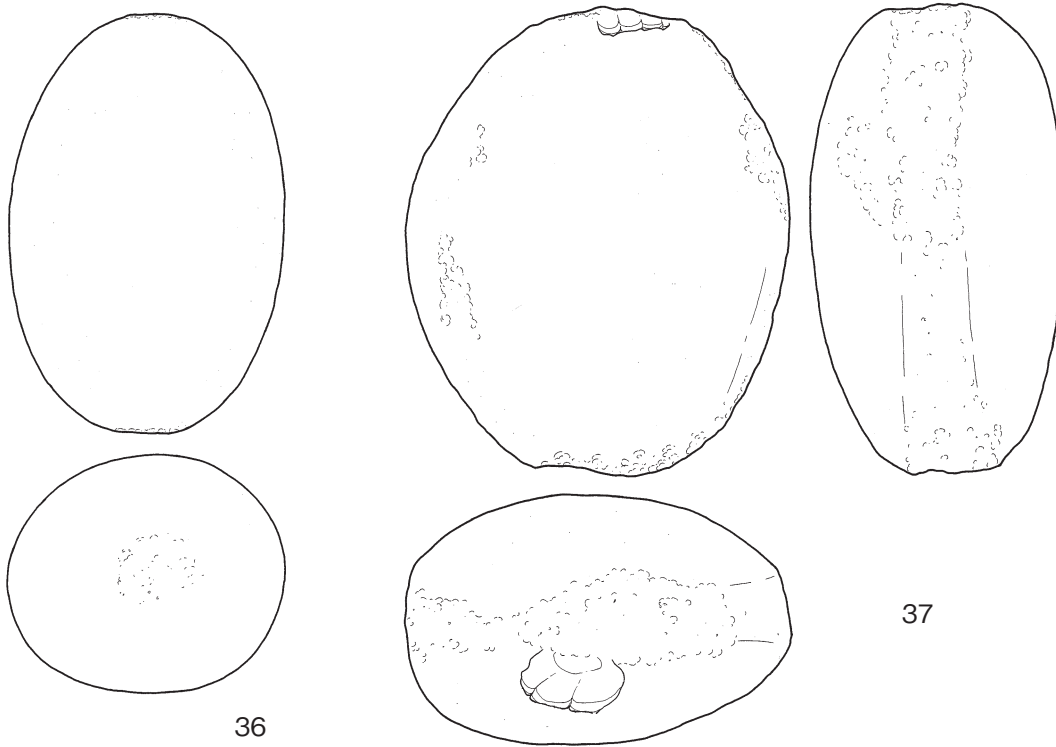
第9図 旧石器時代の遺物分布図(2) (B区) (S=1/500)



第10図 旧石器時代の遺物実測図（3）

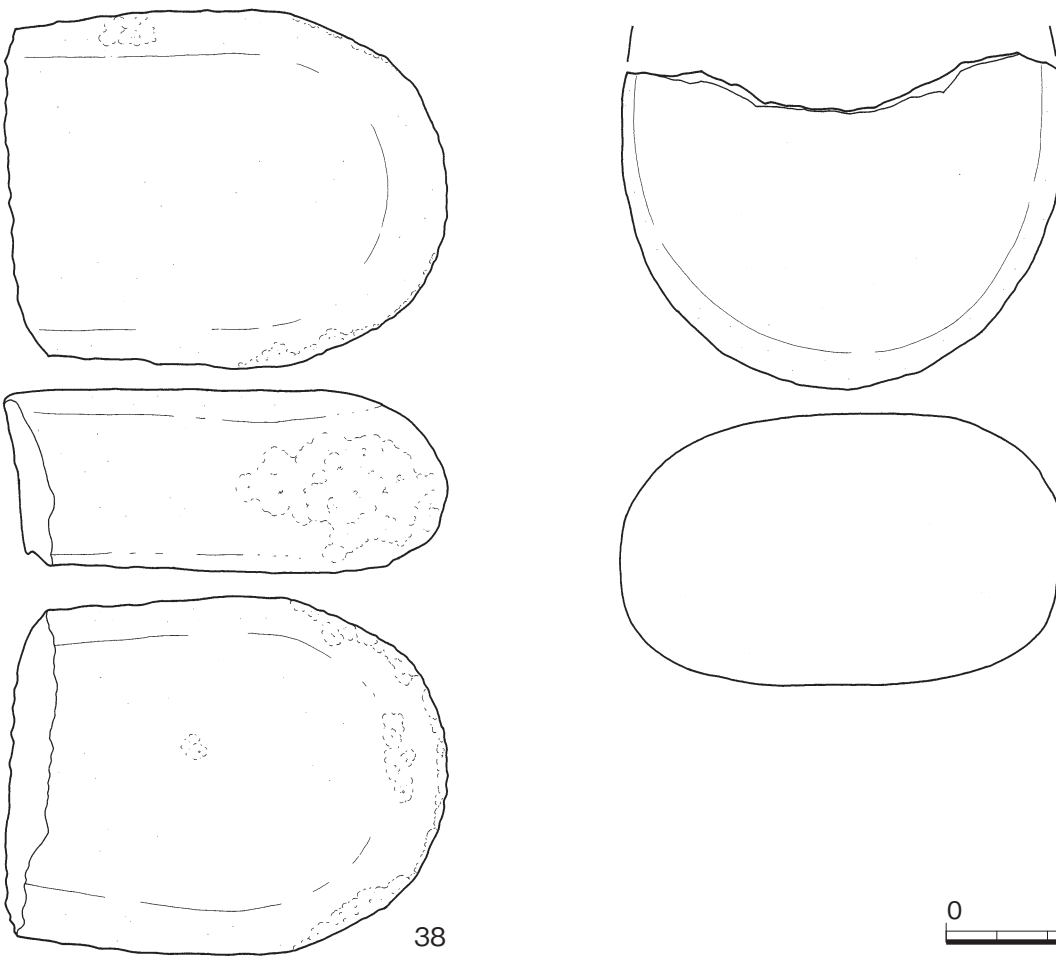


第11図 旧石器時代の遺物実測図（4）



36

37



38

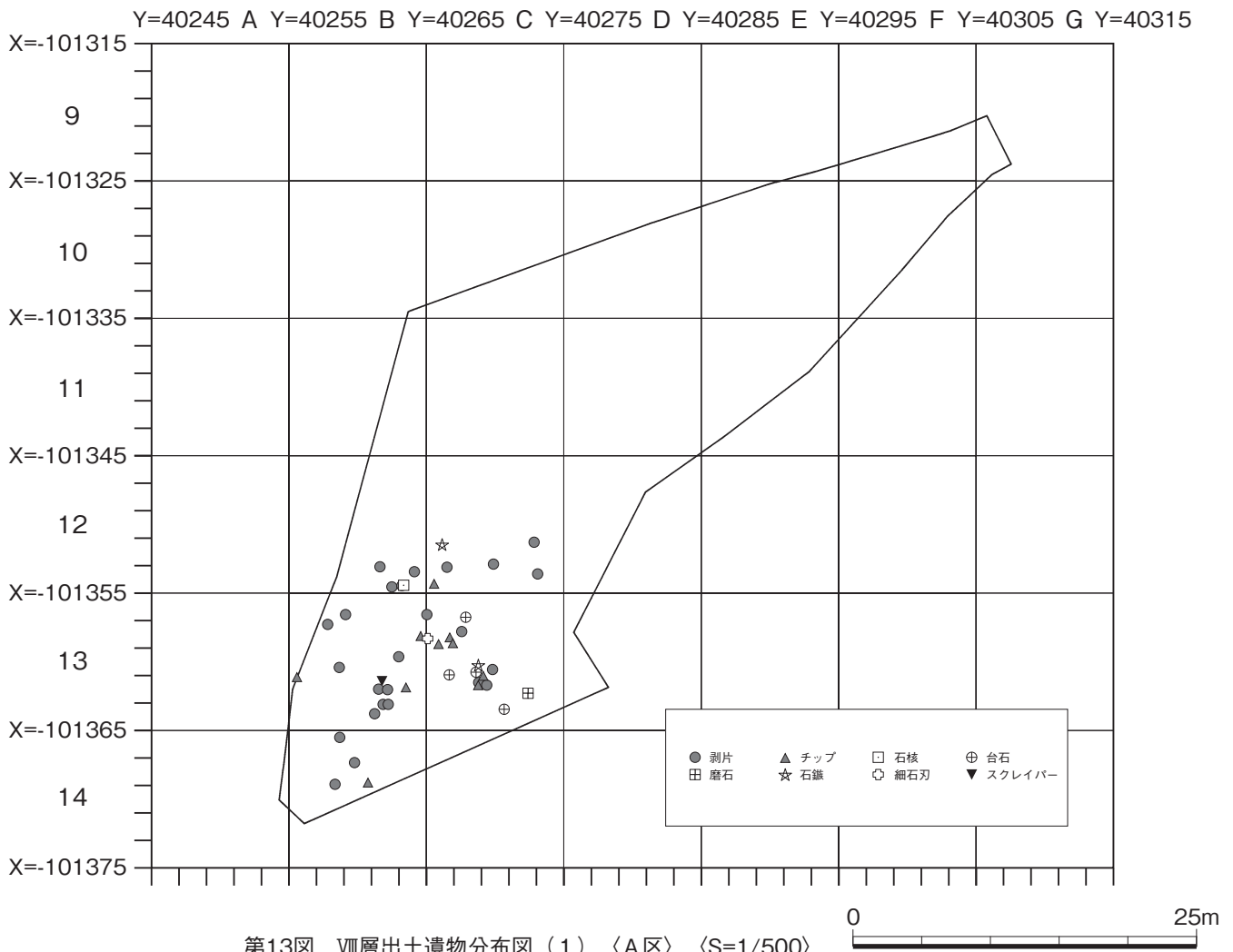
39



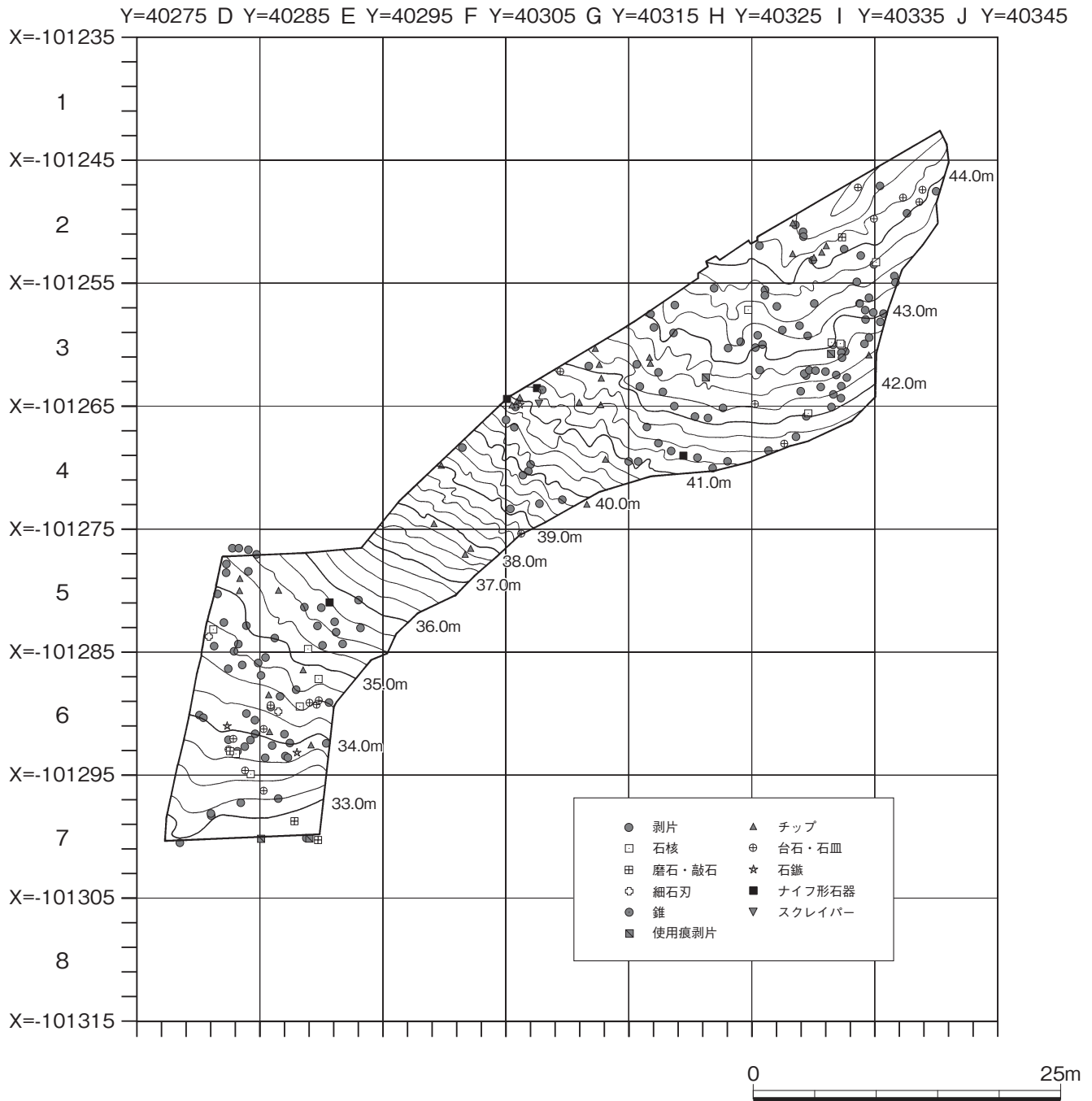
第12図 旧石器時代の遺物実測図（5）

第2表 石器計測表 (旧石器)

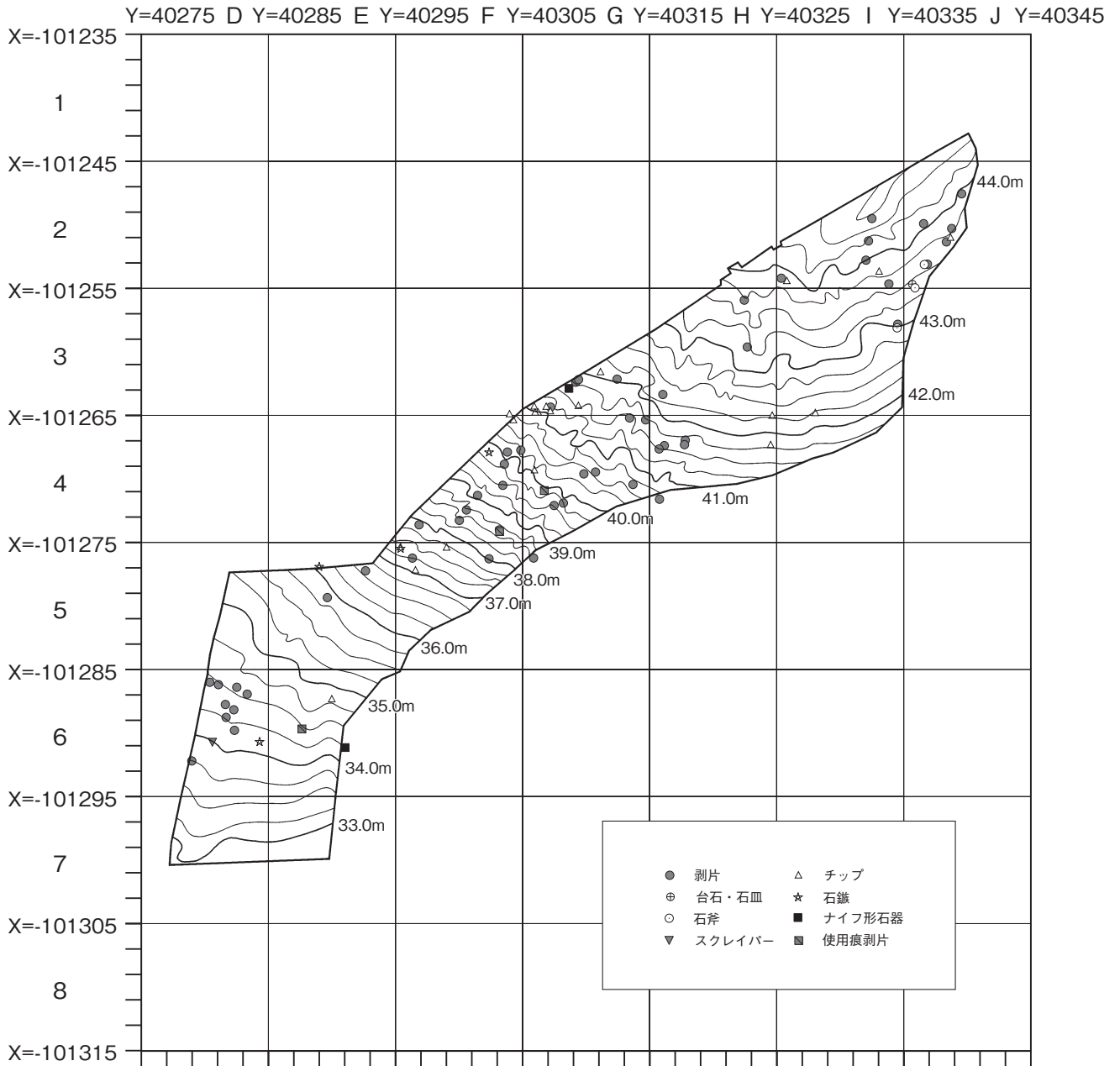
レイアウトNo.	調査区	Gr.	層	取り上げNo.	石材	X座標	Y座標	Z座標	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
15	B1	H4	VII	5584	頁岩	-101,269.090	40,319.436	41.421	ナイフ形石器	3.3	1.95	0.85	6.2	
16	B2	E5	VII	5965	流紋岩	-101,280.798	40,290.519	35.337	ナイフ形石器	2.9	1.5	0.4	1.4	
17	B1	G3	VII	5147	チャート	-101,262.837	40,308.740	42.251	ナイフ形石器	1.8	0.9	0.5	0.2	
18	B1	G3	VII	5470	チャート	-101,263.613	40,307.420	42.713	ナイフ形石器	1.65	1.1	0.4	0.8	
19	B1	G3	VII	5460	チャート	-101,264.450	40,305.053	42.184	ナイフ形石器	2.55	1.2	0.7	1.7	
20	A3	E12	II	1282	黒曜石	-101,348.100	40,279.600	25.810	ナイフ形石器	1.7	1.1	0.4	0.6	スクレイパーの可能性もあり
21	B1	E6	VII	5248	頁岩	-101,291.073	40,291.160	35.076	ナイフ形石器	3.5	1.65	0.55	2.9	
22	B2	-	一括	-	頁岩	-	-	-	ナイフ形石器	2.85	1.4	0.7	2.1	
23	A1	C13	VII	1061	黒曜石	-101,361.504	40,261.916	25.368	サイドスクレイパー	2.3	1.75	0.35	0.9	姫島産
24	B1	G3	VII	5459	チャート	-101,264.837	40,307.641	41.846	スクレイパー	2.55	1.85	0.6	3.1	
25	B1	I3	VII	5901	流紋岩	-101,259.884	40,331.761	42.531	石核	5.25	6.05	6.55	170.7	
26	B2	D6	VII	5671	ホルンフェルス	-101,293.371	40,283.519	33.942	石核	9.95	11.5	4.2	1075.4	
27	B2	D6	VII	5685	流紋岩	-101,287.155	40,289.640	34.664	石核	10.35	11.8	7.8	553.4	
28	B1	-	VII	-	流紋岩	-	-	-	石核	10.6	10.7	5.7	762.8	
29	B2	E7	VII	5517	流紋岩	-101,300.065	40,288.980	34.154	使用痕剥片	5.35	3.1	0.85	14.6	
30	B1	I3	VII	5904	流紋岩	-101,260.741	40,331.782	42.436	使用痕剥片	4.75	5.1	1.5	31.3	
31	B1	H3	VII	5826	流紋岩	-101,262.705	40,321.334	42.394	使用痕剥片	3.4	2.25	0.8	6.1	
32	A1	B12	VII	951	ホルンフェルス	-101,358.389	40,265.215	25.584	細石刃	2.05	0.55	0.1	0.2	
33	B2	D5	VII	5629	黒曜石	-101,283.713	40,285.727	34.675	細石刃	1.82	0.7	0.2	0.2	
34	B2	E6	VII	5941	黒曜石	-101,289.936	40,286.464	35.158	細石刃	1	0.55	0.15	0.1	未
35	A1	C13	VII	1063	黒曜石	-101,361.444	40,261.001	25.357	細石刃核	1.05	1.2	0.7	0.8	
36	B2	D6	VII	5968	砂岩	-101,300.270	40,289.651	33.931	敲石	8.3	5.4	4.8	300	
37	B2	D6	VII	5957	砂岩	-101,298.676	40,287.974	34.103	磨石兼敲石	9.4	7.6	5	498.4	
38	B2	D6	VII	5677	砂岩	-101,293.043	40,283.078	33.908	磨石兼敲石	8.7	7.1	3.7	397	
39	A1	C13	VII	1092	尾鈴山酸性岩	-101,362.534	40,272.623	24.731	磨石	6.7	8.7	5.4	438.3	



第13図 VIII層出土遺物分布図(1) (A区) (S=1/500)



第14図 VII層出土遺物分布図(2)〈B区〉〈S=1/500〉



第15図 VII層出土遺物分布図〈B区〉〈S=1/500〉

第4節 縄文時代早期の遺構と遺物

縄文時代早期の遺構として、集石遺構を検出した。畑の平坦部（A区）と丘陵の頂上部（B1区）、丘陵の緩やかな尾根部（B2区）の3箇所それぞれ集石遺構を検出した。いずれもⅧ層中から検出している。遺物は、主にⅧ層とⅧ層の包含層中から出土している。

（1）遺構

畑地のA区で19基、丘陵の頂上部のB1区で13基、丘陵の緩やかな傾斜地であるB2区で10基の合計42基の集石遺構が検出された。いずれもⅧ層中から検出している。検出した集石遺構は第3表にまとめている。

〔形態分類〕

検出された集石遺構を、以下の3類に分類している。

- Ⅰ類型：掘り込みも配石も無いタイプ
- Ⅱ類型：掘り込みを持つが、配石を持たないタイプ
- Ⅲ類型：掘り込みと配石を持つタイプ

また、構成する礫の集中度によって、以下の3タイプに分類している。

- 密集型：礫が重なり合っているタイプ
- 集中型：礫がある程度のまとまりをもつタイプ
- 散在型：礫がまとまりをもたないタイプ

【A区】（第17図）

一次調査では、一次確認調査で集石遺構を確認したトレンチを拡張して礫の広がりを確認した。礫の広がりを確認した後、散礫の礫の取りはずしを行った。その結果、集石遺構を1基（1号集石遺構：SI1）検出した（第24図）。

二次調査では、確認調査（二次）で集石遺構の礫と思われる焼けた礫を調査区の南側で確認した。表土剥ぎ後、Ⅷ層の掘り下げを行い礫の検出を行った。調査区の南側では礫が広がり、散礫として確認された。散礫の礫を取りはずした後、18基の集石遺構（2～19号集石遺構：SI2～SI19）を検出した（第20図～第31図）。

一次調査では1基、二次調査では18基の集石遺構が検出され、合計19基の集石遺構が検出された。集

石遺構の中から押型文土器が数点出土している。A区で検出された集石遺構は、Ⅰ類型が7基（36%）、Ⅱ類型が6基（32%）、Ⅲ類型が6基（32%）に分けられる。礫の集中形態をみると、Ⅰ類型では集中型が2基（11%）、散在型が5基（26%）に分けられる。Ⅱ類型では密集型が1基（5%）、集中型3基（16%）、散在型が2基（11%）に分けられる。Ⅲ類型では密集型が4基（21%）、散在型が2基（11%）に分けられる。

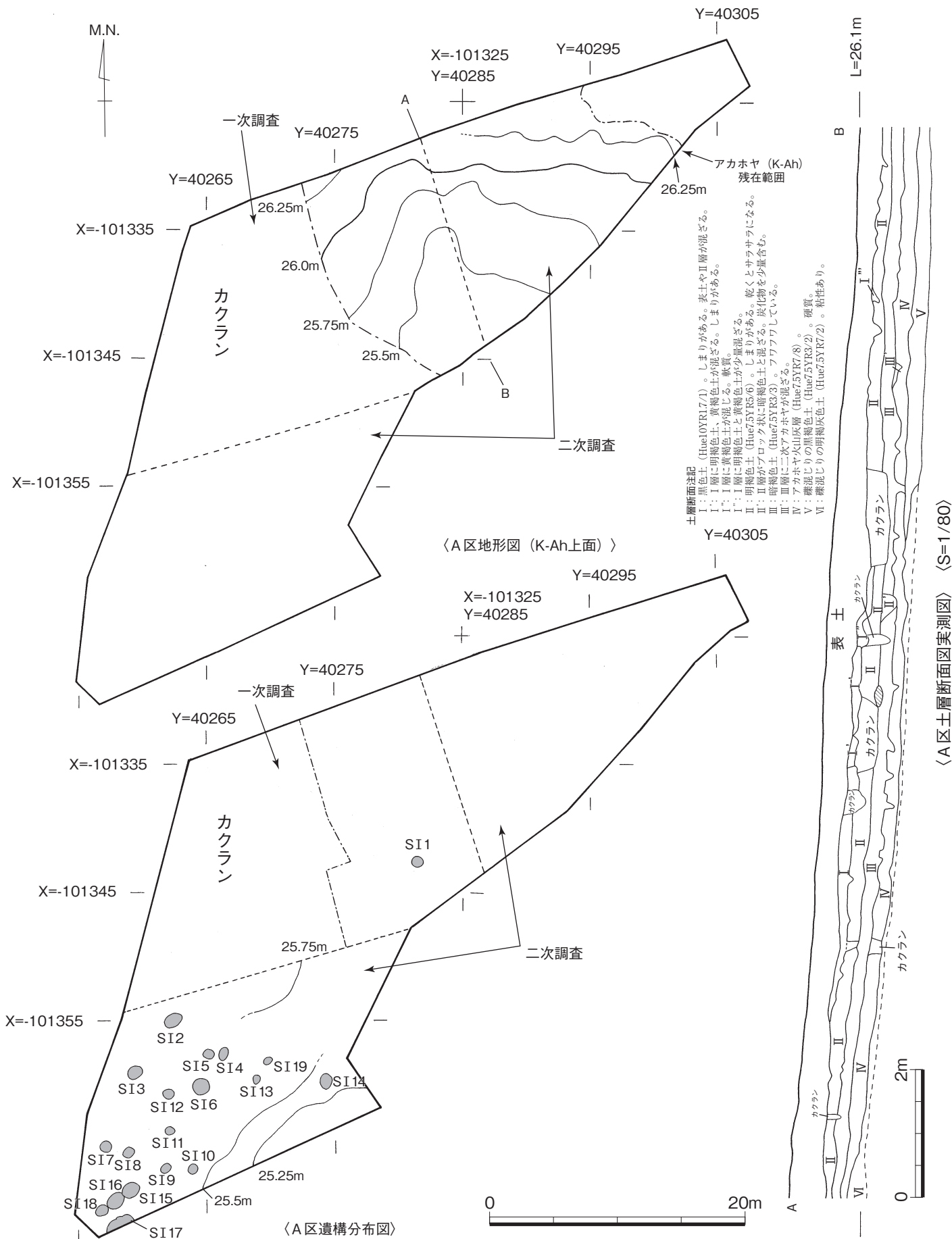
二次調査で検出した集石遺構の礫については、石材の8割以上がホルンフェルスと砂岩が占めており、尾鈴山酸性岩類が極端に少ない。礫の完形率では40%未満のものが7割～9割を占めている。礫の赤化率では、6割～9割が赤化していることがあげられる。

【B区】（第17図、第18図）

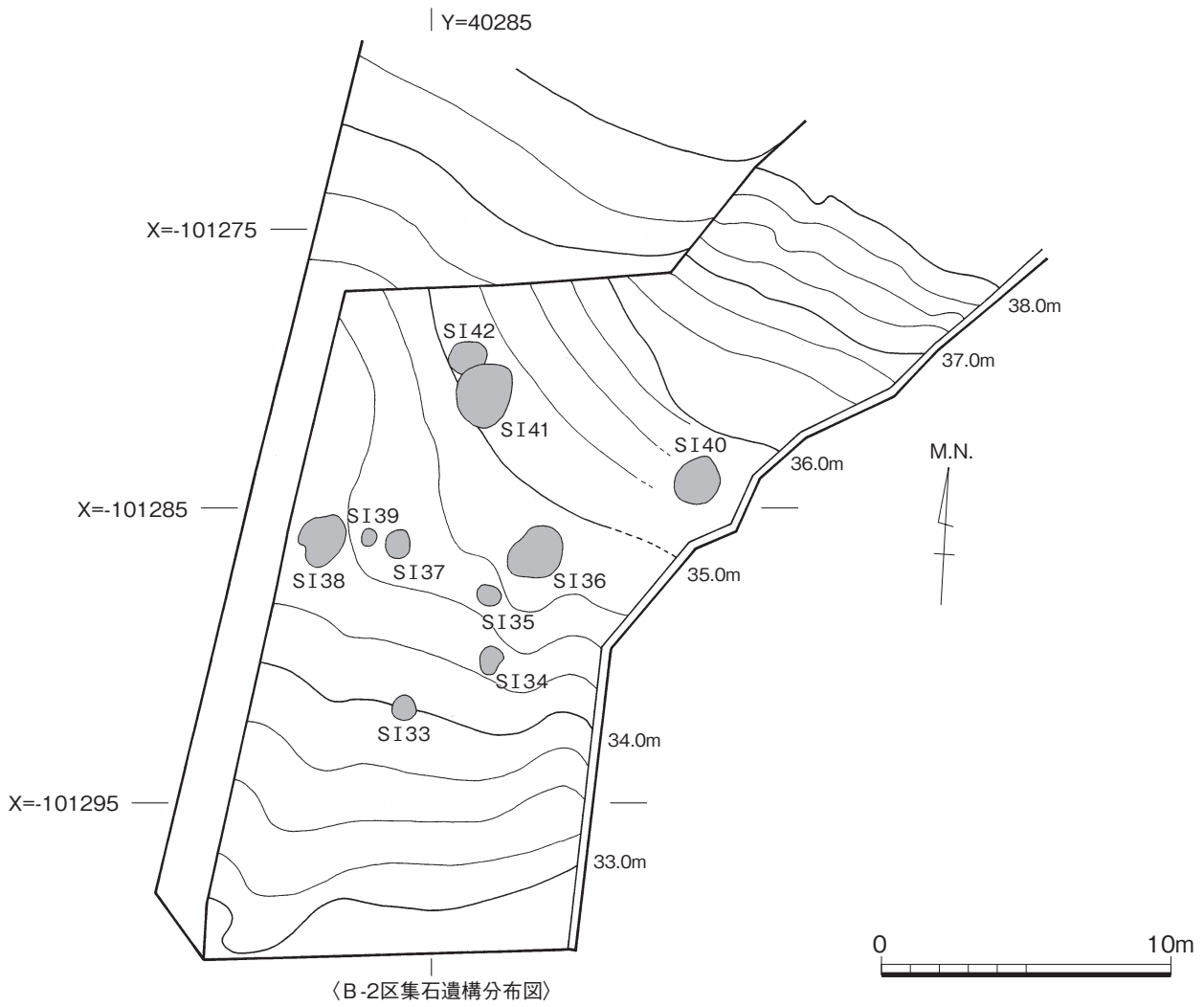
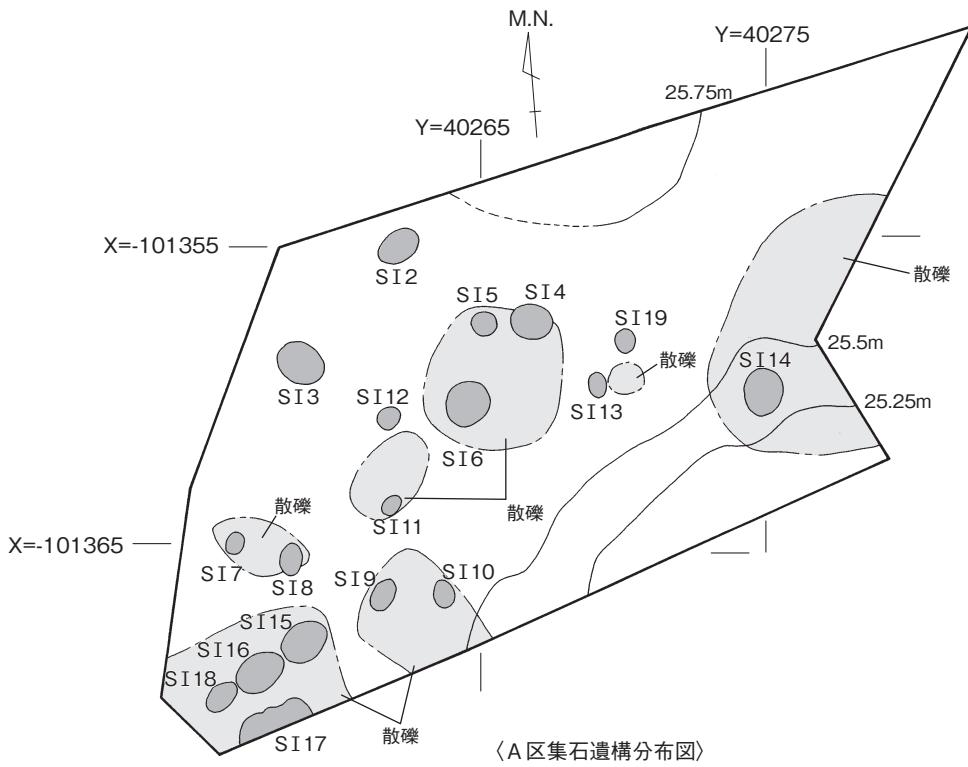
B1区は、確認調査（二次）で、集石遺構の礫と思われる焼けた礫が確認されたので、表土剥ぎ後、Ⅷ層の掘り下げを行い礫を検出した。散礫の礫を取りはずした後、集石遺構を13基検出した（19～32号集石遺構：SI19～SI32）。SI32は尾鈴山酸性岩類と砂岩の大型の礫3個からなり、2個の砂岩は接合できる。位置関係からこの集石遺構の中心となる遺構と考えられる。集石遺構からは土器は出土しておらず、上層の散礫中から貝殻条痕文土器が出土している。B1区の集石遺構の特徴は、全ての集石遺構が配石を持たないという点である。タイプとしては、Ⅰ類型が2基（17%）、Ⅱ類型が10基（83%）に分けられる。礫の集中形態では、Ⅰ類型で密集型が2基（17%）、散在型が3基（25%）に分けられる。Ⅱ類型は集中型が2基（17%）、密集型が6基（50%）に分けられる。

集石遺構の礫については、石材は8割以上がホルンフェルスと砂岩が占め、尾鈴山酸性岩類が極端に少ない。礫の完形率では、40%未満が8割～9割を占める。礫の赤化率では、6割～8割が赤化している。

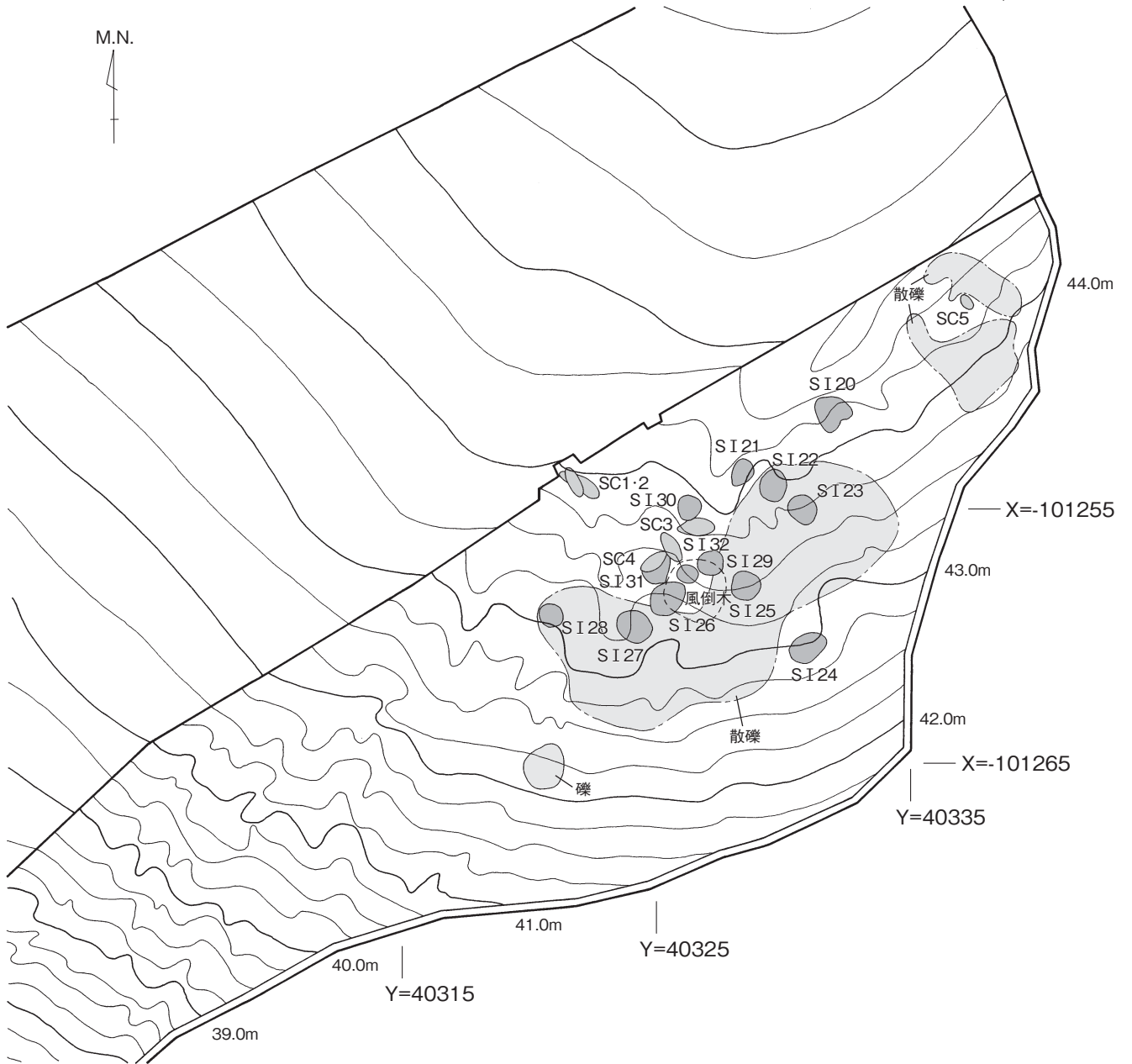
B2区は、確認調査（二次）では集石遺構の礫は確認されなかったが、重機による表土剥ぎを行った際に、表土である牧草を剥いだ際に焼けた礫が確認



第16図 A区地形図・遺構分布図 (S=1/400) 及び土層断面図 (S=1/80)

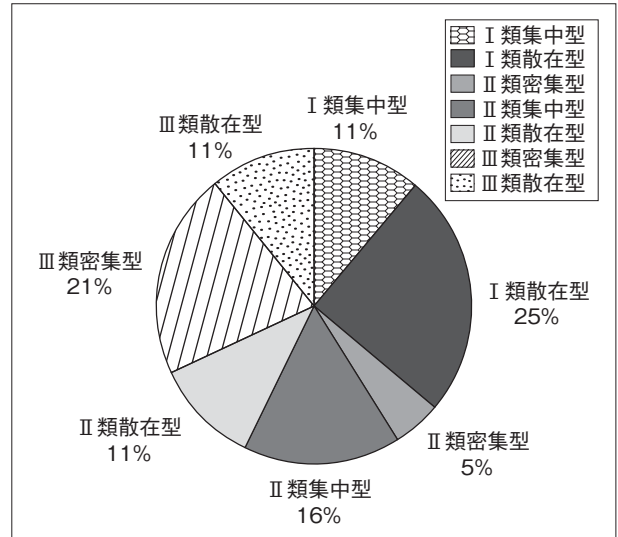
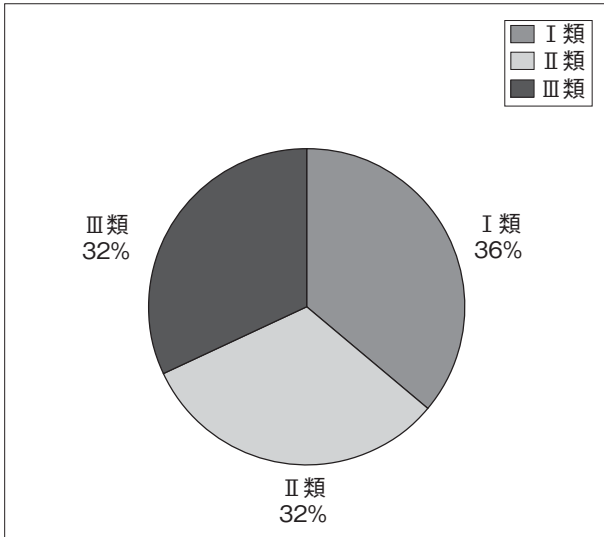


第17図 集石遺構分布図 (1) (S=1/250)

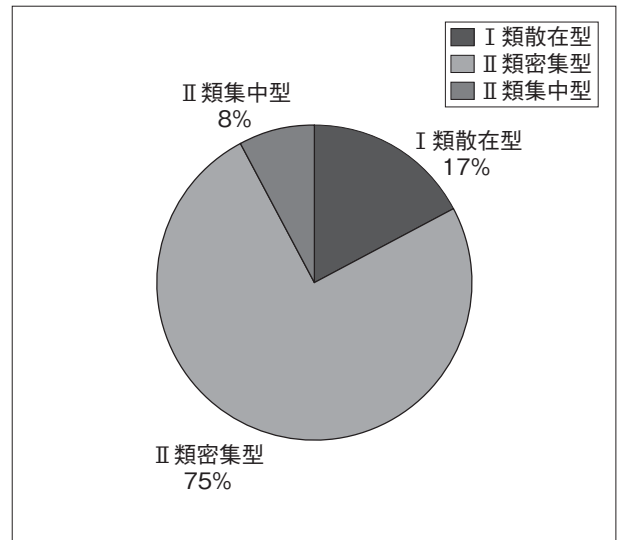
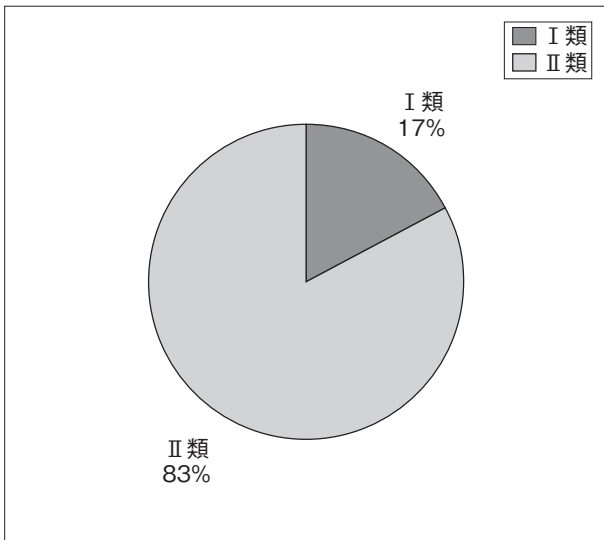


第18図 集石遺構分布図 (2) (S=1/250)

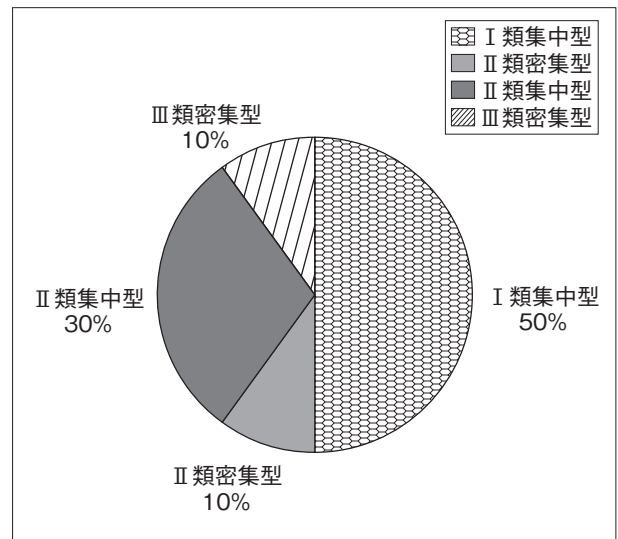
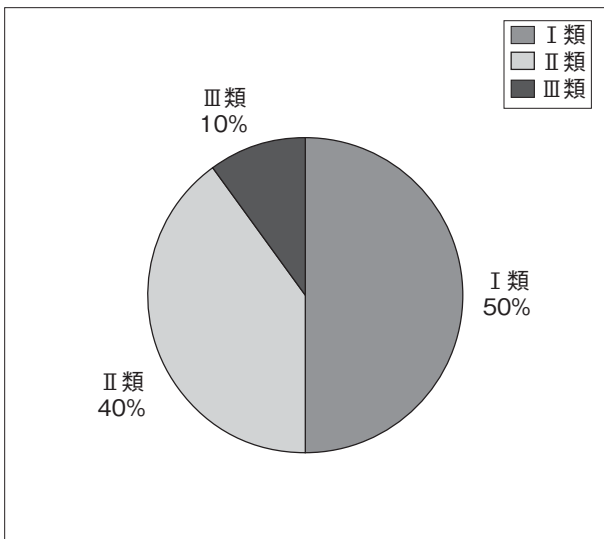
A 区集石遺構



B-1 区集石遺構

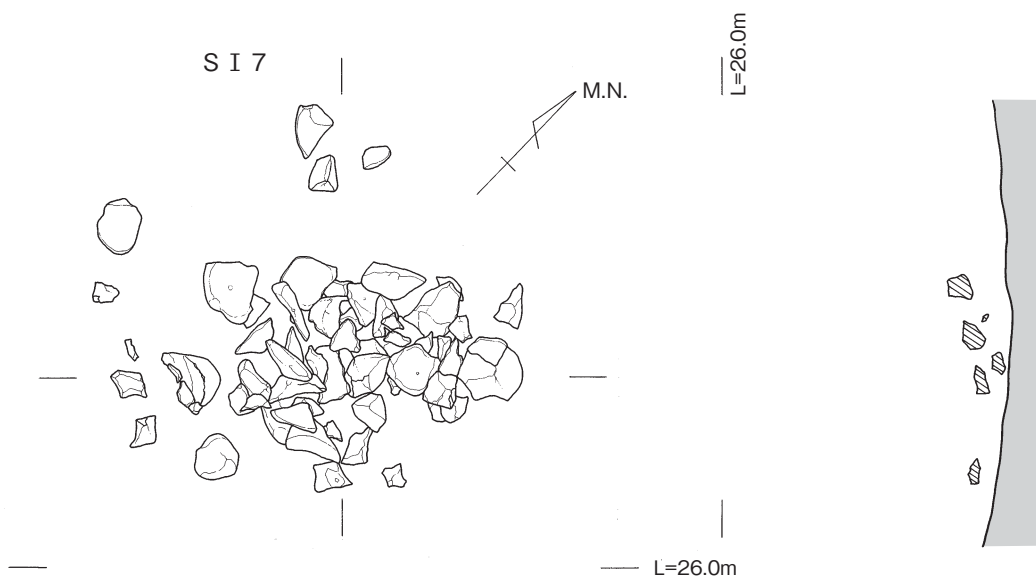
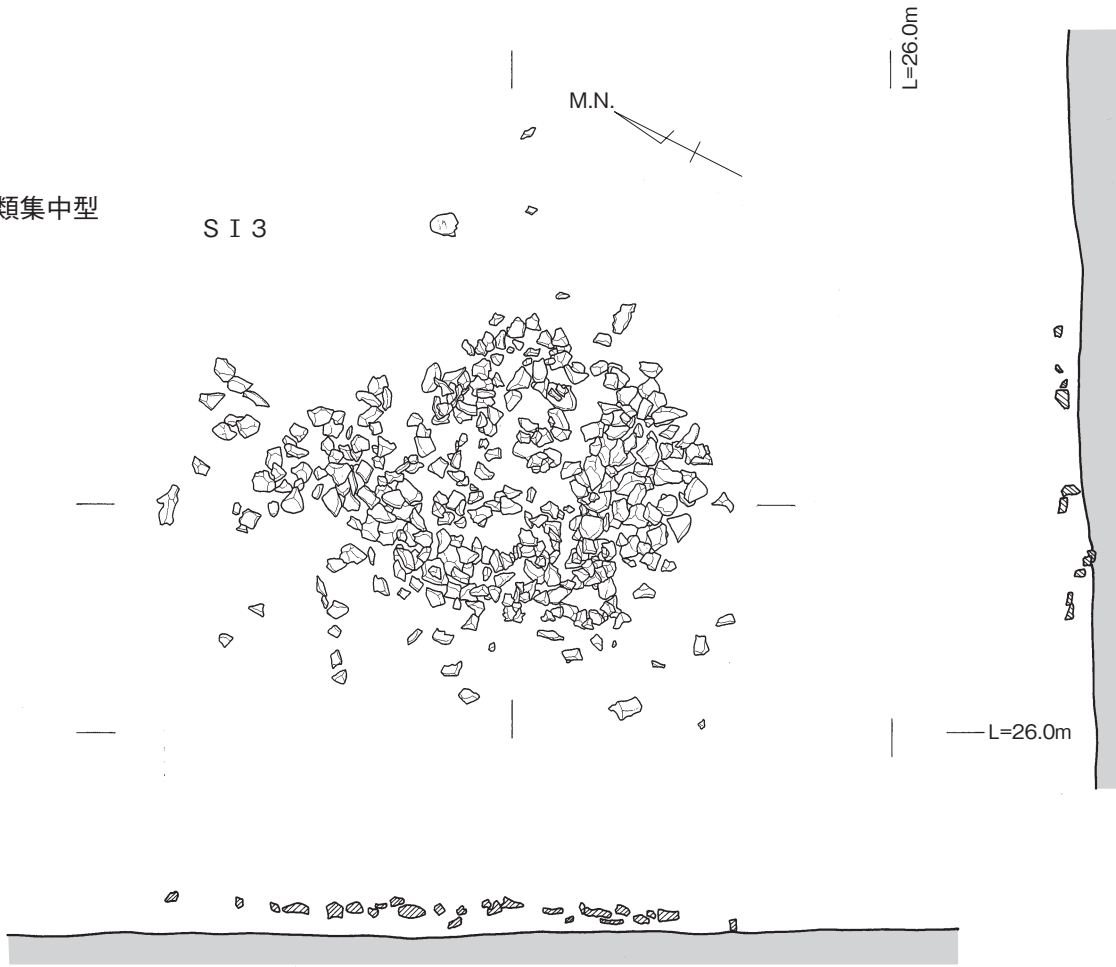


B-2 区集石遺構



第19図 集石遺構分類グラフ

・ I 類集中型

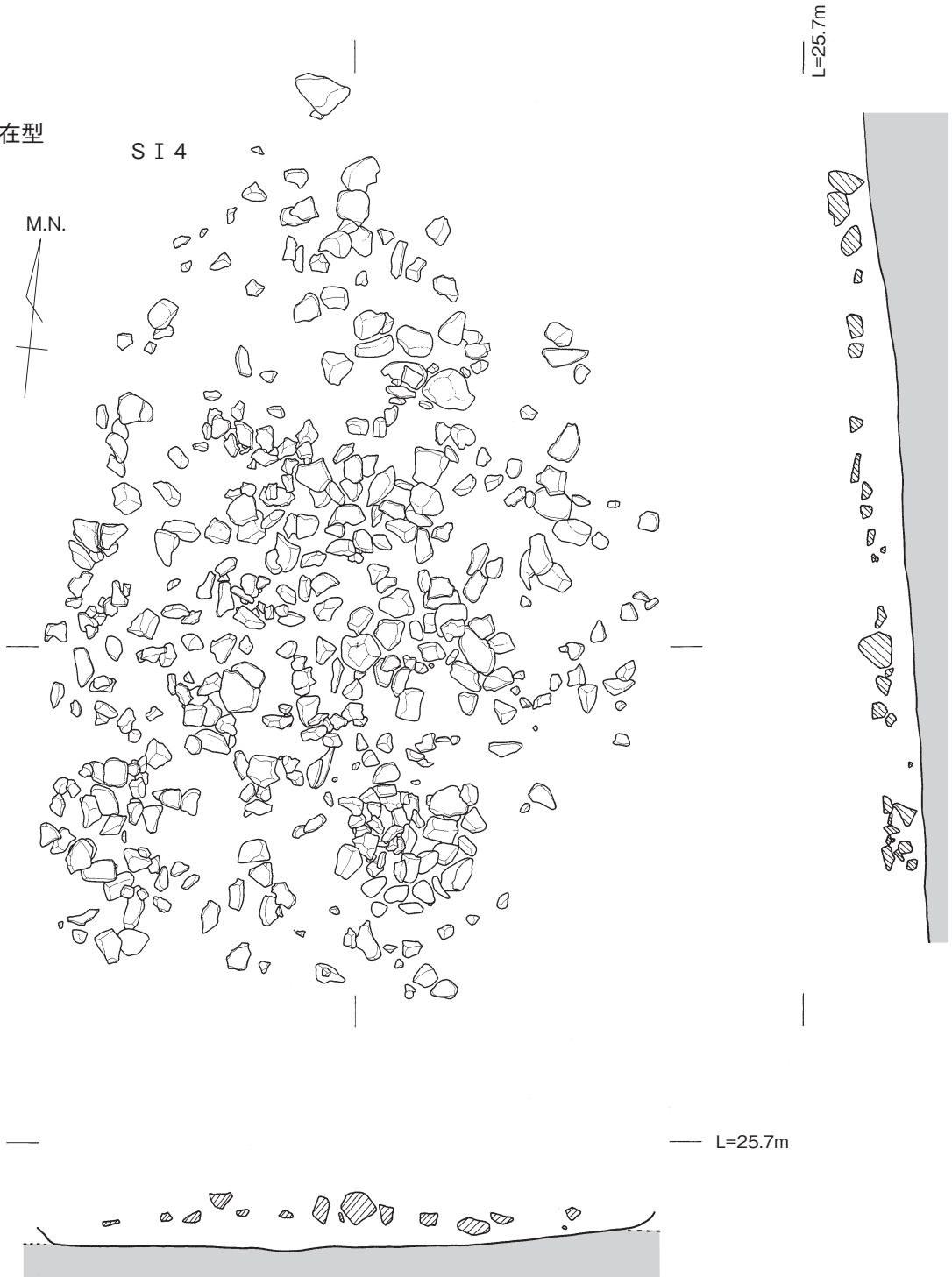


第20図 A区集石遺構実測図(1)

・ I 類散在型

S I 4

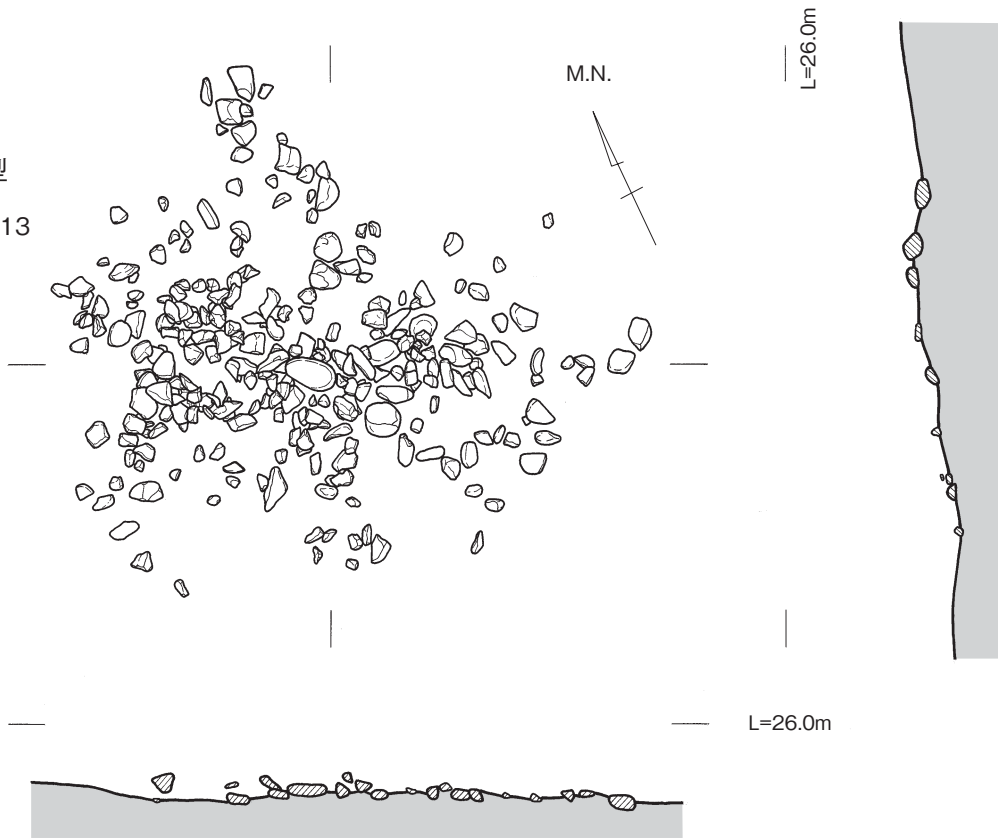
M.N.



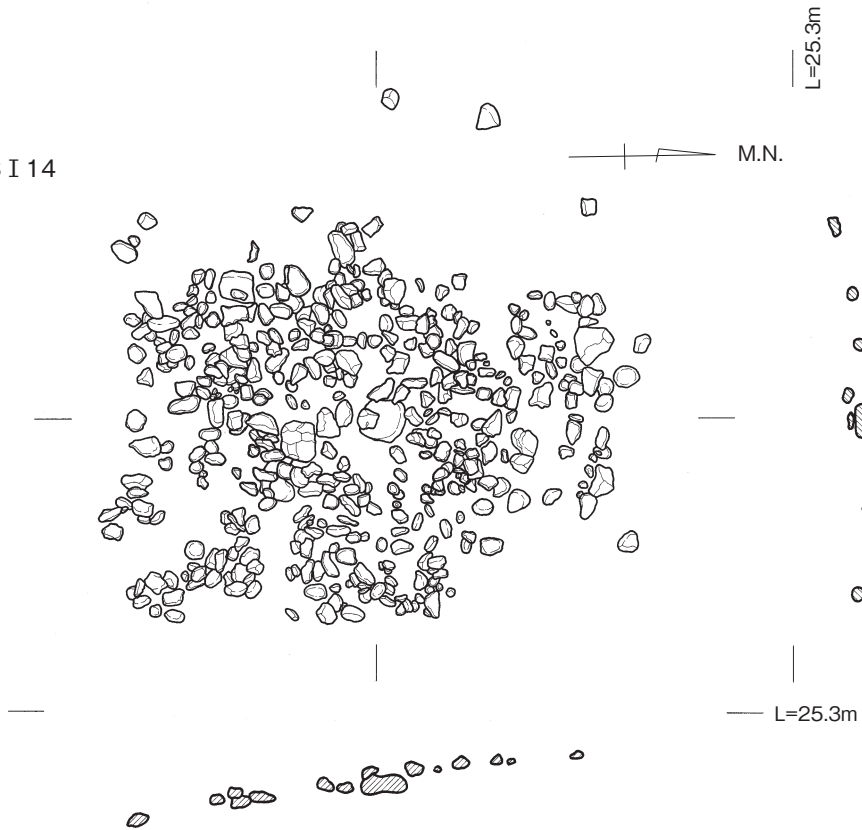
第21図 A区集石遺構実測図(2)

・ I 類散在型

SI 13

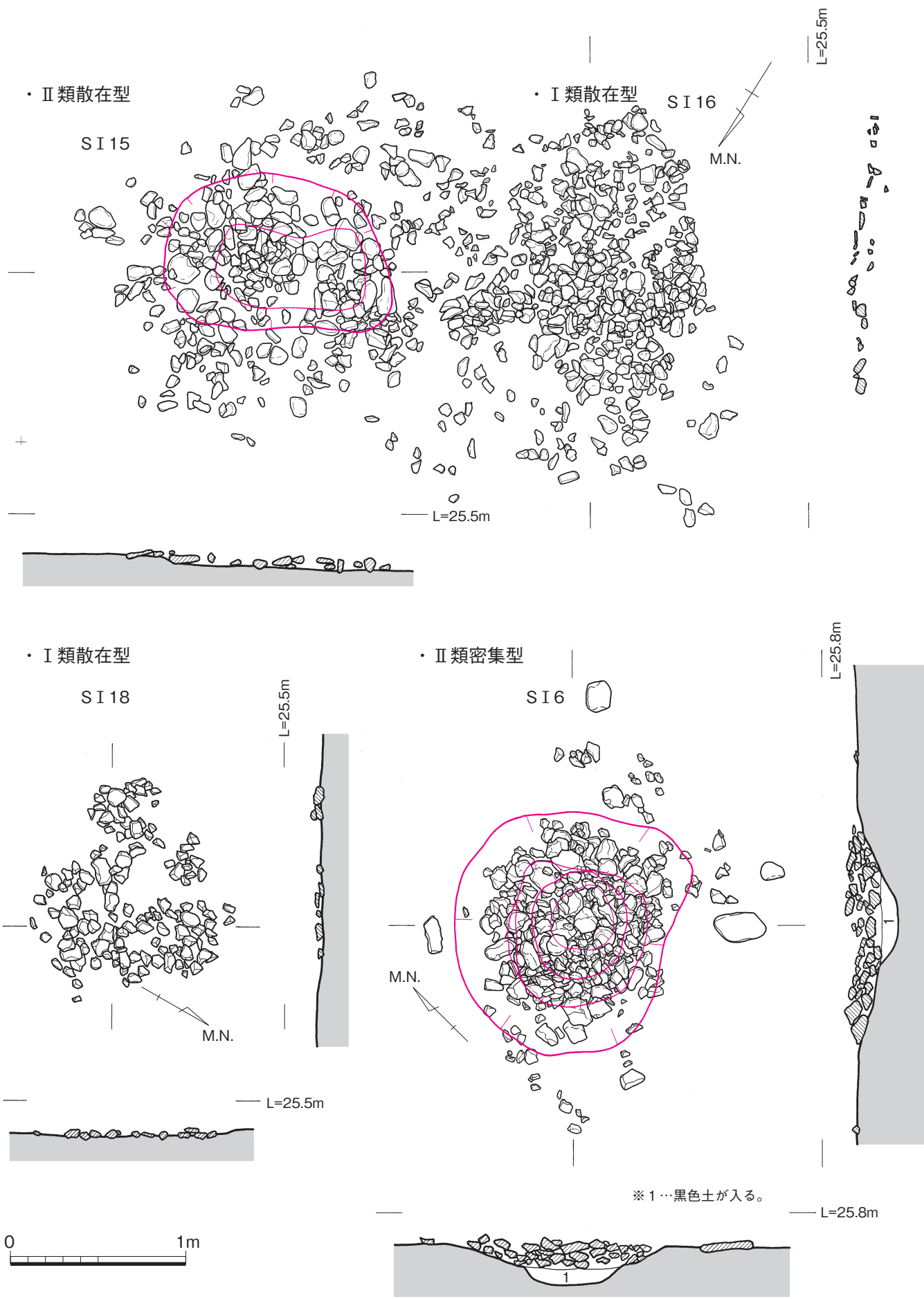


SI 14

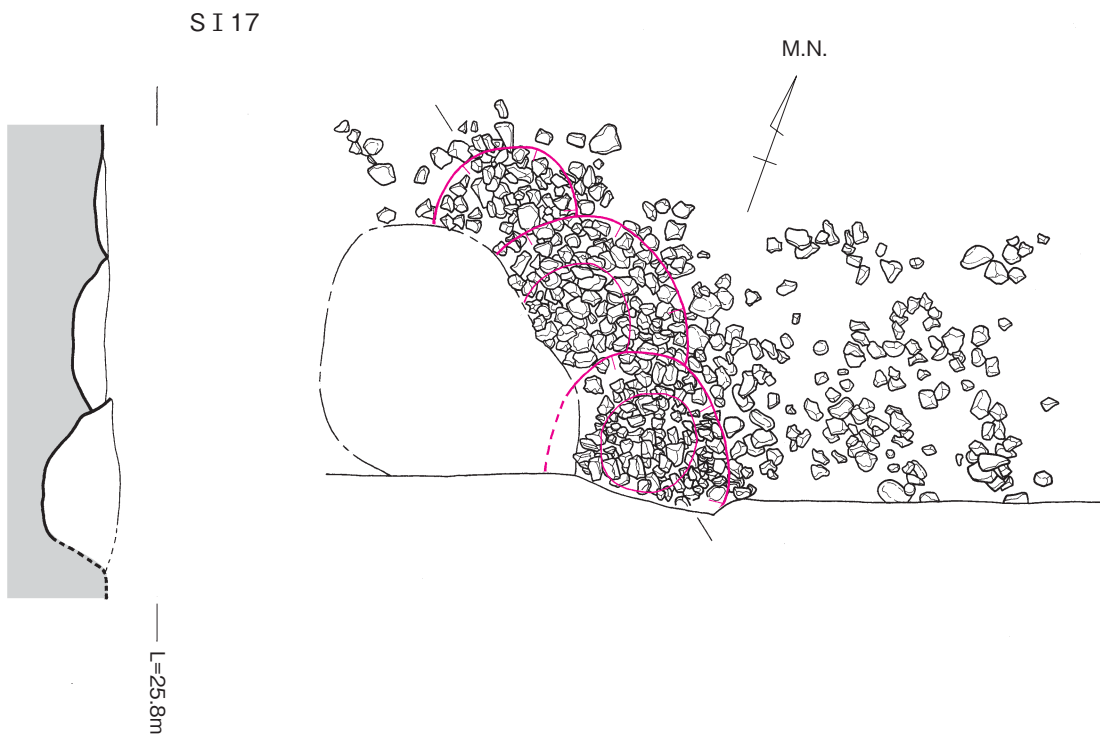
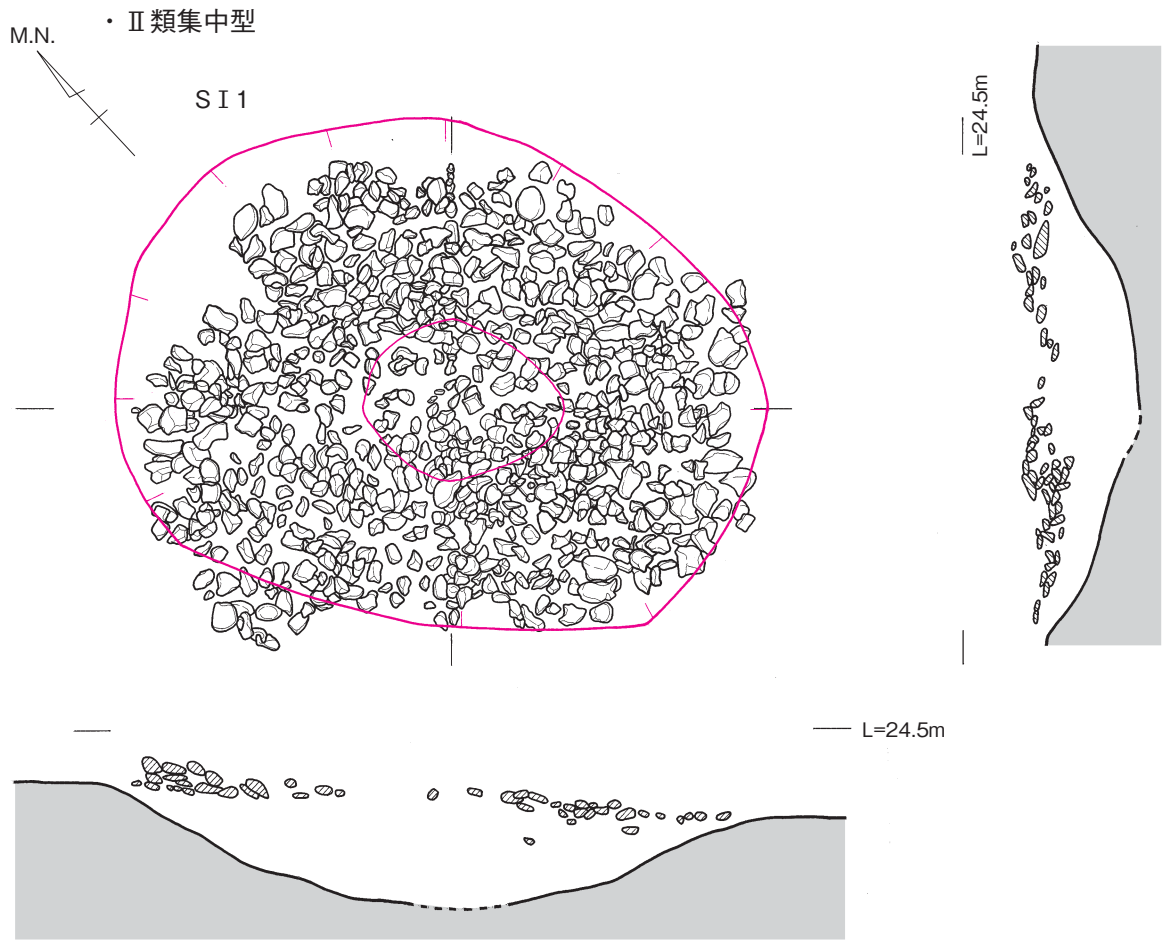


第22図 A区集石遺構実測図(3)

0 1m

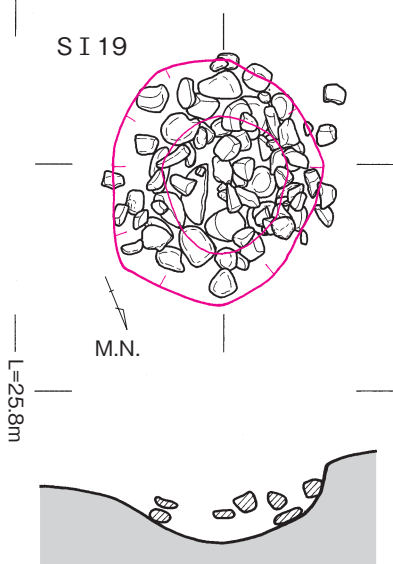
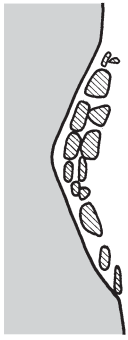


第23図 A区集石遺構実測図(4)

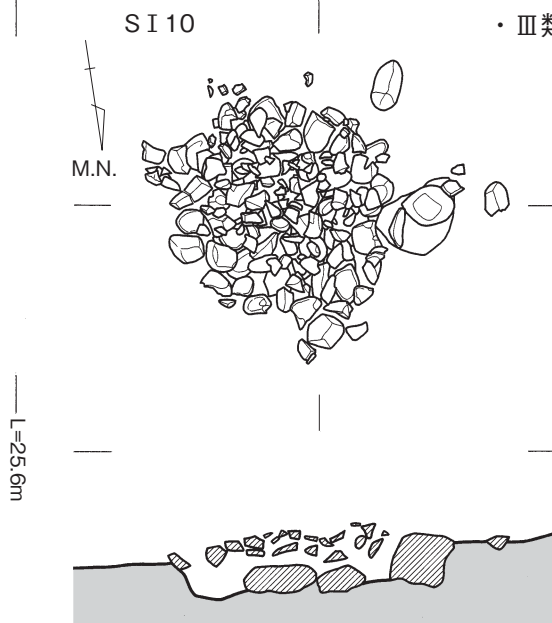
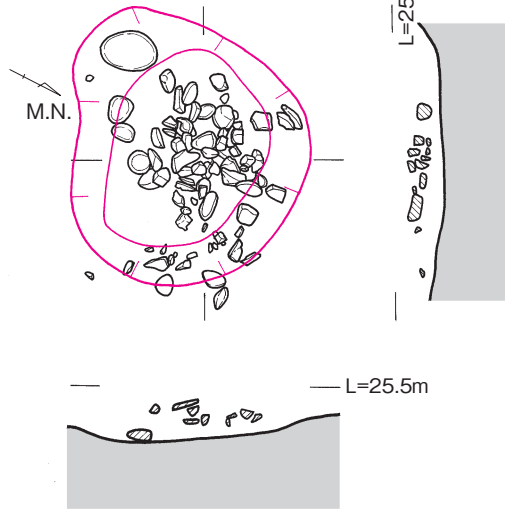


第24図 A区集石遺構実測図(5)

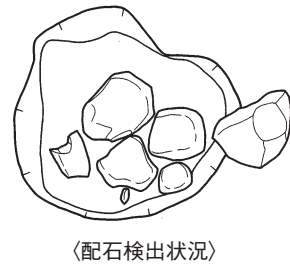
・Ⅱ類集中型



・Ⅱ類散在型 SI 11

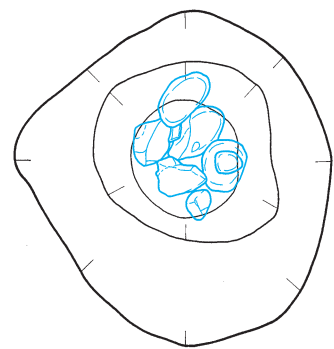
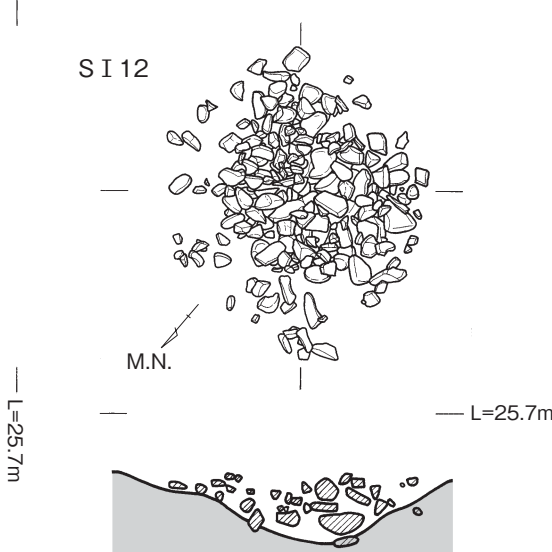


・Ⅲ類密集型



〈配石検出状況〉

L=25.6m



〈配石検出状況〉

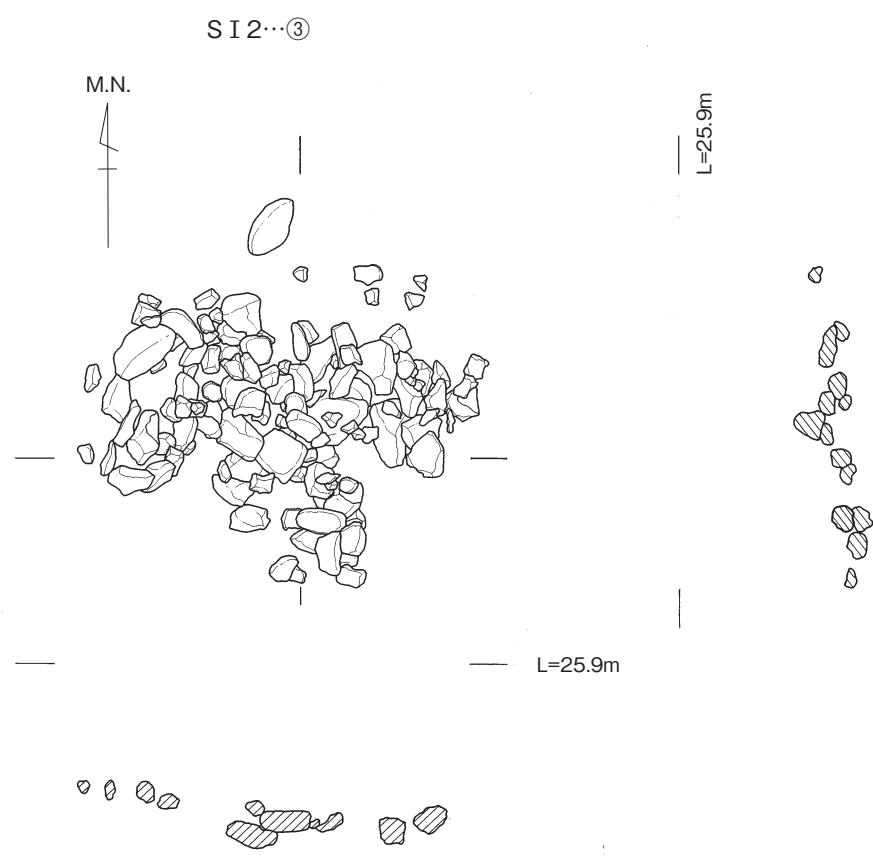
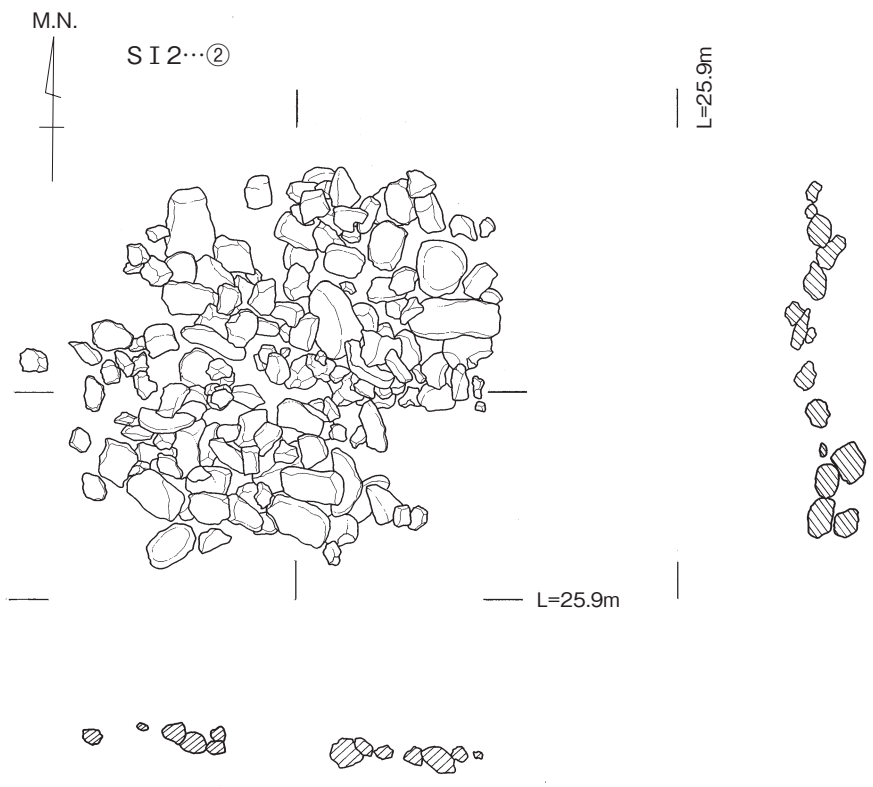
0 1m

第25図 A区集石遺構実測図(6)

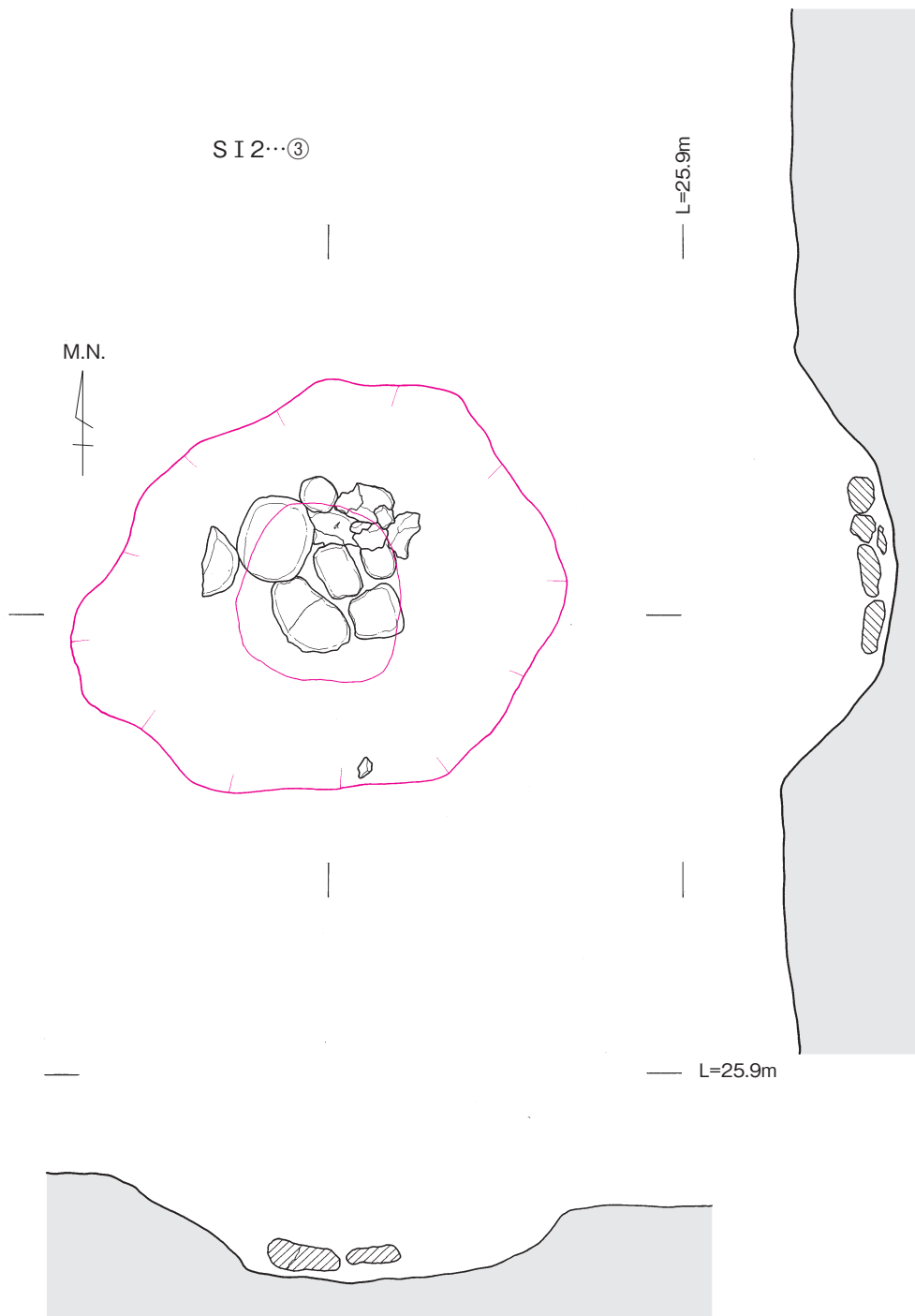
・Ⅲ類密集型（2）



第26図 A区集石遺構実測図（7）



第27図 A区集石遺構実測図(8)

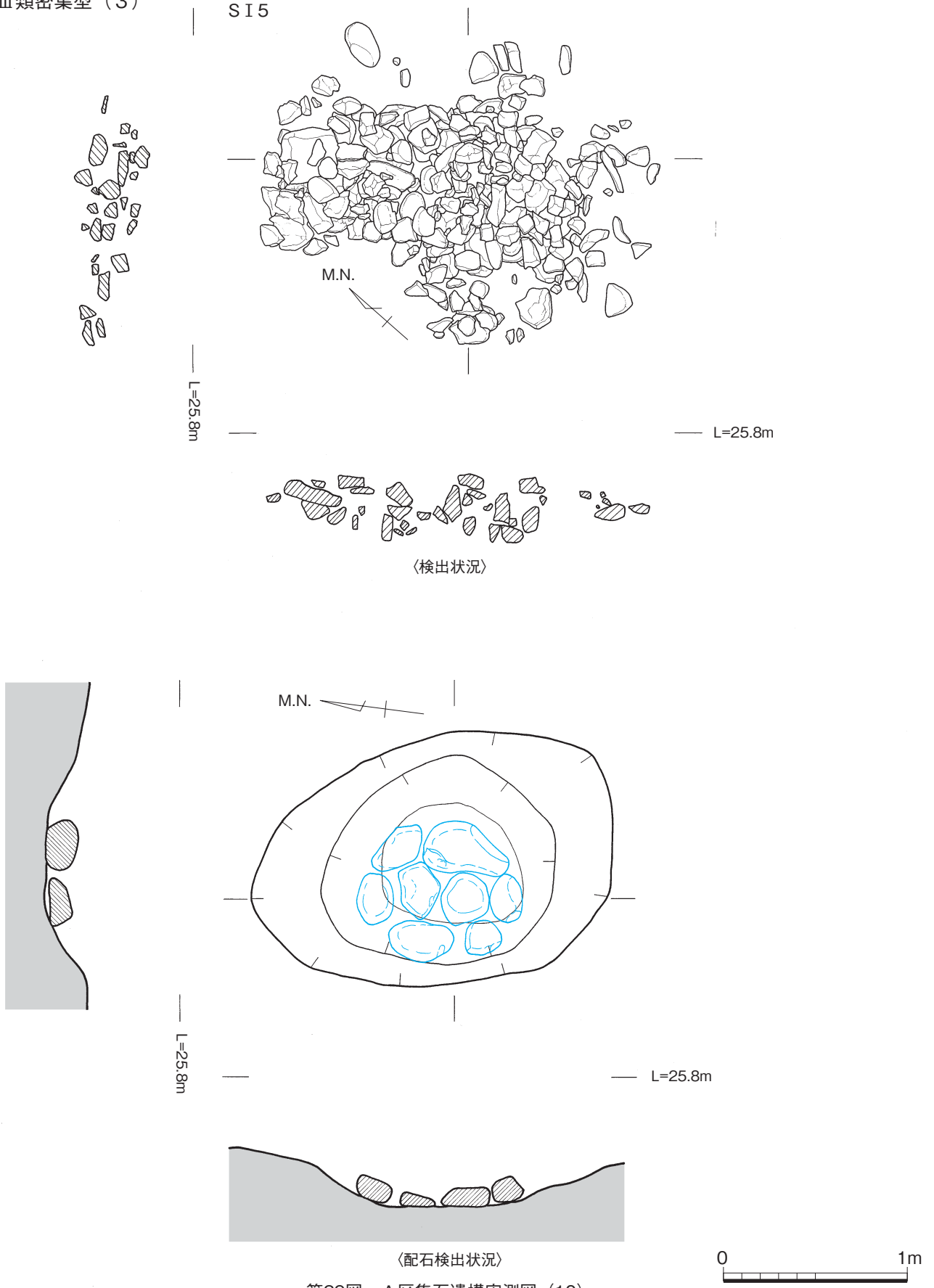


〈配石検出状況〉



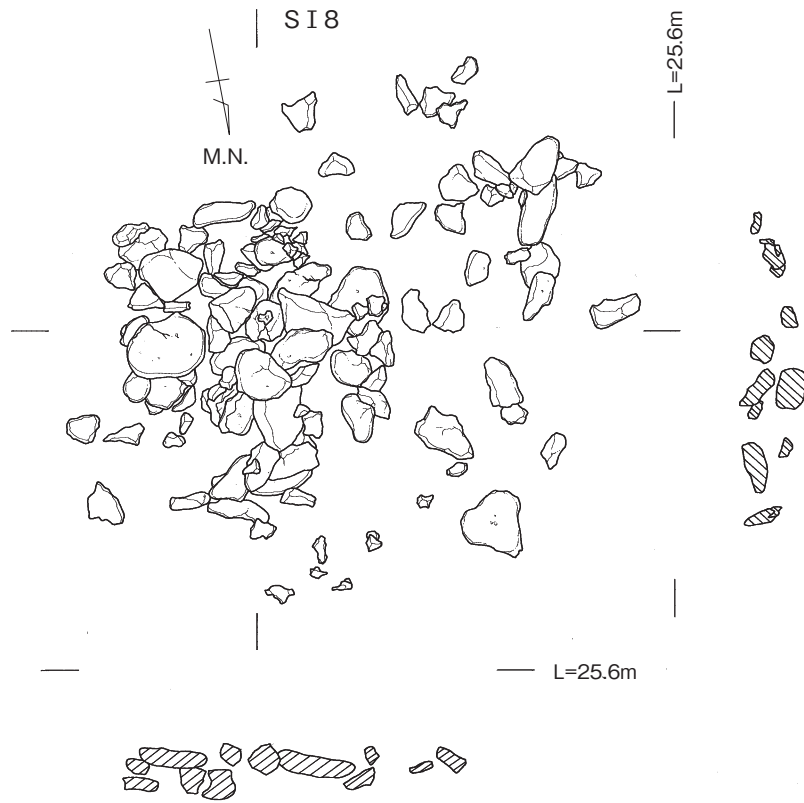
第28図 A区集石遺構実測図(9)

・Ⅲ類密集型 (3)

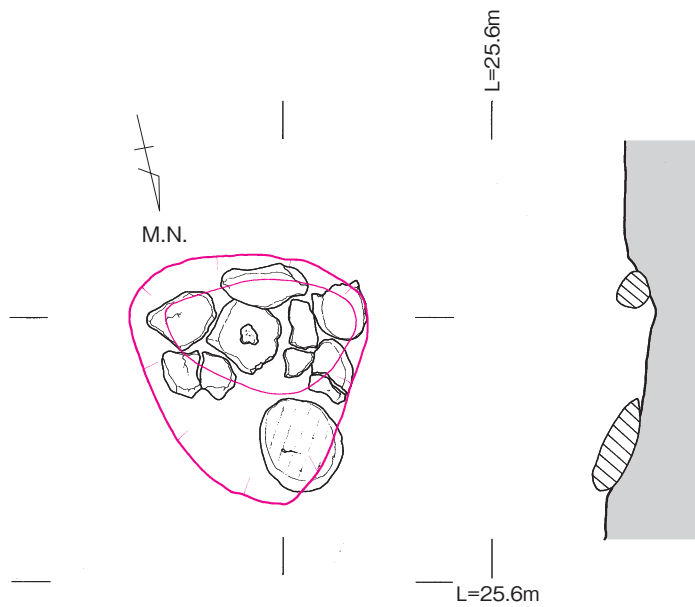


第29図 A区集石遺構実測図 (10)

・皿類散在型 (1)



〈検出状況〉



〈配石検出状況〉



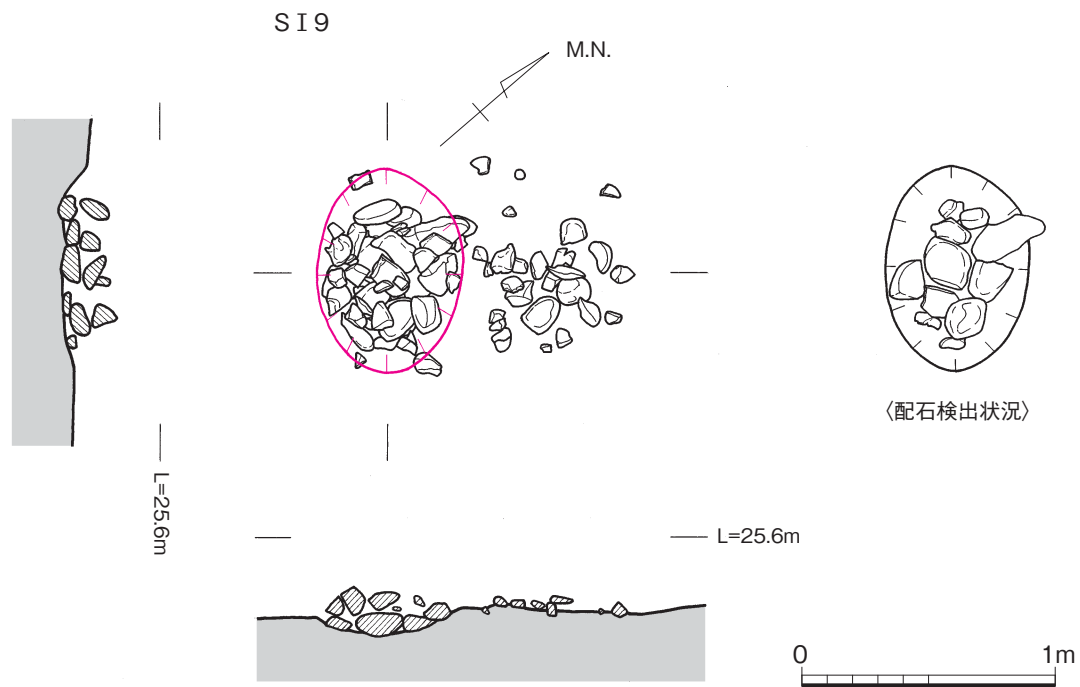
第30図 A区集石遺構実測図 (11)

された。B区は牛の放牧場として造成された際に多くが削平されており、集石遺構も上部を失っているものもあり影響を受けている。確認された礫を中心に掘り下げを行い散礫を確認した後、散礫の礫を取りはずした。その結果10基の集石遺構を検出した(33号～42号集石遺構：SI33～SI42)。集石遺構の中から縄文土器の破片が数点出土している。B2区の集石遺構の形態は、I類型が5基(50%)、II類型は4基(40%)、III類型が1基(10%)に分けられる。また礫の集中形態は、I類型は集中型が5基(50%)で、II類型は密集型が1基(10%)、集中

型が3基(30%)、III類型は密集型が1基(10%)に分けられる。

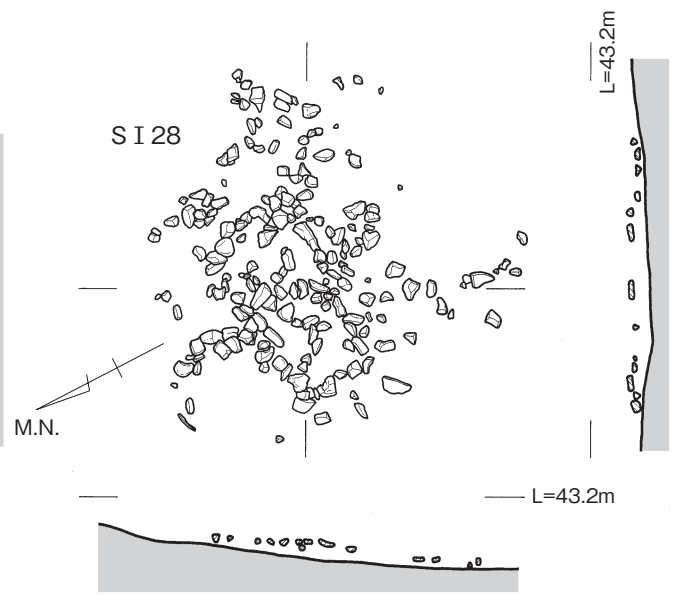
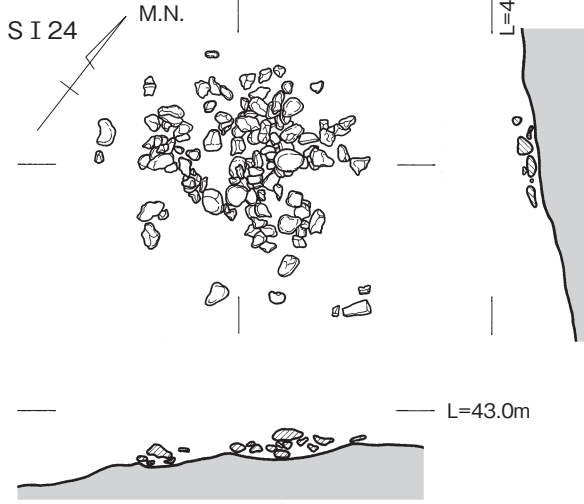
集石遺構の礫について、石材別では8割以上がホルンフェルスと砂岩で占め、ホルンフェルスと砂岩が半々である。礫の完形率では40%未満が8～9割を占める。礫の赤化率では、9割以上が赤化している。

・ III類散在型

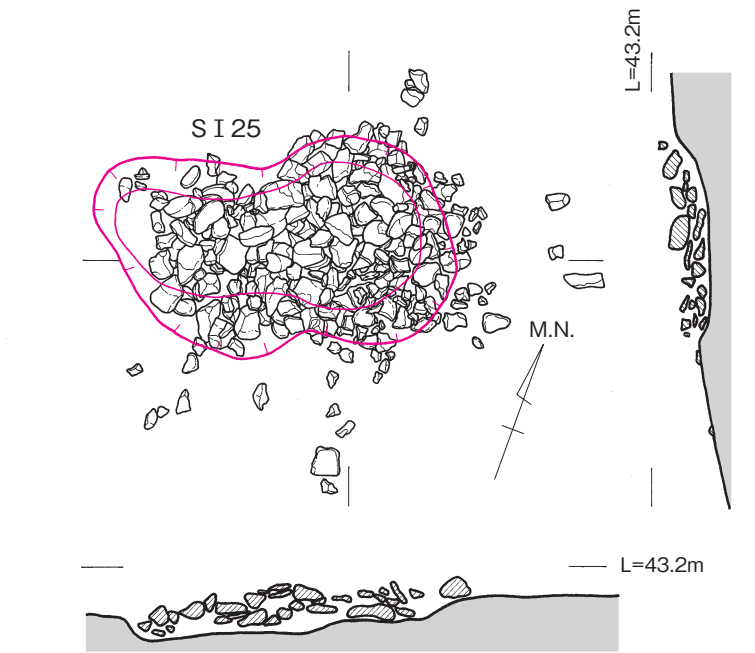
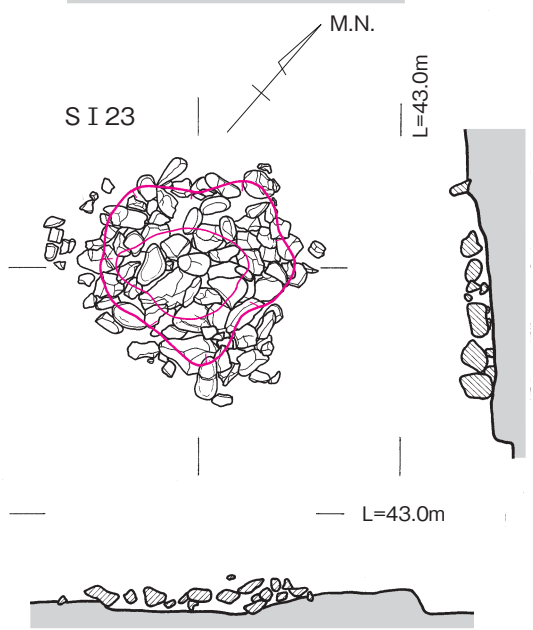
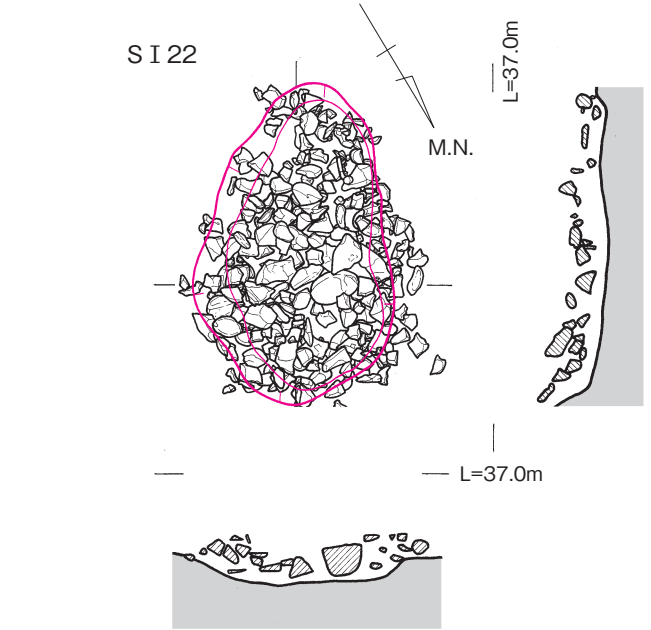
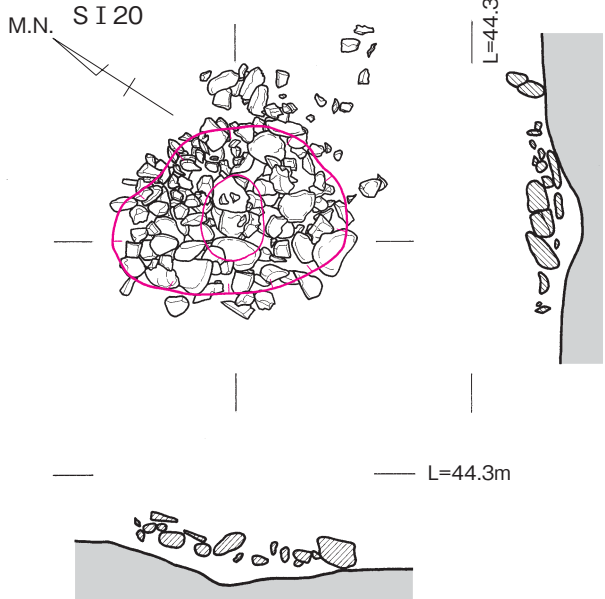


第31図 A区集石遺構実測図(12)

・ I類散在型

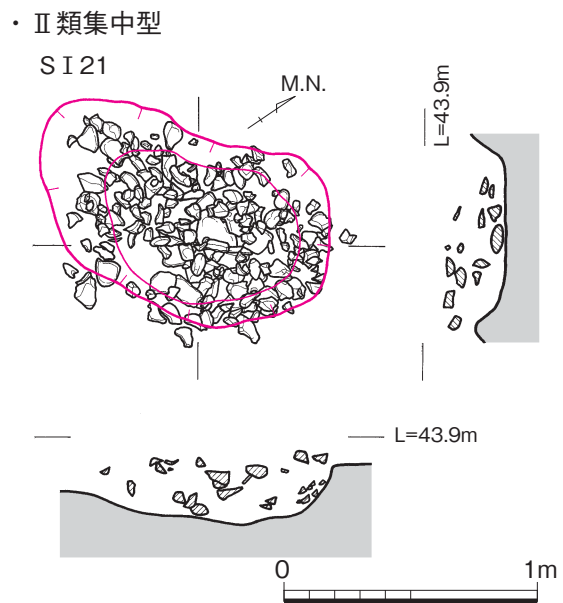
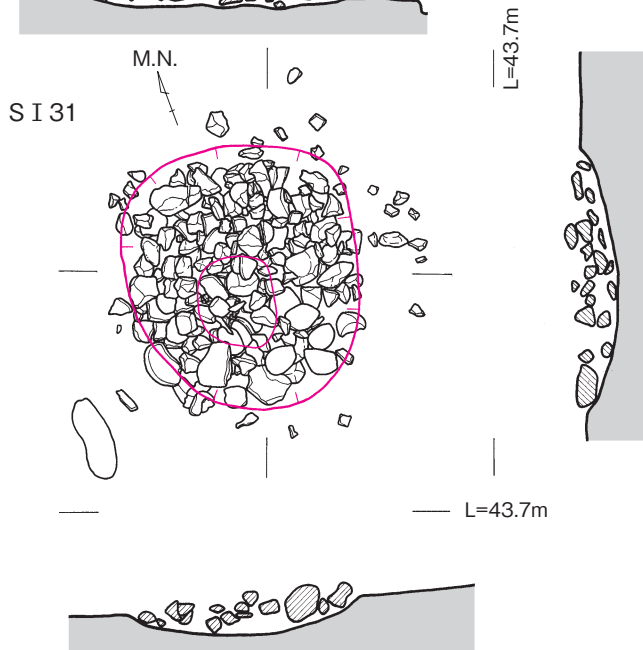
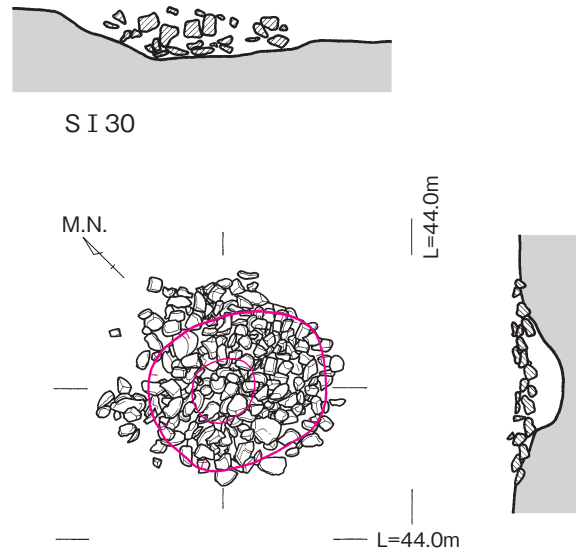
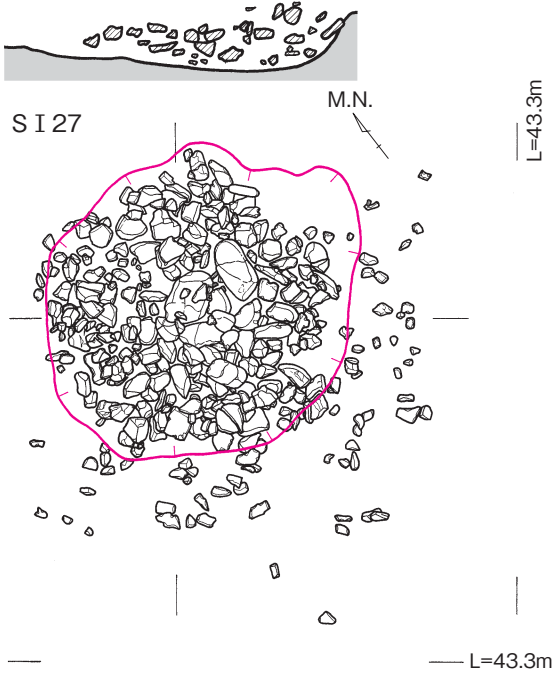
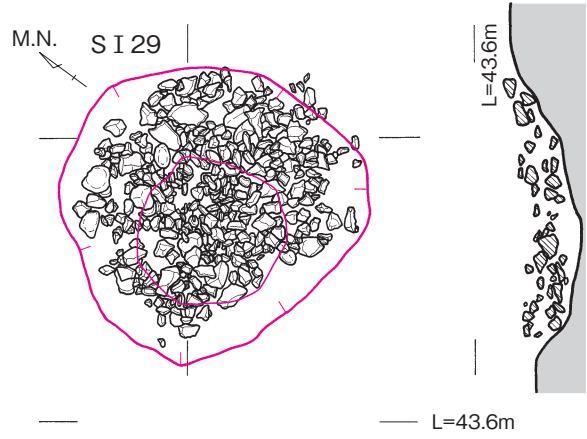
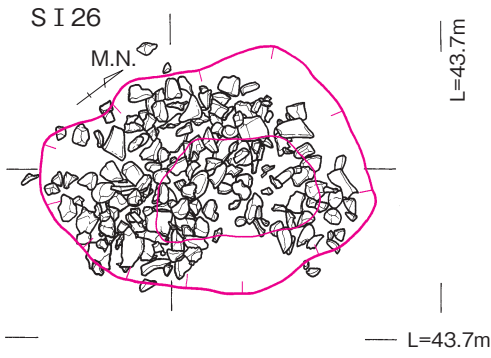


・ II類密集型 (1)

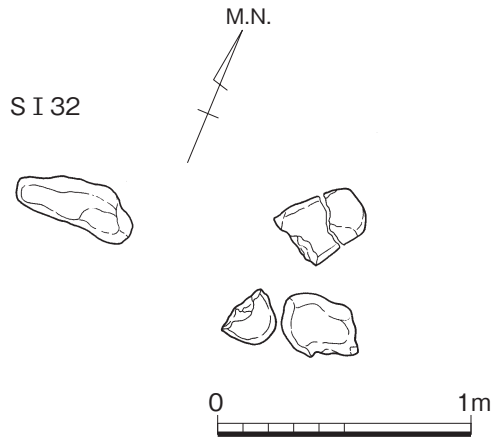


第32図 B-1区集石遺構実測図 (1)

・Ⅱ類密集型 (2)



第33図 B-1区集石遺構実測図 (2)



第34図 B-1区集石遺構実測図 (3)

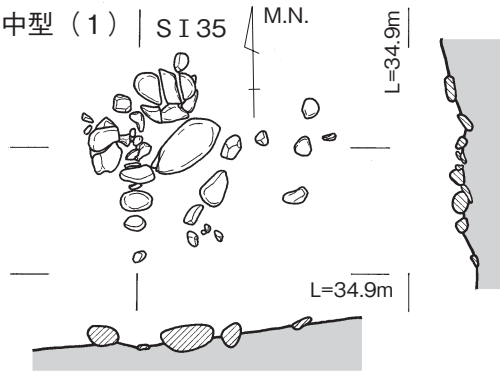
第4表 集石遺構分類表

調査区	分類		基数	集石遺構番号	備考
	形態	礫密集度			
A区	I類	密集型	0		
		集中型	2	SI3、SI7	
		散在型	5	SI4、SI13、SI14、SI16、SI18	
	II類	密集型	1	SI6	
		集中型	3	SI1、SI17、SI19	
		散在型	2	SI11、SI15	
	III類	密集型	4	SI2、SI5、SI10、SI12	
		集中型	0		
		散在型	2	SI8、SI9	
B-1区	I類	密集型	0		
		集中型	0		
		散在型	2	SI24、SI28	
	II類	密集型	9	SI20、SI22、SI23、SI25、SI26、SI27、SI29 SI30、SI31	
		集中型	1	SI21	
		散在型	0		
III類	密集型	0			
	集中型	0			
	散在型	0			
B-2区	I類	密集型	0		
		集中型	5	SI35、SI37、SI38、SI39、SI41	
		散在型	0		
	II類	密集型	1	SI40	
		集中型	3	SI33、SI34、SI42	
		散在型	0		
	III類	密集型	1	SI36	
		集中型	0		
散在型	0				

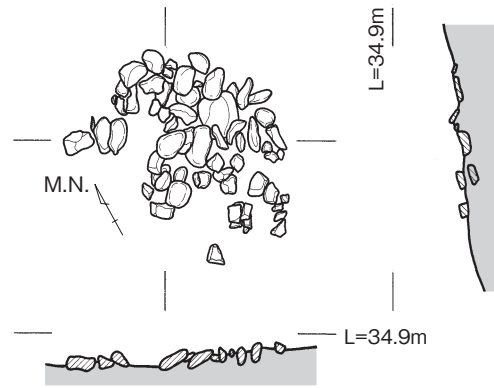
※SI 32は構成する礫数が少なく、中心となる遺構と考えられるので、分類表には入れてない。

第33図 B-1区集石遺構実測図 (3)

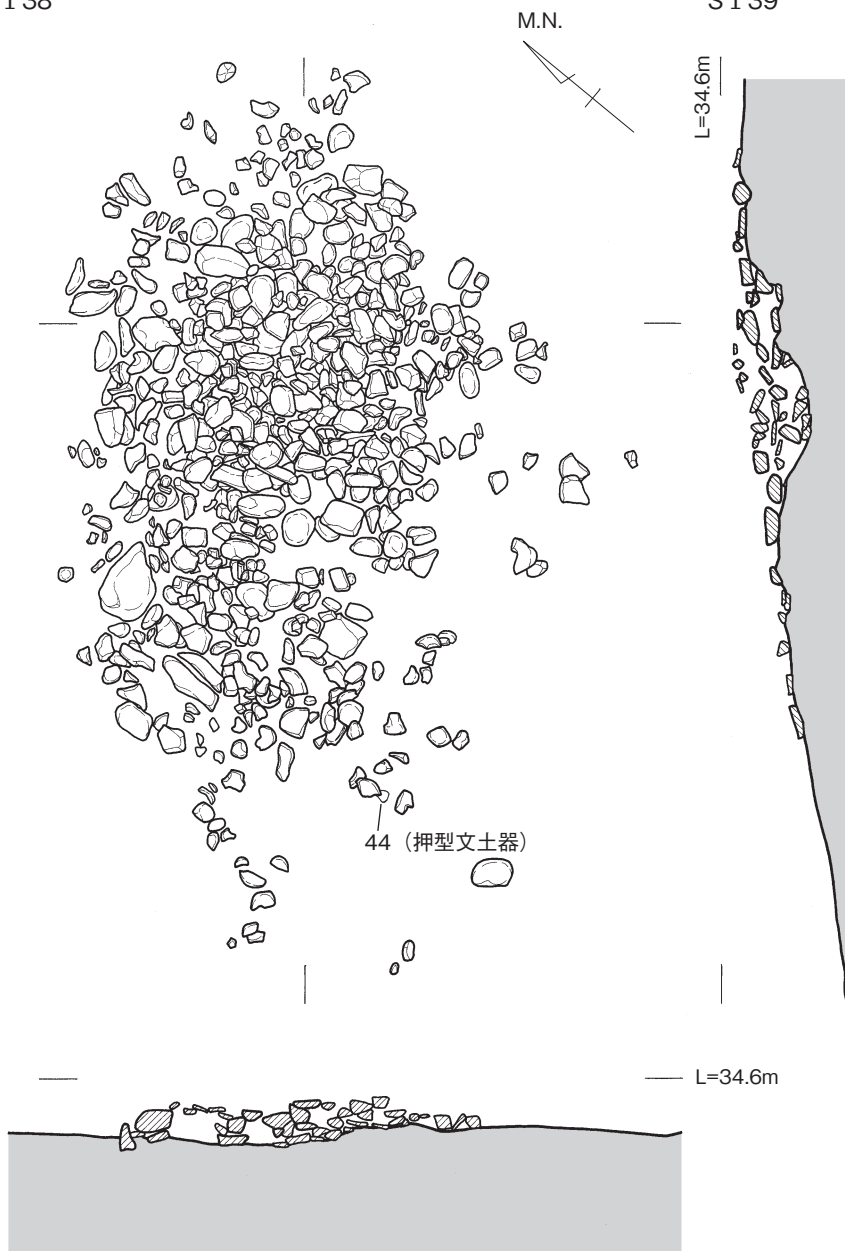
・ I類集中型 (1)



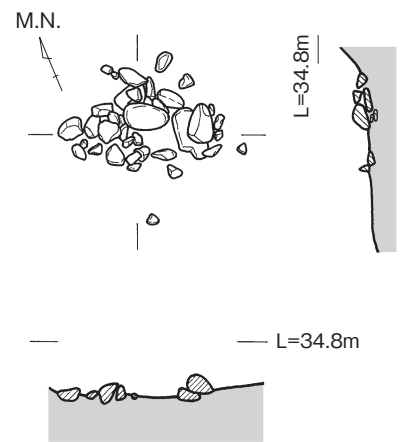
SI 37



SI 38



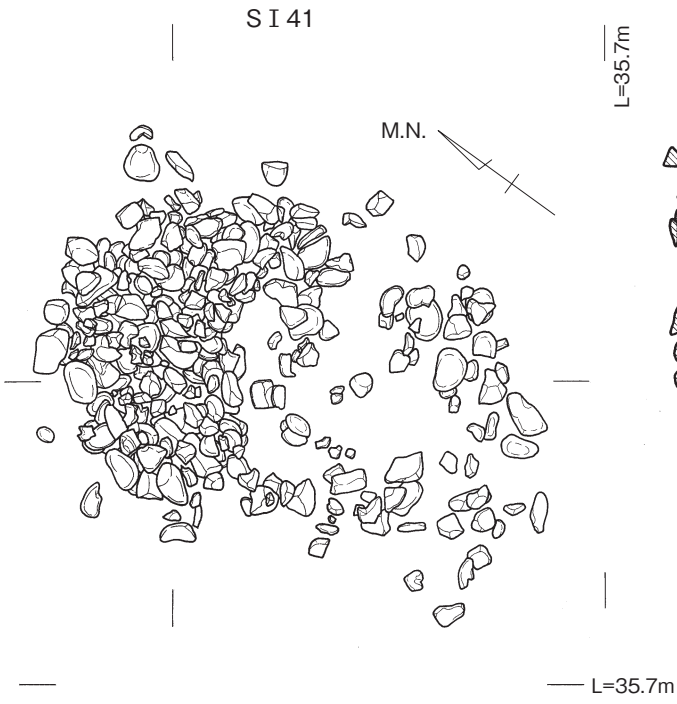
SI 39



第35図 B-2区集石遺構実測図 (1)



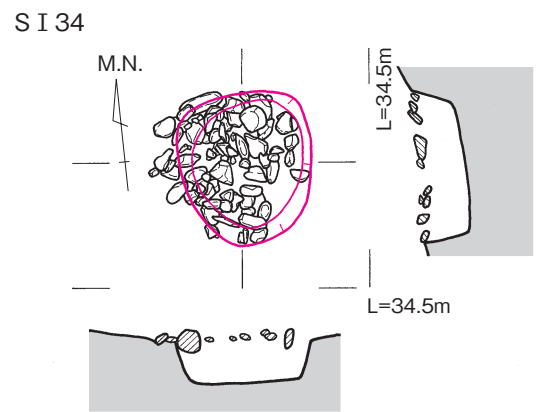
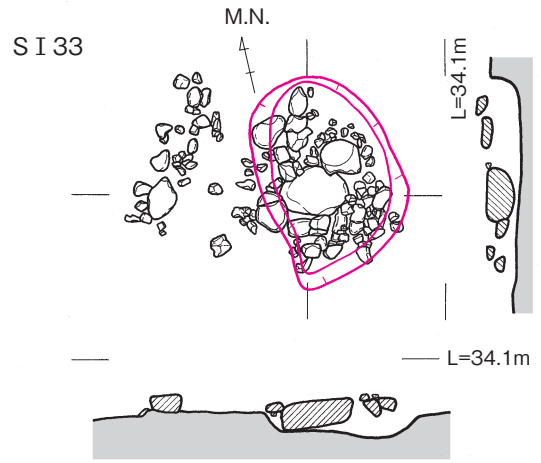
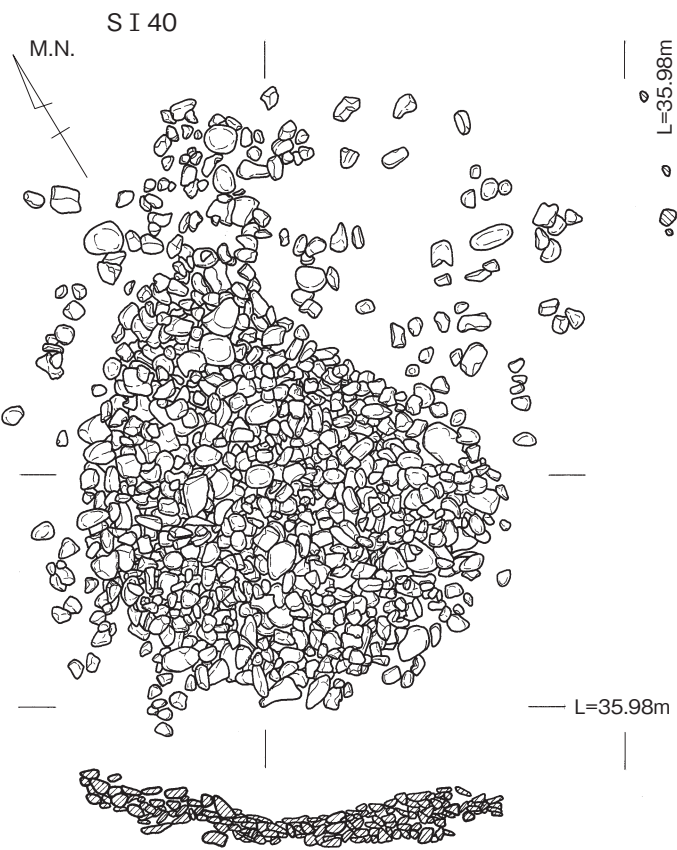
・ I類集中型 (2)



・ II類集中型

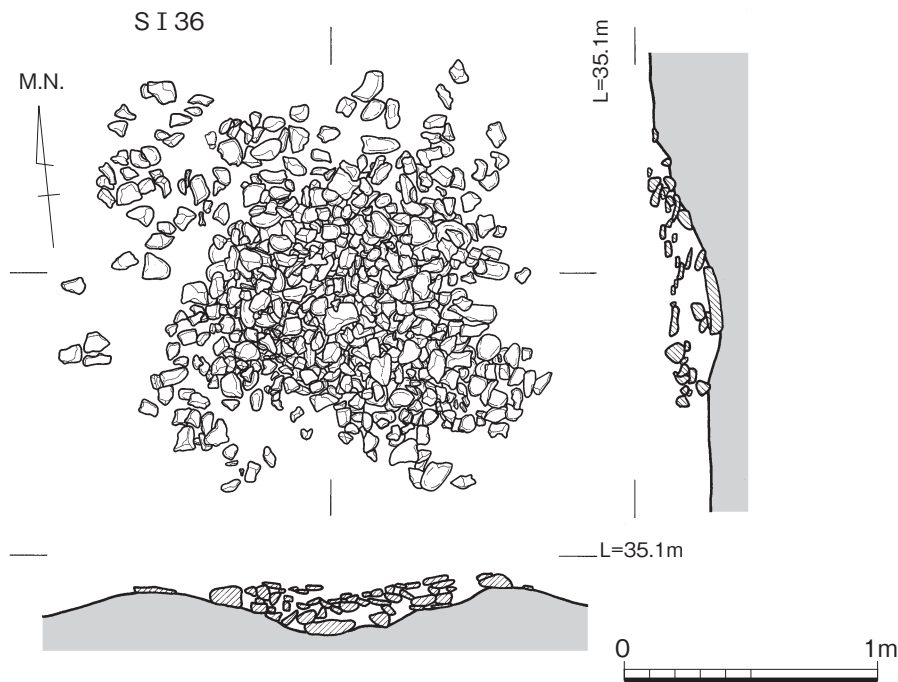


・ II類密集型



第36図 B-2区集石遺構実測図 (2)

・Ⅲ類密集型



第37図 B-2区集石遺構実測図(3)

(2) 遺物

遺物は、Ⅳ層のアカホヤ火山灰層で大きく分けている。Ⅳ層の下の層から出土したものを早期の遺物としているが、土器は出土層で、石器は出土層と器種によって早期の遺物と判断している。

土器 (第40図・第41図)

40～42は貝殻条痕文土器の口縁部である。40は貝殻円筒形土器の口縁から胴部である。胴部は丸みをもっている。口縁部は貝殻による押し引きがみられる。外面は貝殻条痕文を施している。全体的に風化気味で、特に内面の風化が著しく調整は不明瞭である。早期の前平系の桑ノ丸式土器の特徴をもつ。41～42は深鉢の口縁部である。41は口縁部に刻み目突帯を貼付しており、器面調整は内外面とも貝殻条痕後、ナデ調整を行っている。42は口縁部に刻み目を施しており、器面調整は外面に横位や斜位の貝殻条痕文後ナデ調整を行っている。内面は斜位にヘラ後ナデ調整を行っている。

43～44は押型文土器の口縁部である。43は胴部から口縁部にかけて屈曲し口縁が外反する深鉢で、口唇部に押型文を施した後、原体条痕を施した後ナデ

調整を行っている。外面には楕円押型文が施されており、口唇部の内面はヘラなどの工具で調整後、ナデ調整を行っており、二条の原体条痕が施されている。内面は横位や斜位にヘラなどの工具で調整後ナデ調整を行っている。押型文土器の田村式土器とみられる。44は口縁部は直口しており、口唇部と内面にミガキを施している。外面はナデ調整後稜形押型文を施している。穿孔があり、外面から内面にかけると孔は小さくなり貫通している。

45～47は孔列文土器の口縁部であり、47のみ貫通している。45は内外面ともナデ調整を施している。46は口唇部を貝殻条痕後ナデ調整を行っており、外面はヘラ後ナデ、内面は貝殻条痕後ナデ調整を行っている。47は内外面とも貝殻条痕後ナデ調整を行っている。46・47は二孔が対で穿孔されているとみられる。出土地点が丘陵部の斜面とA区の落ち込んでいる箇所流れ込みとみられる。時期は縄文時代晩期の孔列文土器と思われる。

48～50は貝殻条痕文土器の胴部である。48は深鉢の胴部であり、内外面とも貝殻条痕後ナデ調整を行っている。外面にわずかにススが付着している。49は胴部で張り出し部分である。器面調整は内外面とも

ナデである。外面に部分的にススが付着している。50は浅鉢の胴部であり、器面調整は内外面ともココナデ後ミガキが施されている。

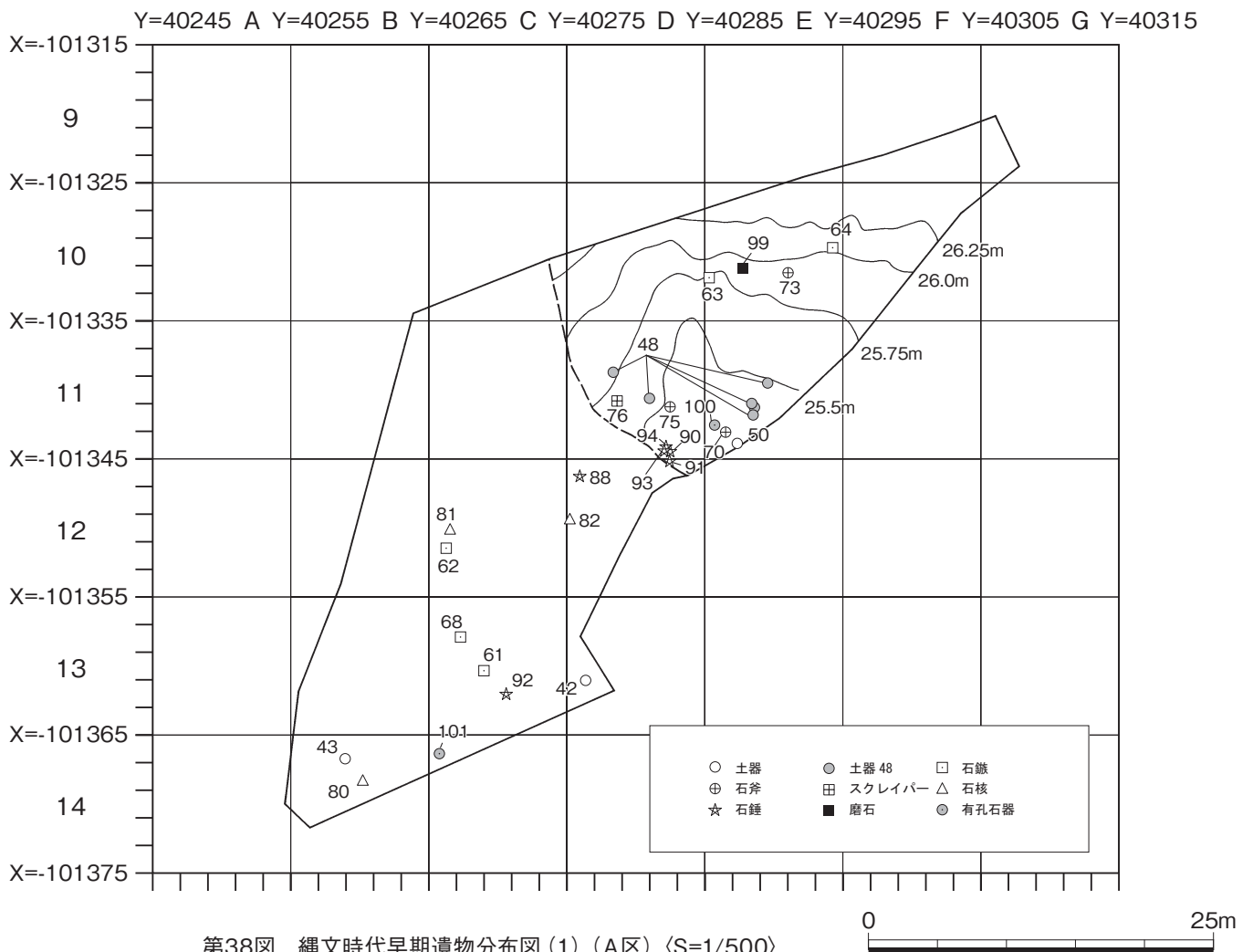
51～53は底部である。51は深鉢の胴部から底部であり、外面は貝殻条痕文を施した後ナデ調整を行っている。内面はナデであるが風化気味である。底部はナデ後ミガキが施されている。52は深鉢の底部であり、内外面はナデ調整で、外面に部分的にミガキが施されている。底部はナデ後ミガキが施されている。53は深鉢の底部であり、内外面ともナデている。内面の底部付近に指押さえがみられ、底部の端部が張り出している。

石器 (第42図～45図)

54～69は石鏃である。54～60の形態はⅠ類に分類される。54はⅠ類aに分類され、石材は黒曜石である。55～60はⅠ類bに分類される。55・57・59・60の石材は黒曜石であり、56・58の石材はチャートである。61～68はⅡ類bに分類される。61・65～68の石材は黒曜石である。62～64の石材は流紋岩である。69はⅢ類に分類され、石材は黒曜石である。

70～75は石斧である。70～74は打製石斧で、75は磨製石斧である。石材はいずれもホルンフェルスである。

76～78はスクレイパーである。76はエンド・スク



レイパーでⅠ類に分類される。石材は鹿児島県日東産の黒曜石である。77・78はサイド・スクレイパーでⅡ類に分類される。77・78の石材は流紋岩である。

79は石錐である。石材は頁岩で、先端を欠損している。

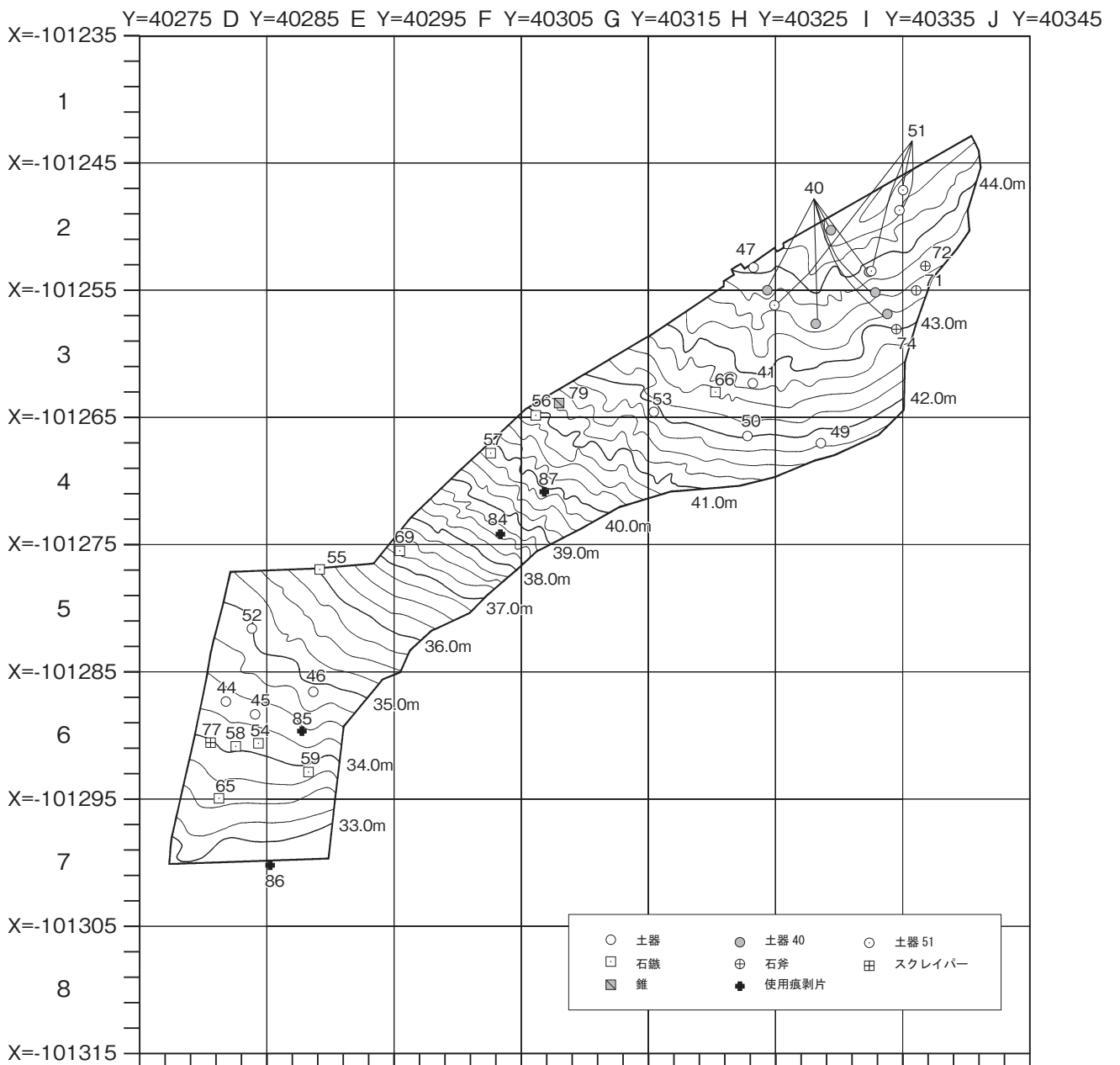
80～82は石核である。80はⅠ類に分類され、石材はホルンフェルスである。81・82はⅡ類に分類され、81の石材はホルンフェルスであり、82の石材は黒曜石である。

83～87は使用痕剥片である。83～86はⅠ類に分類

される。83の石材は黒曜石であり、84～86の石材は流紋岩である。87はⅡ類に分類され、石材は流紋岩である。

88～95は石錘である。いずれも丸石の両端に縄掛け用の切り込みを施した切目石錘である。石材はいずれも砂岩である。

96は敲石である。Ⅱ類に分類され、石材は砂岩である。集石遺構を検出したA区の散礫中から出土した。



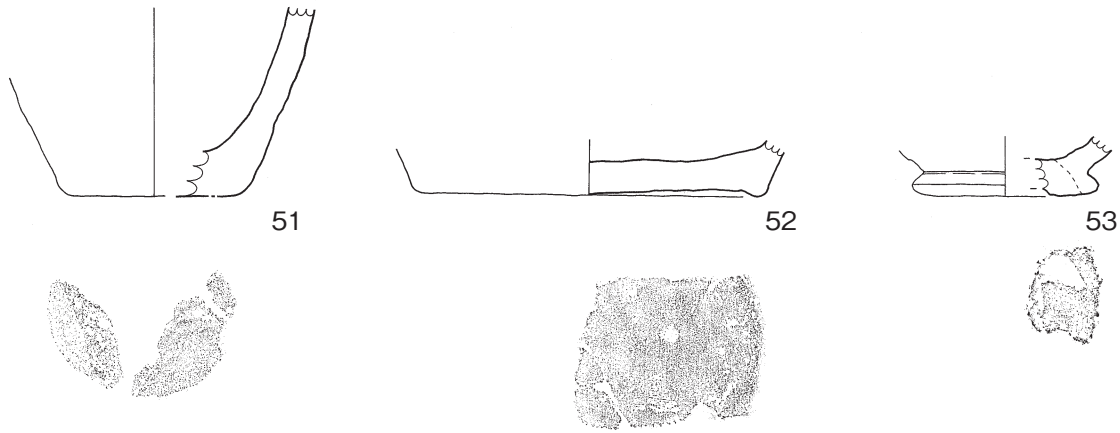
第39図 縄文時代早期遺物分布図(2)(B区)〈S=1/500〉



第40図 縄文時代早期の遺物実測図（1）

97~99は磨石である。いずれもI類に分類され、
 石材は尾鈴山酸性岩類である。
 100~101は有孔石器である。加工はみられないが

自然に孔が空いている石を持ち込んでいるとみられる。
 用途は不明である。石材は100がノジュールで、
 101が砂岩である。

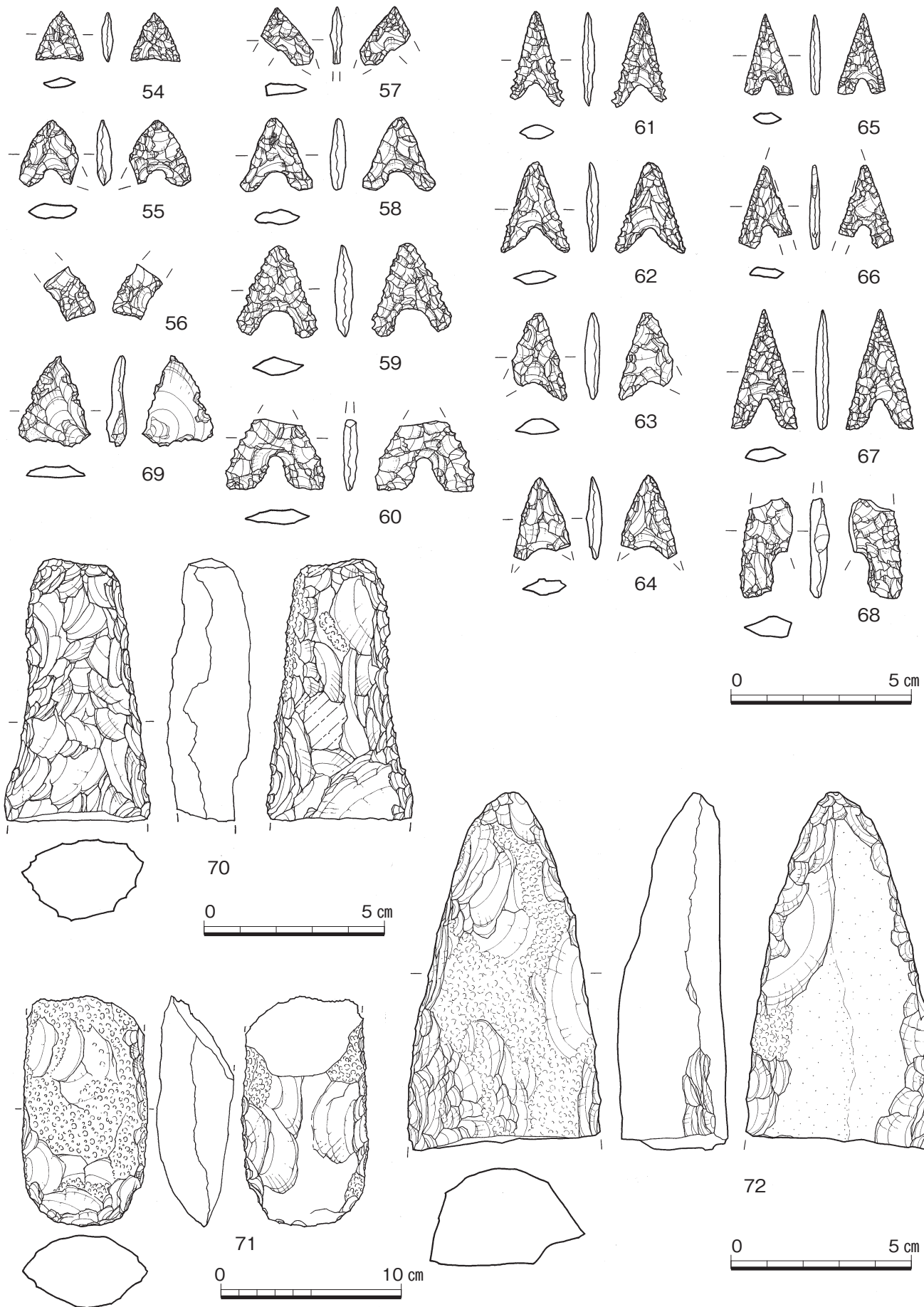


第41図 縄文時代早期の遺物実測図(2)

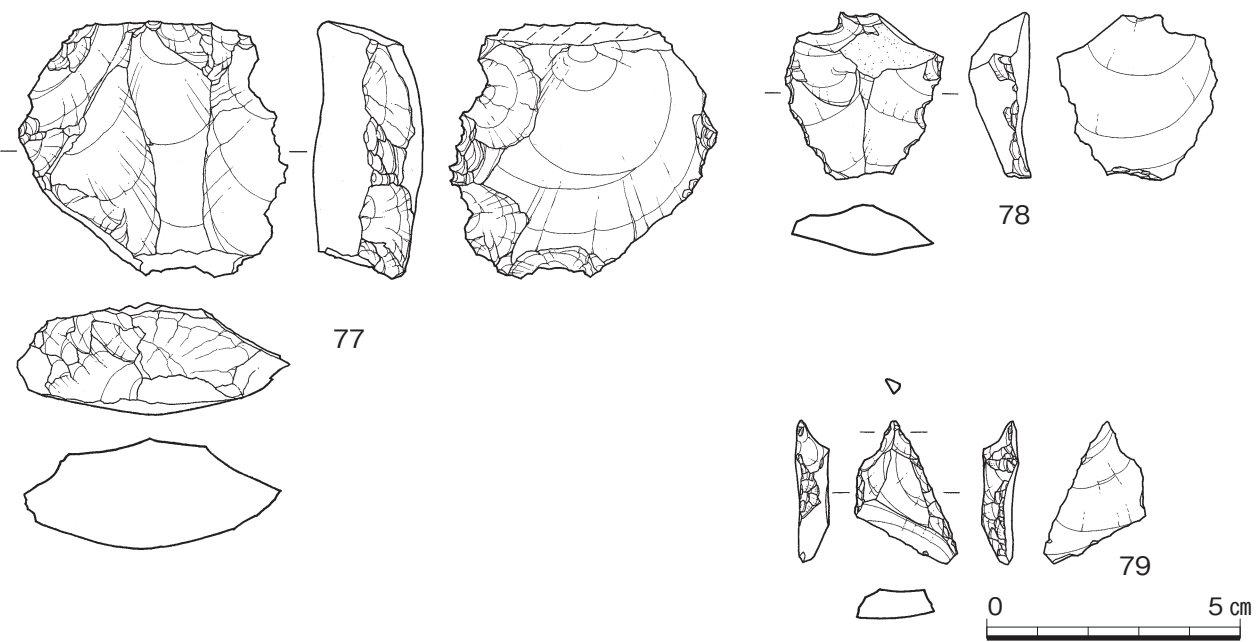
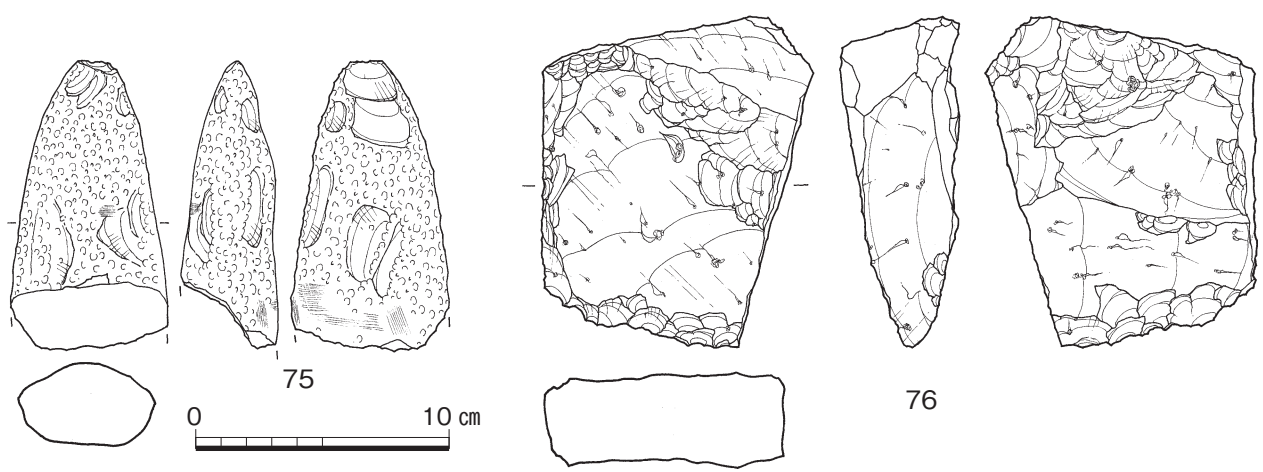
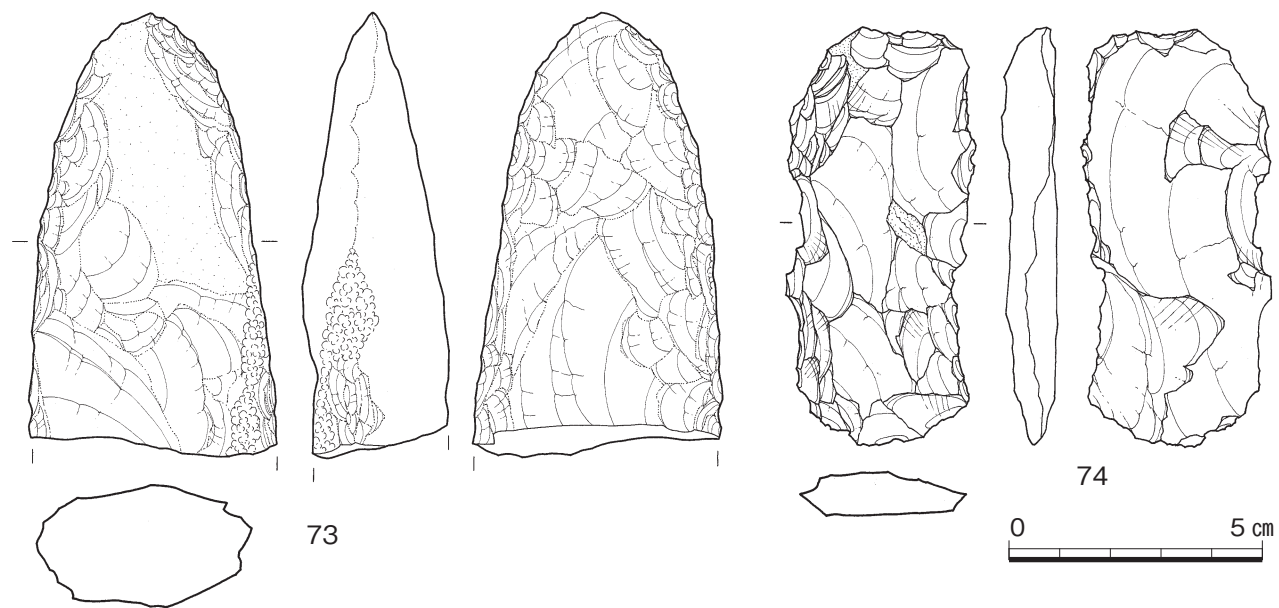


第5表 土器観察表①

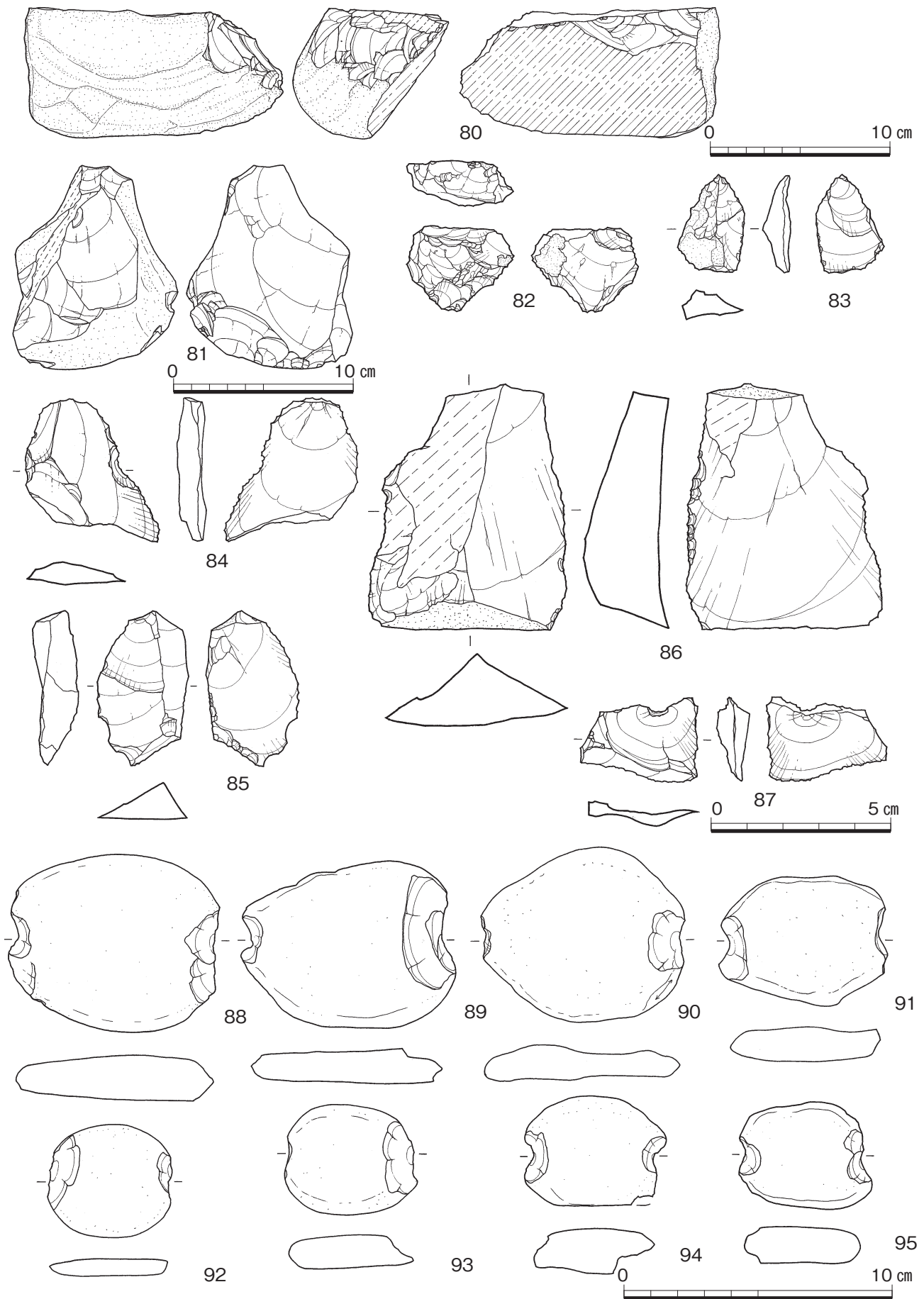
番号	種別	出土区	器種	部位	法量			焼成	文様及び調整		色調		胎土	備考
					口径	底径	器高		外面	内面	外面	内面		
40	縄文土器	B区	円筒土器	口縁~胴部	21.7			良好	口縁部に貝殻による押し引き。貝殻条痕。全体的に風化気味。	風化が著しく調整が不明瞭。	にぶい黄橙(10YR7/4)	褐灰(10YR5/1)	1mm以下の黒色粒、1mm以下の乳白色粒、微細な無色透明光沢粒、1mm以下の赤褐色粒を含む。	桑ノ丸式
41	縄文土器	B区	深鉢	口縁				良好	口縁部に刻み目突帯、貝殻条痕の後ナデ。	貝殻条痕の後、ナデ。	にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	3mm以下の赤褐色粒、2mm以下の乳白色粒、2mm以下の黒褐色粒、微細な無色透明光沢粒を含む。	
42	縄文土器	B区	深鉢	口縁				良好	横方向や斜方向の貝殻条痕後ナデ。	斜方向にヘラ後、ナデ。	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の透明光沢粒、2mm以下の褐灰色粒を含む。2mm以下の灰白色粒を少し含む。2mm以下の黒色光沢粒をわずかに含む。	
43	縄文土器	B区	深鉢	口縁				良好	口唇部押し型文後、原体条痕後ナデ。楕円押型文。	ヘラや工具などの調整後ナデ。横二条の原体条痕。横方向や斜方向にヘラや工具などで調整後、ナデ。	にぶい黄橙(10YR6/4)	暗灰黄(2.5Y5/2)	5mm以下の灰白色粒を多く含む。3mm以下の乳白色粒、3mm以下の赤褐色粒を含む。2mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。1mm以下の黒色光沢粒をこくわずかに含む。	楕円押型土器 田村式
44	縄文土器	B区	深鉢	口縁				良好	口唇部ミガキ有り。ナデ後稜形押し型文。穿孔有り(貫通)。	ヨコナデ。ミガキあり。	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	2mm以下の無色透明な光沢粒、1mm以下の黒色光沢粒、1mm以下の乳白色粒、5mm以下の灰褐色粒を含む。	稜形押し型土器
45	縄文土器	B区		口縁				良好	穿孔有り。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下の透明光沢粒を多く含む。2mm以下の灰白色粒を含む。1mm以下の黒色光沢粒をわずかに含む。1mm以下の赤褐色粒をこくわずかに含む。	
46	縄文土器	B区		口縁				良好	穿孔有り。ヘラ後ナデ。口唇部は貝殻条痕後ナデ。	貝殻条痕の後、ナデ。	浅黄橙(10YR8/3)	灰白(2.5Y8/2)	5mm以下の褐色粒を多く含む。3mm以下の灰褐色粒、乳白色粒を含む。1mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。2mm以下の明赤褐色の光沢粒をこくわずかに含む。	
47	縄文土器	B区		口縁				良好	穿孔有り(貫通)。貝殻条痕後ナデ。	貝殻条痕の後、ナデ。	橙(5YR7/6)	橙(5YR6/6)	3mm以下の灰白色粒を多く含む。1mm以下の透明光沢粒を含む。2mm以下の灰色粒をわずかに含む。1mm以下の暗褐色粒をこくわずかに含む。	
48	縄文土器	A区	深鉢	胴部				良好	横方向や斜方向の貝殻条痕後ナデ。わずかにスス付着。	横や斜方向に貝殻条痕後ナデ。	にぶい黄(2.5Y6/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	3mm以下の赤褐色粒を多く含む。3mm以下の灰黄褐色粒、2mm以下の灰白色粒を含む。1mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。1mm以下の黒色光沢粒をこくわずかに含む。	
49	縄文土器	B区		胴部(屈曲部)				良好	ナデ。部分的にスス付着。	ナデ。	にぶい黄橙(10YR6/4)	灰(5Y6/1)	1mm以下の乳白色粒、2mm以下の灰褐色粒、微細な無色透明光沢粒を含む。	胴部が張り出す
50	縄文土器	A・B区	浅鉢	胴部				良好	ヨコナデ後ミガキ。	ヨコナデ後ミガキ。	にぶい赤褐色(5YR5/4)	にぶい赤褐色(5YR5/4)	微細な黒褐色粒、微細な光沢粒を多く含む。1mm以下の灰白色粒を含む。	
51	縄文土器	B区	鉢	胴部~底部	5.6			良好	貝殻条痕後ナデ。部分的にミガキ。底部ナデ後ミガキ。	ナデ。風化気味。	明黄褐色(10YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	1mm以下の透明粒を多く含む。1mm以下の黒色粒を含む。1mm以下の乳白色粒をわずかに含む。	
52	縄文土器	B区	深鉢	底部	13.4			良好	ナデ後ミガキ。	ナデ。	明褐色(7.5YR5/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	2mm以下の透明粒を多く含む。2mm以下の黒色粒を含む。	
53	縄文土器	B区	鉢	底部	5.5			良好	ナデ。	ナデ。指押さえ。	浅黄(2.5Y7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	2mm以下の暗褐色粒を多く含む。黒褐色粒を含む。灰白色粒を少し含む。透明粒をこくわずかに含む。	



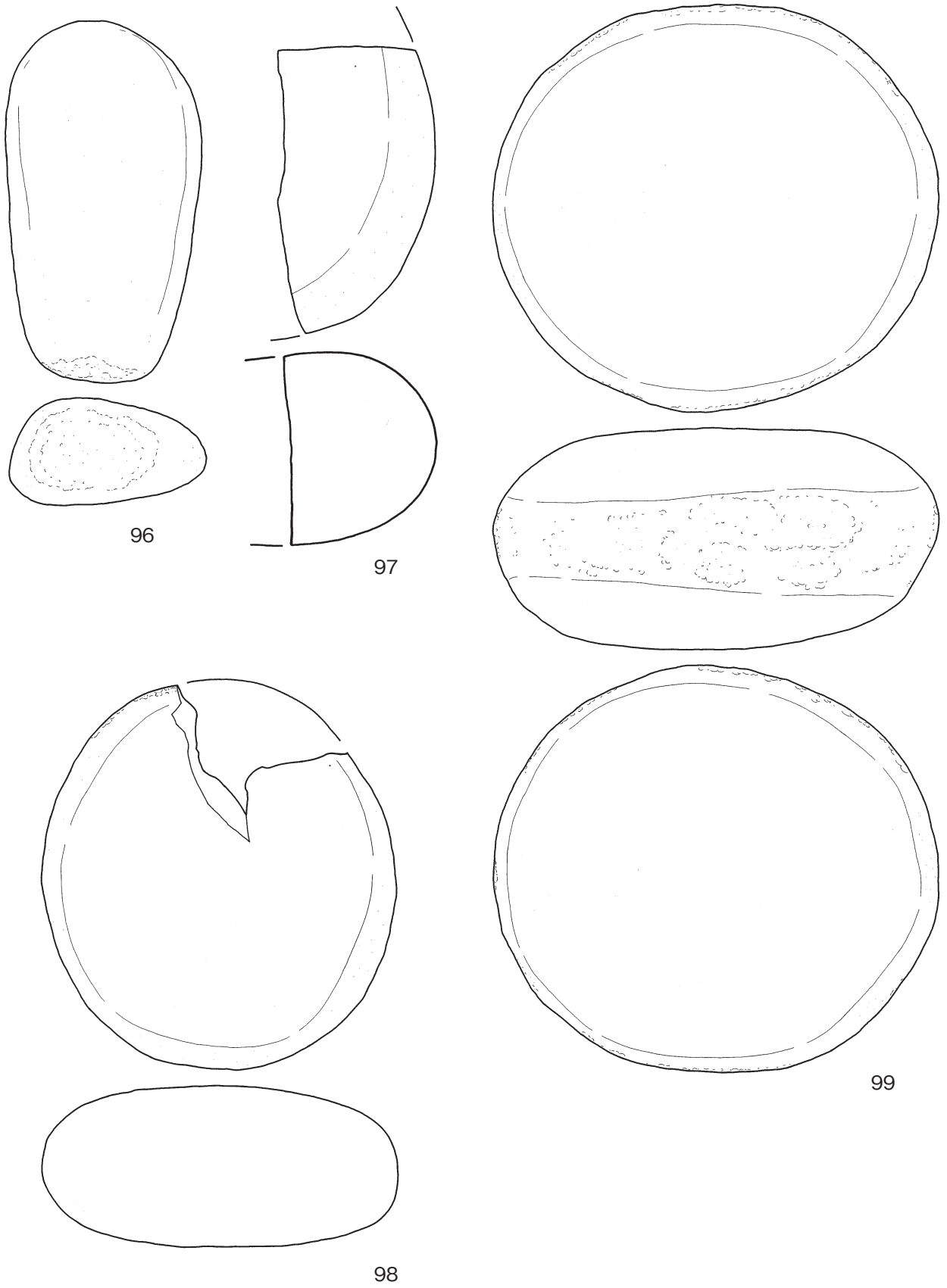
第42図 縄文時代早期の遺物実測図 (3)



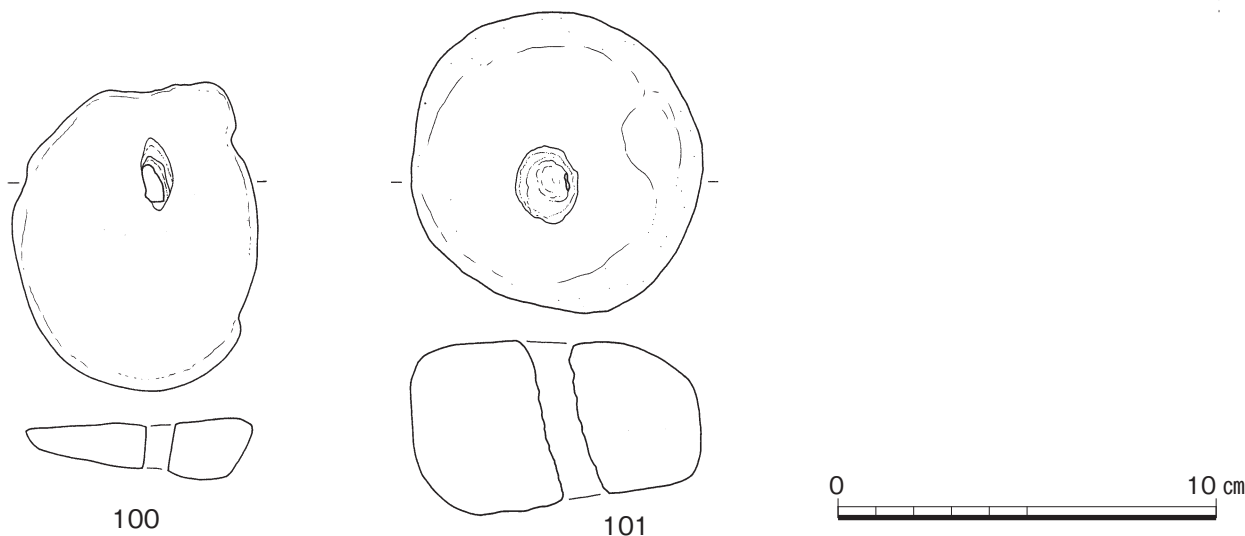
第43図 縄文時代早期の遺物実測図 (4)



第44図 縄文時代早期の遺物実測図 (5)



第45図 縄文時代早期の遺物実測図（6）



第46図 縄文時代早期の遺物実測図(7)

第6表 石器計測表(縄文時代)

レイアウトNo.	調査区	Gr.	層	取り上げNo.	石材	X座標	Y座標	Z座標	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
54	B1	D 6	Ⅶ	5331	黒曜石	-101,290.613	40,284.175	34.043	石鏃	1.3	1.3	0.3	0.4	
55	B2	E 5	Ⅶ	5376	黒曜石	-101,276.863	40,288.971	35.433	石鏃	1.8	1.6	0.4	1	
69	B1	G 5	Ⅶ	5226	黒曜石	-101,275.437	40,295.452	36.411	石鏃	1.6	1.9	0.5	1.6	
56	B1	G 3	Ⅷ	5464	チャート	-101,264.854	40,306.017	42.735	石鏃	1.5	1.6	4.5	0.6	欠損
57	B1	F 4	Ⅶ	5159	黒曜石	-101,267.782	40,302.440	39.492	石鏃	1.6	1.45	0.3	0.5	
58	B2	D 6	Ⅷ	5697	チャート	-101,290.858	40,282.431	34.456	石鏃	2	2	0.4	1.3	
59	B1	E 6	Ⅷ	5640	黒曜石	-101,292.907	40,288.120	34.980	石鏃	2.55	2.2	0.5	2	
60	B2	D 5	V	5682	黒曜石	-101,294.925	40,281.213	35.125	石鏃	2	2.75	0.4	2	
61	A1	B12	Ⅶ	773	黒曜石	-101,360.367	40,268.975	25.461	石鏃	2.6	1.5	0.35	0.7	姫島産
62	A1	C12	Ⅷ	765	流紋岩	-101,351.532	40,266.259	25.736	石鏃	2.5	1.8	0.3	1	
63	A2	E10	Ⅱ	32	流紋岩	-101,331.837	40,285.274	26.071	石鏃	2.4	1.5	0.4	1.2	
64	A2	E10	Ⅱ	901	流紋岩	-101,329.716	40,294.196	25.862	石鏃	2.25	1.5	0.4	1.1	
65	B2	D 5	一括	5628	黒曜石	-101,255.573	40,368.735	35.538	石鏃	2.2	1.3	0.4	0.6	
66	B2	H 4	一括	5374	黒曜石	-101,262.938	40,320.238	43.222	石鏃	2.3	1.45	0.3	0.7	
67	B1	-	一括	-	黒曜石	-	-	-	石鏃	3.3	1.85	0.35	1.6	
68	A1	B13	I	85	黒曜石	-101,357.919	40,267.332	25.795	石鏃	2.75	1.45	0.55	1.8	
70	A2	E11	Ⅱ	797	ホルンフェルス	-101,343.028	40,286.476	25.803	石斧	7.3	4	2.2	81.8	
71	B1	J 2	Ⅶ	5013	ホルンフェルス	-101,254.982	40,336.046	44.137	石斧	12.75	7	4.3	490.9	
72	B1	J 2	Ⅶ	5011	ホルンフェルス	-101,253.096	40,336.704	43.787	石斧	9.9	5.3	3	198.7	
73	A2	D10	Ⅱ	329	ホルンフェルス	-101,331.481	40,290.960	26.519	石斧	8.75	4.9	2.8	152.5	
74	B1	I 3	Ⅶ	5076	ホルンフェルス	-101,258.107	40,334.459	42.382	石斧	8.25	3.8	1.1	41.6	
75	A3	E11	Ⅱ	1265	ホルンフェルス	-101,341.200	40,282.400	26.085	石斧	1.3	6.2	3.8	325.7	
76	A3	E11	Ⅱ	1385	黒曜石	-101,340.800	40,278.600	26.278	スクレイパー	6.5	5.4	2.4	91.6	鹿児島県日東産。石核又は剥片をスクレイパーに転用
77	B1	D 6	Ⅶ	5256	流紋岩	-101,290.597	40,280.447	33.859	スクレイパー	4.95	5.3	2.2	70.3	
78	B	-	一括	-	流紋岩	-	-	-	スクレイパー	3.3	3.1	1.2	10	
79	B1	G 3	Ⅷ	5469	頁岩	-101,263.756	40,307.848	42.646	錐	2.8	2	0.65	3.2	
80	A1	B14	Ⅲ	305	ホルンフェルス	-101,368.264	40,260.264	25.272	石核	7.3	14.5	9.2	1202	
81	A1	B13	Ⅳ	98	ホルンフェルス	-101,350.081	40,266.476	25.796	石核	11.3	9.25	3.65	465.1	
82	A3	E12	Ⅲ	1529	黒曜石	-101,349.300	40,275.200	25.816	石核	2.35	3	1.3	8.5	
83	B	-	一括	-	黒曜石	-	-	-	使用痕剥片	2.7	1.9	0.8	2.4	
84	B1	F 4	Ⅶ	5221	流紋岩	-101,274.066	40,303.248	36.461	使用痕剥片	4	3.7	0.8	9.1	
85	B1	E 6	Ⅶ	5255	流紋岩	-101,289.626	40,287.578	34.039	使用痕剥片	4.3	2.55	1.3	10	
86	B2	D 6	Ⅷ	5967	流紋岩	-101,300.101	40,285.095	34.001	使用痕剥片	6.85	5.5	2.1	74.7	
87	B1	G 4	Ⅶ	5198	流紋岩	-101,270.827	40,306.707	37.983	使用痕剥片	2.35	3.3	0.9	3.8	
88	A3	E12	Ⅱ	1344	砂岩	-101,346.200	40,275.900	26.305	石鏢	6.6	7.8	1.8	123.9	
89	A3	-	一括	-	砂岩	-	-	-	石鏢	6.3	8	1.3	89.3	
90	A3	E11	Ⅲ	1473	砂岩	-101,344.300	40,282.400	25.582	石鏢	6.6	7.5	1.4	78.2	
91	A3	E11	Ⅱ	1210	砂岩	-101,345.100	40,282.400	25.807	石鏢	4.8	5.8	1.3	63.4	
92	A1	B13	Ⅳ	113	砂岩	-101,362.002	40,270.591	25.734	石鏢	4.2	4.6	0.6	19.7	
93	A3	E11	Ⅱ	1471	砂岩	-101,344.100	40,282.100	25.656	石鏢	4.2	4.9	1.2	35.3	
94	A3	E11	Ⅲ	1472	砂岩	-101,344.300	40,282.000	25.522	石鏢	4.2	5.3	1.8	41.6	
95	A2	-	一括	-	砂岩	-	-	-	石鏢	4	5	1.3	36.9	
96	A1	-	-	-	砂岩	-	-	-	敲石	9.4	5.1	3.8	177.2	散礫中
97	A1	-	-	-	尾鈴山酸性岩	-	-	-	磨石	(13.1)	(4.1)	(5)	235.8	S I 5 (1/4 残存)
98	B2	-	-	-	尾鈴山酸性岩	-	-	-	磨石	10.1	9.3	4.2	500.5	S I 6
99	A2	D10	Ⅳ	710	尾鈴山酸性岩	-101,331.144	40,287.709	26.148	磨石	11.6	10.5	5.8	1130	
100	A2	E11	Ⅱ	816	ノジュール	-101,342.526	40,285.645	25.649	有孔石器?	8	7.8	5	415.3	
101	A1	C13	Ⅳ	1049	砂岩	-101,366.331	40,265.805	24.780	有孔石器?	8.1	6.5	1.6	110.7	

第5節 縄文時代後期・晩期の遺物

(1) 遺物 (第48図～第50図)

一次調査と二次調査において、A区でIV層のアカホヤ火山灰層 (K-Ah) の上層のⅡ・Ⅲ層中から縄文時代後期と晩期の遺物が出土している。いずれも旧地形の谷に分布している。遺構を伴わないことから流れ込みとみられる。

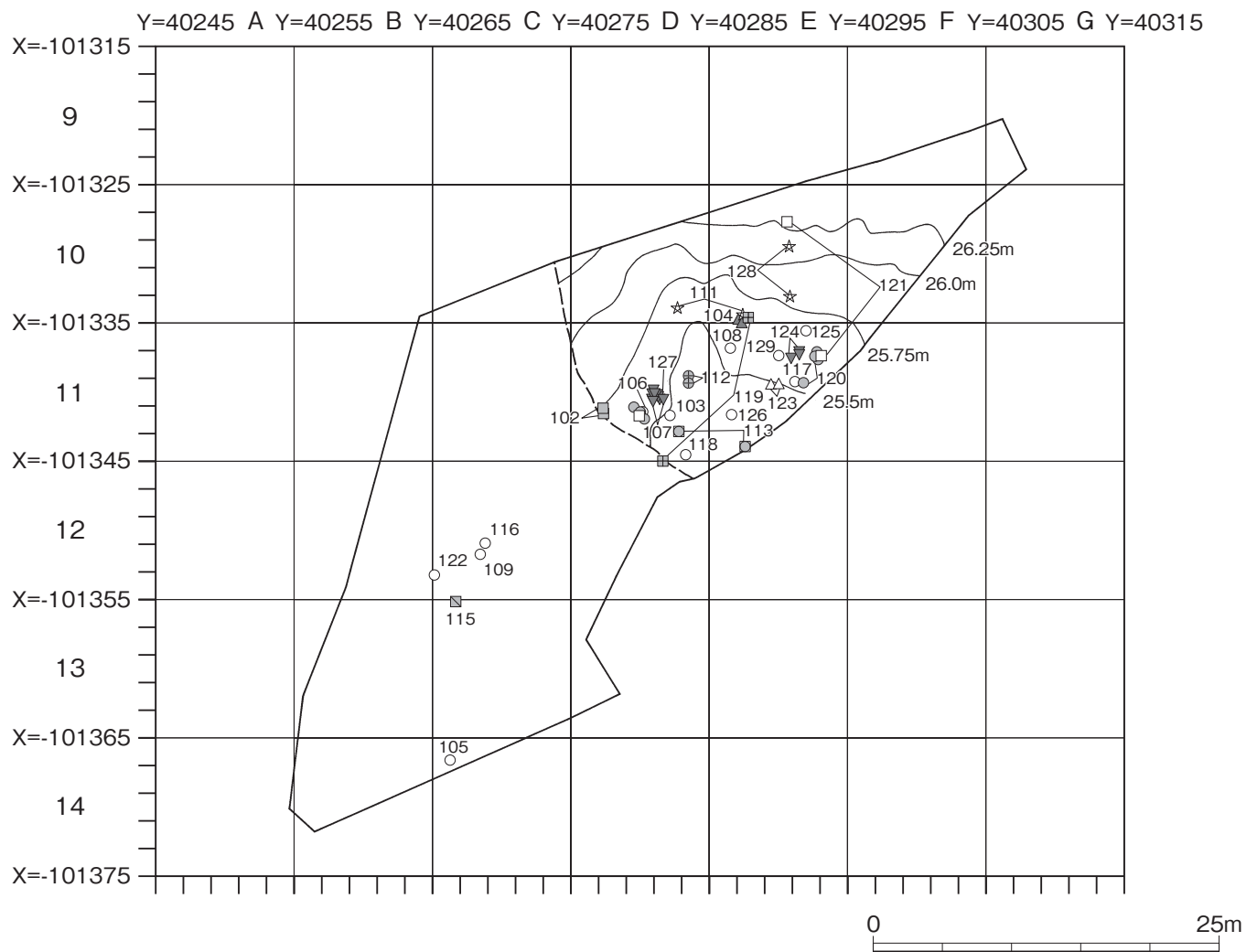
102～106は、貝殻条痕文土器の口縁である。102・103は深鉢の口縁部である。口縁は直口しており、口唇部はナデ調整で先端部が細くなっている。調整は内外面とも貝殻条痕文後ナデ調整が行われている。104は深鉢の口縁部で、口縁はやや外反気味である。外面はヘラ後ナデ、内面は貝殻条痕後ナデ調整を

行っている。105・106は深鉢の口縁で外反しており、内外面とも貝殻条痕後ナデ調整を行っている。

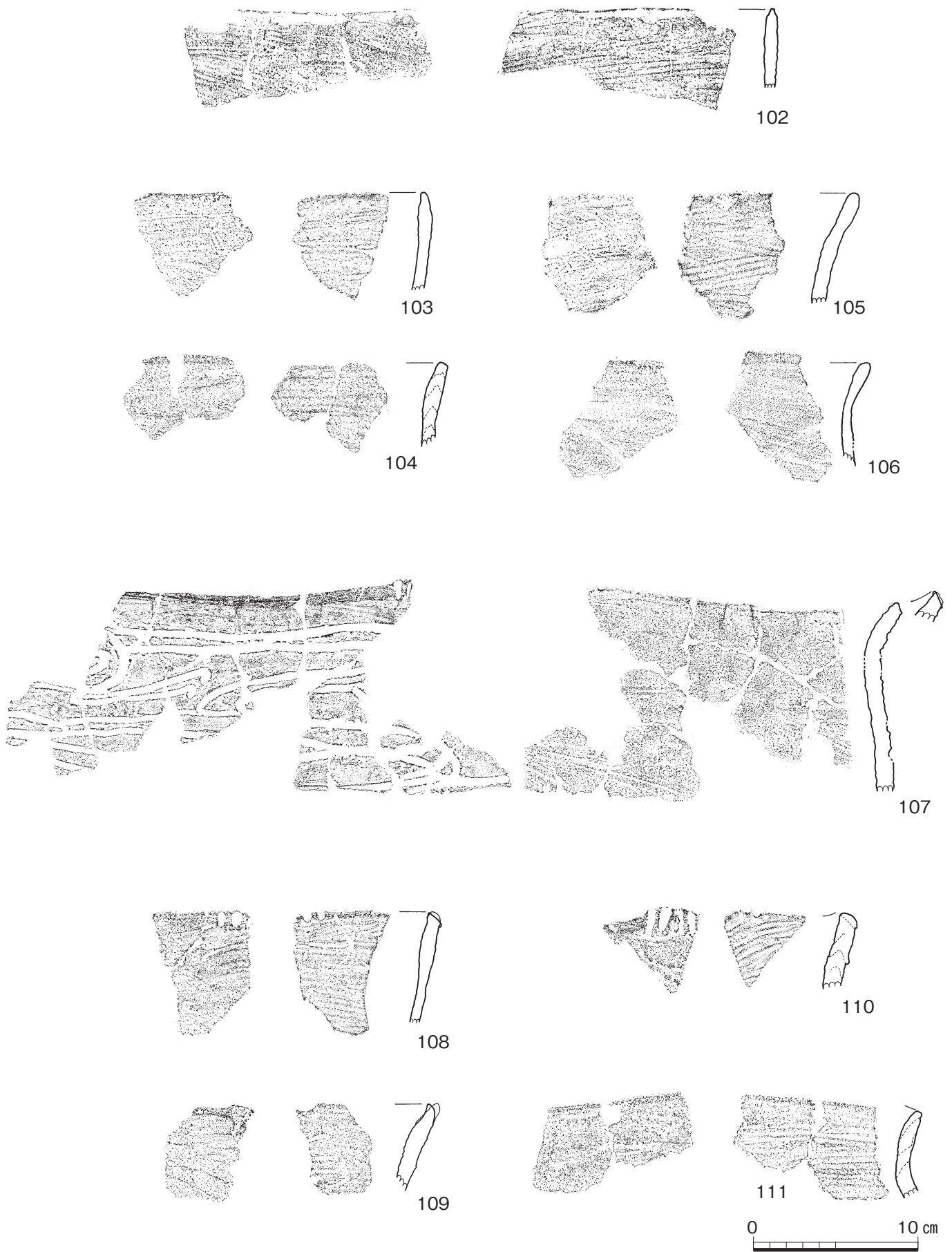
107～112は深鉢の口縁部で波状口縁とみられる。107は外面に横位や斜位に貝殻条痕後ナデ調整を行っている。また二本の平行な沈線文が施され、一部に渦巻文が施される。端部には刺突文が施される。内面は横位や斜位に貝殻条痕文後ナデ調整を行っている。阿高式系の土器とみられる。108～110は波頂部に押圧刻みが施されている。器面調整は両面とも横位や斜位の貝殻条痕後ナデ調整を行っている。

111は口縁部がやや反り気味に外反している。器面調整は両面とも貝殻条痕後ナデ調整を行っている。

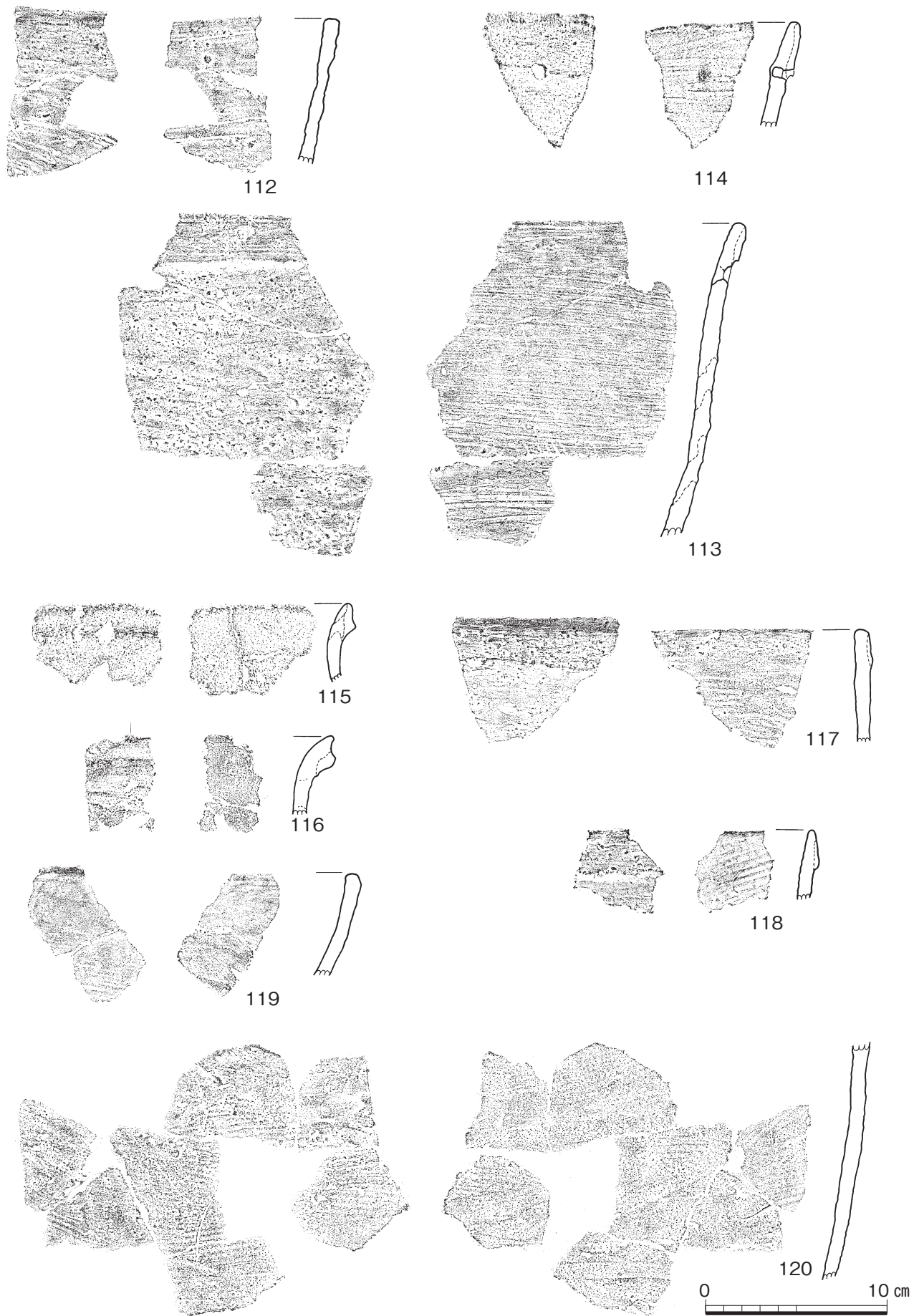
112は直口する口縁で、器面調整は横位や斜位の貝殻



第47図 縄文時代後・晩期遺物分布図 (A区) (S=1/500)



第48図 縄文時代後・晩期の遺物実測図（1）

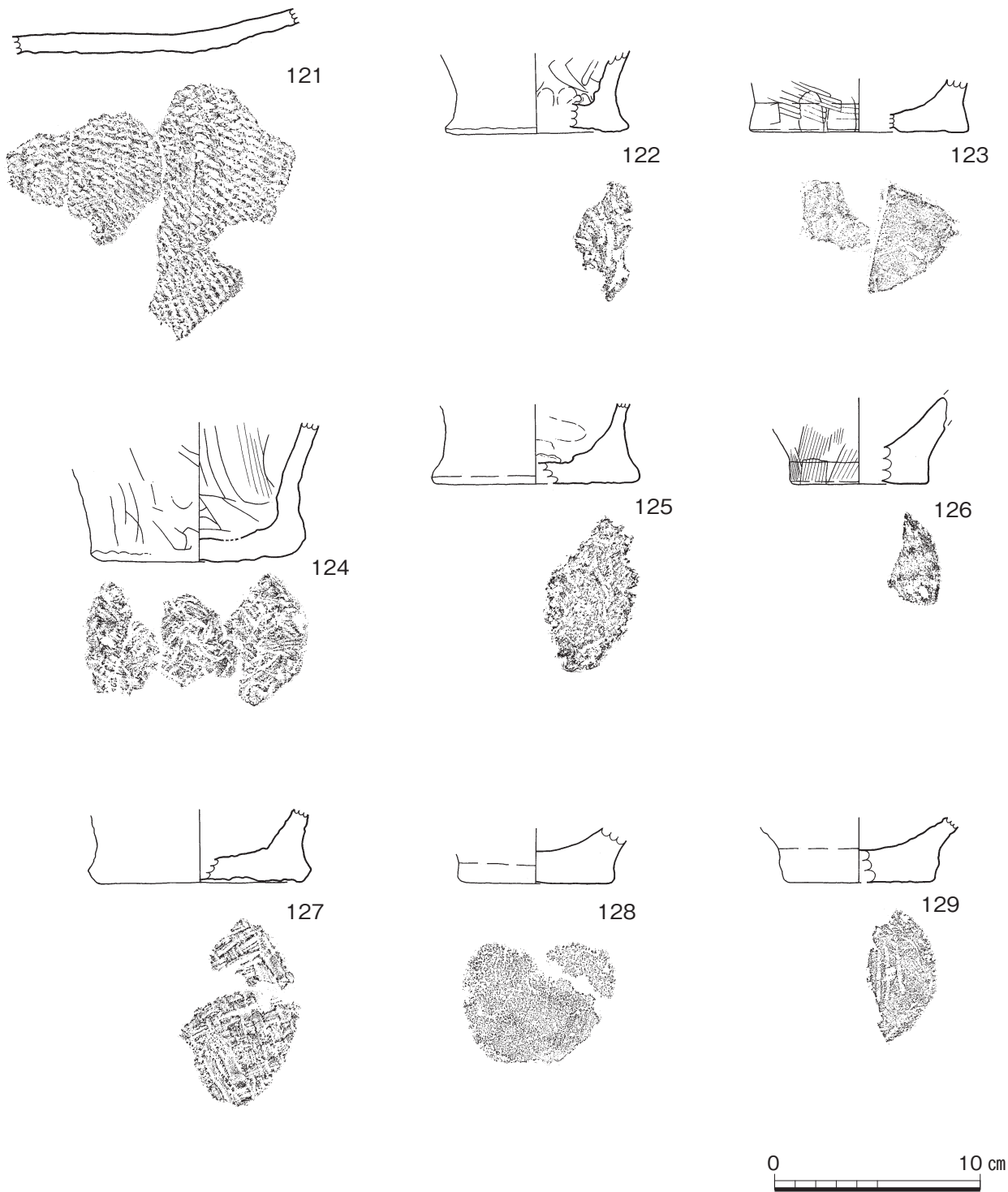


第49図 縄文時代後・晩期の遺物実測図（2）

条痕後ナデ調整が行われている。

113～118は深鉢の口縁部で幅広の突帯文が貼付されている。113は胴部がやや屈曲し口縁部がやや外反する深鉢の口縁から胴部である。口縁部に幅広の突

帯文が貼付され肥厚している。114は貼付突帯の下部に穿孔があるが未貫通である。器面調整は横位や斜位の貝殻条痕後ナデ調整を行っている。115・116はやや口縁が開き気味に外反している。いずれの器面



第50図 縄文時代後・晩期の遺物実測図（3）

調整は両面ともヘラ後ナデ調整を行っている。117は口縁が直口し、器面調整は両面とも貝殻条痕後ナデ調整を行っている。118も口縁は直口している。器面調整は外面はナデ、内面は貝殻条痕後ナデ調整を行っている。

119は無文土器の口縁部である。ゆるやかに外反する口縁である。両面ともミガキを施している。

120は深鉢の胴部である。器面調整は両面とも貝殻条痕後ナデ調整を行っている。外面にススが付着している。

121は浅鉢の底部から胴部で、底部外面には編布圧痕がみられる。内面はナデである。

122～129は底部である。122は上げ底気味で、端部に張り出しがある。外面はナデ、内面はヘラやヘラ後ナデ調整が行われている。底部は網代痕か？

123の底部はやや張り出しており、底部には細い葉脈痕と太い葉脈痕がみられる。外面は横位にハケ後ナデ調整が行われており、内面はナデである。124の底部には網代痕がみられ、端部はやや張り出している。外面は斜位に工具によるナデ調整、内面は工具によるハケメ痕がみられる。125は端部が張り出している。外面は下から斜位にナデ、内面には指ナデ調整が行われている。126は端部が張り出しておらず、外面は縦位や斜位のハケメ、内面はナデ調整が行われている。127は端部が張り出しており、底部は網代痕で、両面ともナデ調整が行われている。128は端部がやや張り出しており、器面調整は内外面ともナデである。129は器面調整は両面とも貝殻条痕後ナデ調整が行われており、端部は張り出していない。

第7表 土器観察表②

番号	種別	出土区	器種	部位	法量			焼成	文様及び調整		色調		胎土	備考
					口径	底径	器高		外面	内面	外面	内面		
102	縄文土器	A区	鉢	口縁				良好	貝殻条痕文の後ナデ。	貝殻条痕の後、ナデ。部分的に強くナデた跡がみられる。	にぶい黄橙 (10YR6/3)	浅黄 (2.5Y7/3) 灰黄 (2.5Y6/2)	4mm以下の赤褐色の粒を多く含む。1mm以下の乳白色粒、黒褐色粒を含む。1mm以下の無色透明な光沢粒をわずかに含む。	
103	縄文土器	A区	鉢	口縁				良好	貝殻条痕文の後ナデ。風化している。	貝殻条痕文の後ナデ。	浅黄 (2.5Y7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	2mm以下の赤褐色粒を多く含む。1mm以下の乳白色粒、黒褐色粒を少し含む。4mm以下の灰褐色粒、微細な光沢粒をわずかに含む。	
104	縄文土器	A区	鉢	口縁				良好	ヘラ後ナデ。	貝殻条痕文後ナデ。	黄灰 (2.5Y4/1)	灰 (5Y4/1)	3mm以下の暗赤褐色粒を多く含む。2mm以下の灰白色粒を含む。2mm以下の黒色粒、1mm以下の橙光沢粒をわずかに含む。	
105	縄文土器	A区	鉢	口縁				良好	貝殻条痕文後ナデ。	貝殻条痕文後ナデ。	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR6/3)	3mm以下の赤褐色粒を多く含む。1mm以下の乳白色、黒褐色粒を少し含む。微細な光沢粒をわずかに含む。	
106	縄文土器	A区		口縁				良好	貝殻条痕文後ナデ。	貝殻条痕文後ナデ。	浅黄 (2.5Y7/3) 灰 (5Y5/1)	浅黄 (2.5Y7/3)	2mm以下の灰褐色粒、1mm以下の黄褐色粒を多く含む。1mm以下の乳白色粒を含む。1mm以下の乳白色粒を含む。微細な黒色光沢粒を少し含む。	
107	縄文土器	A区		口縁～胴部				良好	横方向や斜方向に貝殻条痕文後ナデ。二本の平行な沈線文。一部渦巻文と端部刺突文がみられる。	横方向や斜方向に貝殻条痕文後ヘラ、ナデ。	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	5mm以下のにぶい赤褐色粒を多く含む。1mm以下の透明光沢粒を含む。2mm以下の黒褐色粒をわずかに含む。2mm以下の灰白色粒をこくわずかに含む。	波状口縁
108	縄文土器	A区		口縁				良好	貝殻条痕文後ナデ。	横方向や斜方向の貝殻条痕文後ナデ。	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	3mm以下の灰褐色粒を多く含む。1mm以下の黒褐色粒を含む。1mm以下の赤褐色粒、乳白色粒を少し含む。	波状口縁
109	縄文土器	A区		口縁				良好	横方向や斜方向にヘラ後ナデ。	横方向や斜方向に貝殻条痕文後ナデ。	橙 (5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	2mm以下の灰白色粒と透明光沢粒を多く含む。3mm以下の褐色粒と赤色粒を含む。1mm以下の淡黄色粒をわずかに含む。1mm以下の黒色光沢粒をこくわずかに含む。	波状口縁
110	縄文土器	A区		口縁				良好	ナデ。部分的に粘土のたれがみられる。部分的にスス付着。	貝殻条痕文後ナデ。	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	3mm以下の褐色粒、2mm以下の灰褐色粒、1mm以下の黒褐色粒、金色に光る粒、4mm以下の白色不透明粒を含む。	波状口縁
111	縄文土器	A区	鉢	口縁				良好	貝殻条痕文後ナデ。	貝殻条痕文後ナデ。	浅黄 (2.5Y7/3)	灰黄 (2.5Y7/2)	3mm以下の赤褐色粒を多く含む。2mm以下の黄褐色粒、乳白色粒を含む。	波状口縁
112	縄文土器	A区	鉢	口縁				良好	横方向や斜方向にヘラや細い工具痕のようなものがみられる。後ナデ。	横方向や斜方向にヘラ後ナデ。	にぶい黄橙 (10YR6/4)	暗灰黄 (2.5YR5/2)	5mm以下の灰白色粒を多く含む。5mm以下のにぶい赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む。2mm以下の灰白色粒、黄褐色粒をこくわずかに含む。	
113	縄文土器	A区	深鉢	口縁～胴部				良好	貝殻条痕後ナデ。貼付突帯文。穿孔あり。	横方向に貝殻条痕後ナデ。	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	5mm以下の暗赤褐色粒を多く含む。3mm以下の灰色粒、灰白色粒を含む。1mm以下の透明光沢粒、2mm以下の黒色光沢粒をわずかに含む。	
114	縄文土器	A区	鉢	口縁				良好	横方向や斜方向に貝殻条痕後ナデ。貼付突帯文。穿孔あり。	横方向や斜方向に貝殻条痕後ナデ。	にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄 (2.5Y7/3)	3mm以下の灰色粒を多く含む。3mm以下の灰褐色粒を含む。3mm以下の透明・黒色光沢粒をわずかに含む。3mm以下の灰白色粒・暗赤褐色粒をこくわずかに含む。	
115	縄文土器	A区	鉢	口縁				良好	ナデ。横方向にヘラ痕。貼付突帯文。風化している。	横方向や斜方向にヘラ後ナデ。風化している。	橙 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	4mm以下の褐色粒を多く含む。2mm以下の灰色粒を含む。1mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。	

番号	種別	出土区	器種	部位	法量			焼成	文様及び調整		色調		胎土	備考
					口径	底径	器高		外面	内面	外面	内面		
116	縄文土器	A区	鉢	口縁				良好	横方向や斜方向にヘラ後ナデ。貼付突帯文。	横方向にヘラ後ナデ。	にぶい黄 (2.5Y6/4)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	2mm以下の黒褐色粒を多く含む。1mm以下の暗赤褐色粒を含む。1mm以下の透明光沢粒を少し含む。	
117	縄文土器	A区		口縁	34.6			良好	貝殻条痕後ナデ。貼付突帯文。部分的にスス付着。	貝殻条痕後ナデ。	灰黄 (2.5Y6/2)	灰黄 (2.5Y6/2)	3mm以下の乳白色粒を含む。3mm以下の赤褐色・黒褐色粒を少し含む。微細な光沢粒をわずかに含む。	
118	縄文土器	A区		口縁				良好	ヨコナデ。貼付突帯文。	貝殻条痕後ナデ。	浅黄 (2.5Y7/3)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	4mm以下の灰褐色粒を多く含む。4mm以下の黒褐色粒、にぶい黄褐色粒を少し含む。2mm以下の乳白色粒をわずかに含む。	
119	縄文土器	A区		口縁				良好	ミガキ。部分的に風化。	ミガキ。風化気味。	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	2mm以下の灰白色粒を多く含む。3mm以下のにぶい黄褐色粒を含む。1mm以下の黒色粒をわずかに含む。	
120	縄文土器	A区		胴部				良好	貝殻条痕後ナデ。部分的にスス付着。	貝殻条痕後ナデ。	にぶい黄 (2.5Y6/3)	浅黄 (2.5Y7/3) にぶい黄 (2.5Y6/3)	3mm以下の灰褐色粒を多く含む。1mm以下の黒褐色粒、赤褐色粒、乳白色粒。微細な無色透明光沢粒を含む。	
121	縄文土器	A区		底部～胴部				良好	組織痕。部分的にスス付着。	ナデ。	にぶい黄橙 (10YR7/4)	黄灰 (2.5Y5/1) 暗灰黄 (2.5Y5/2)	3mm以下の灰褐色粒、黒褐色粒、1mm以下の乳白色粒を含む。微細な黒色粒、無色透明な光沢粒、金色に光る粒をわずかに含む。	
122	縄文土器	A区		底部		8		良好	ナデ。	ヘラやヘラ後ナデ。指押さえ。	浅黄 (2.5Y7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	2mm以下の暗赤褐色粒を多く含む。2mm以下の淡黄粒、1mm以下の白色粒を含む。	
123	縄文土器	A区		底部		10.3		良好	横方向にハケ後ナデ。指頭圧痕。スス付着。底部に葉脈痕。	ナデ。	浅黄 (2.5Y7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい赤褐色粒を多く含む。淡黄色粒を含む。褐色の光沢粒をこくわずかに含む。	
124	縄文土器	A区		底部		10		良好	斜方向に工具によるナデ。底部網代痕?	工具によるハケ。	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	1mm以下の赤褐色、微細な白色粒、微細な褐色粒を含む。	
125	縄文土器	A区		底部		9.8		良好	下から斜方向にナデ。風化気味。	指ナデ。指頭圧痕。	浅黄 (2.5Y7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	4mm以下の赤褐色、灰褐色粒を多く含む。2mm以下の黒褐色粒、1mm以下の乳白色粒を少し含む。2mm以下の無色透明光沢粒をわずかに含む。	
126	縄文土器	A区		底部		6.6		良好	縦や斜方向のハケ目。	ナデ。	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	1mm以下の乳白色粒を多く含む。1mm以下の黒色粒を含む。1mm以下の透明粒を含む。	
127	縄文土器	A区		底部		9.9		良好	ナデ。底部網代痕か?	ナデ。	橙 (5YR6/6)	明赤褐色 (2.5YR5/6)	2mm以下の褐灰色粒を多く含む。5mm以下の浅黄褐色粒を含む。3mm以下の赤褐色粒を少し含む。1mm以下の透明光沢粒をわずかに含む。3mm以下の赤褐色粒をこくわずかに含む。	
128	縄文土器	A区		底部		6.8		良好	ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	1mm以下の乳白色粒を多く含む。微細な無色透明光沢粒を少し含む。	
129	縄文土器	A区		底部		7		良好	貝殻条痕後ナデ。	貝殻条痕後ナデ。	にぶい黄橙 (10YR6/4)	灰黄褐 (10YR6/2)	4mm以下の黒褐色粒を多く含む。暗赤褐色粒を含む。灰白色の粒をわずかに含む。	

第6節 その他の遺構・遺物

(1) 遺構

時期不明の遺構として、土坑を5基検出した。いずれも丘陵の頂上部であるB-1区で検出している。1～4号土坑は、炉穴の可能性もあるが、床面や壁面が焼けていなかったり、掘り込みが浅いなどの理由で確定できていない。

1・2号土坑〔SC1・2〕 (第52図)

H2グリッドで確認した。1号土坑と2号土坑は切り合い関係がある。1号土坑の長軸は約130cm、短軸は約50cmの楕円形プランを呈する。埋土は褐色土(Hue10YR4/6)に褐灰色のブロックが入る。2号土坑は、1号土坑に切られているために推定になるが、長軸約130cm、短軸約60cmの楕円形プランである。いずれも壁面や床面は焼けていないが、炉穴の可能性はある。

3・4号土坑〔SC3・4〕 (第52図)

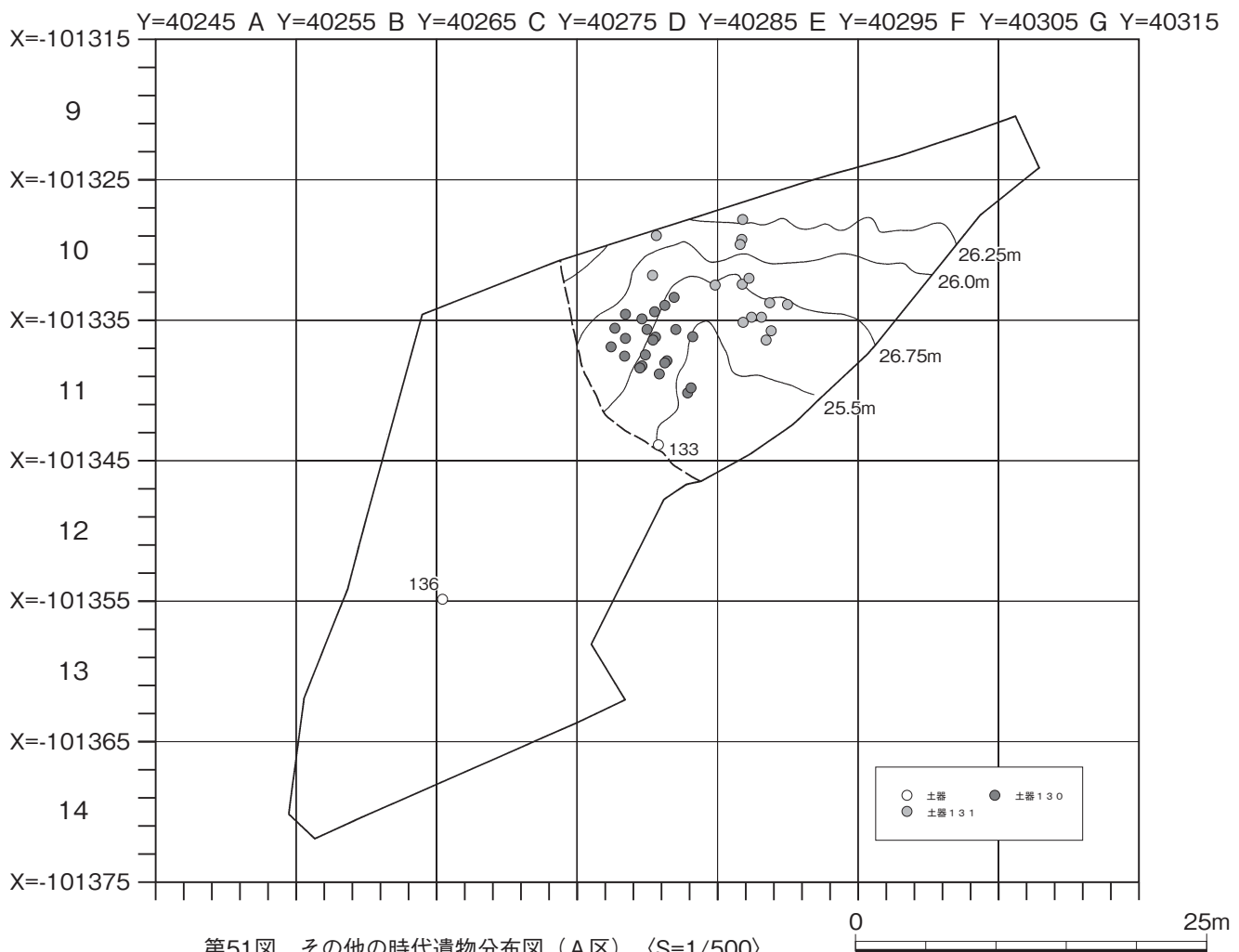
風倒木を検出したH3グリッドで確認した。いずれもⅦ層の明褐色土に黒褐色土の硬質の埋土である。埋土の厚さは非常に薄く、5mm以下である。3号土坑の長軸は約136cm、短軸約56cmの楕円形プランを呈する。4号土坑は長軸約148cm、短軸約60cmの楕円形プランを呈する。

5号土坑〔SC5〕 (第52図)

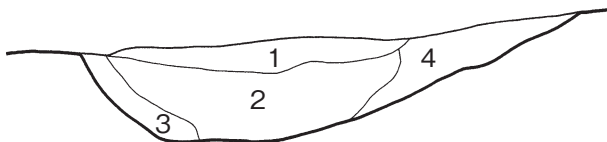
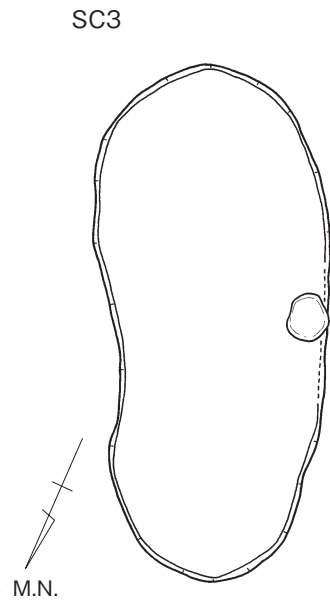
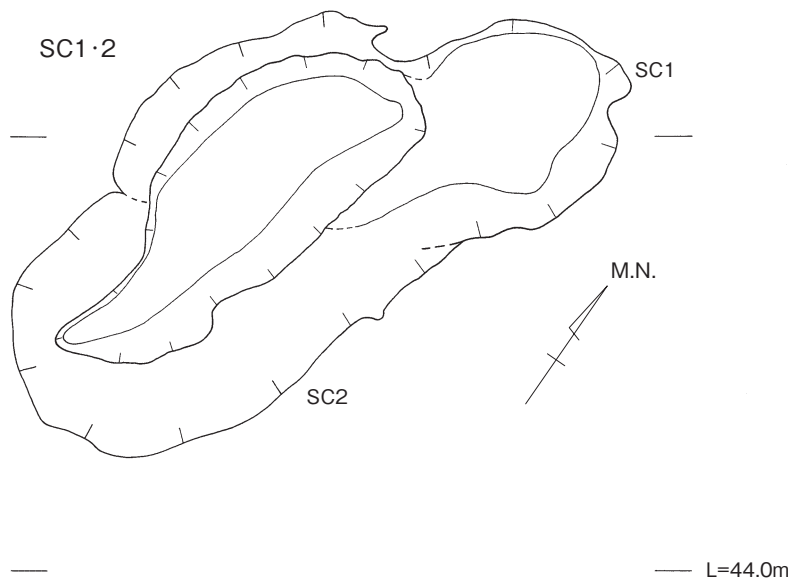
J2グリッドで確認した。土層確認のためのトレンチにより削られたために詳細は不明である。埋土中に礫が入り込んでいた。

(2) 遺物 (第53図)

畑地であるA区からは弥生時代の土器と古墳時代・古代の須恵器・土師器が出土している。須恵器の坏はⅡ層の黒色土がわずかに残存していた箇所から

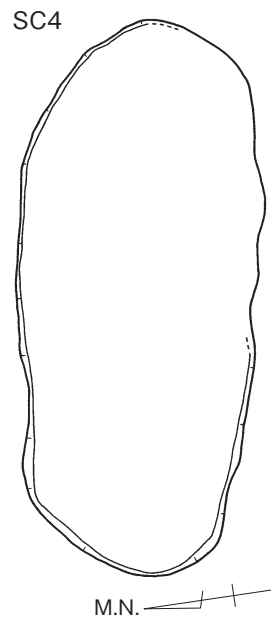
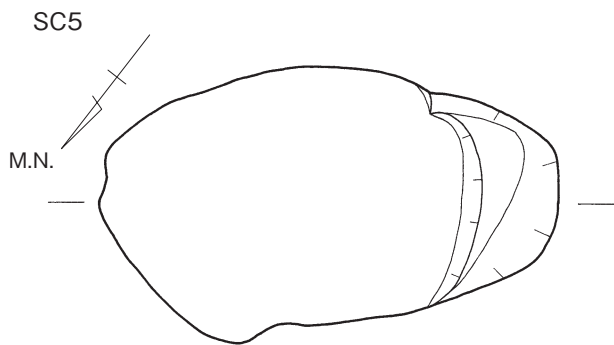


第51図 その他の時代遺物分布図 (A区) (S=1/500)



SC1埋土注記

- 1：褐色土 (Hue10YR4/6)。黄褐色の小林軽石の中に褐色のブロックが半分混ざる。
- 2：暗褐色土 (Hue10YR3/4)。しまりの強い暗褐色土の中に黄褐色が若干は入る。
- 3：暗褐色土 (Hue10YR3/4)。しまりがさらに強く、黄褐色の混入が少ない。
- 4：黄褐色土 (Hue10YR5/6)。1mm程度の白・黄色の粒子が混じり、しまりが少ない。



第52図 土坑実測図 (S=1/20)

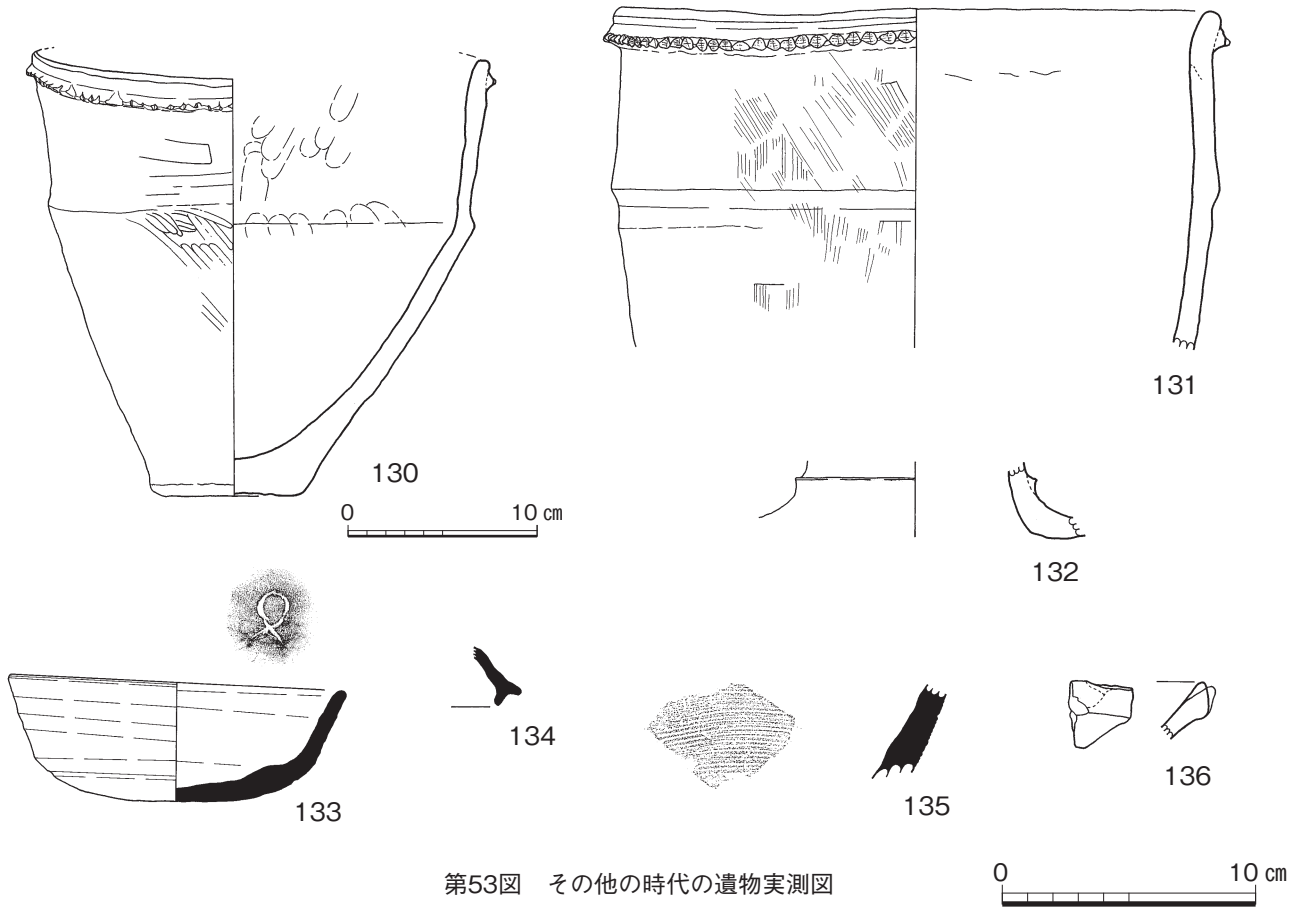
出土している。遺構は伴わず、いずれも旧地形の谷の落ち込み部分から出土している。

130～131は弥生時代前期の甕である。口縁部に一条の刻み目突帯を貼付している。いずれも胴部が屈曲している。130は完形の甕である。器面調整は口縁から胴部にハケメ、胴部から底部は斜位や横位のナデ、部分的にミガキが施されている。内面は指によるナデと指押さえ、底部の内面は指押さえである。上げ底である。風化している。131は甕の口縁から胴部である。器面調整は縦位や斜位にハケメで丁寧な

ナデ調整が行われている。

132は、弥生時代の壺である。突帯が口縁部に貼付されている。器面調整は両面ともヨコナデである。

133は古墳時代後期の須恵器の坏身である。内面にヘラ記号がある。8世紀とみられる。134は坏の蓋の口縁部である。135は壺の底部付近である。外面はカキ目で、内面はナデ調整である。137は東播系の捏ね鉢の口縁部で片口部分であり、自然釉がかかる。



第53図 その他の時代の遺物実測図

第8表 土器観察表③

番号	種別	出土区	器種	部位	法量			焼成	文様及び調整		色調		胎土	備考
					口径	底径	器高		外面	内面	外面	内面		
130	弥生土器	A区	深鉢	口縁～底部	23.5	6.9	22.1	良好	横・斜方向のナデ。刻み目突帯文。	指ナデ。指押さえ。	にぶい黄橙(10YR7/4) にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	5mm以下の赤褐色粒を多く含む。 1.5mm以下の乳白色粒を少し含む。	
131	弥生土器	A区	深鉢	口縁～胴部	23.2			良好	縦・斜方向にハケ目痕あり。ナデ。刻み目突帯文。一部スス付着。	ナデ。	黄褐(2.5YR5/4) にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR5/4)	3mm以下の白乳色粒、2mm以下の浅黄褐色粒を含む。微細な光沢粒を少し含む。	
132	弥生土器	A区	壺	頸部				良好	ヨコナデ。貼付突帯文。	縦・横方向のナデ。	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	3～4mm大の無色透明な粒、1mm以下の灰褐色粒、乳白色粒を含む。	
133	須恵器	A区	坏身	口縁～底部	13.1	4.7	7.1	堅緻	回転ナデ。ヘラケズリ。	ナデ。	灰(5Y7/1)	灰(5Y7/1)	精良。2mm以下の黒褐色粒を多く含む。	ヘラ記号あり。8世紀
134	須恵器	A区	坏蓋	口縁				堅緻	回転ナデ。	回転ナデ。	灰(5Y5/1)	灰(5Y5/1)	精良。3mm以下の白色不透明粒、やや光沢感のある粒を含む。	
135	須恵器	A区	壺	底部付近				堅緻	カキ目。	ナデ。	灰(7.5Y4/1)	灰(7.5Y6/1)	精良。	
136	須恵器	A区	捏ね鉢	口縁(注口)				堅緻	ナデ。	ナデ。	暗灰黄(2.5Y5/2)	暗灰黄(2.5Y5/2)	精良。	

第V章 まとめ

本章では、本遺跡の主な遺構である集石遺構と遺物について整理していきたい。

〔集石遺構〕

集石遺構とは、一般に石蒸し料理などの調理施設と考えられている(1)。よって、集石遺構は被熱して赤化した礫の集合体と捉えられる。調査では被熱して赤化していない礫の集合体についても、被熱の準備段階の集石遺構の一つとして認識した。

いずれの調査区でも散礫が検出され、その散礫を取りはずした後、集石遺構を検出している。散礫については、整理作業で集石遺構の礫の接合は行わない予定であったので、その広がり記録してすべて取りはずした。現地で散礫の礫の石材や重量などの記録を残すべきであったが、調査期間の問題で記録を取ることは行わなかった。

(1) 形態分類について (第19図)

検出された集石遺構を形態によって3タイプに分類し、礫の集中度によってさらに3タイプに細分類した。その結果以下ようになった。

【A区】

I 類型	密集型：0基	(0%)
	集中型：2基	(11%)
	散在型：5基	(26%)
II 類型	密集型：1基	(5%)
	集中型：3基	(16%)
	散在型：2基	(11%)
III 類型	密集型：4基	(21%)
	集中型：0基	(0%)
	散在型：2基	(11%)

【B-1区】

I 類型	密集型：0基	(0%)
	集中型：0基	(0%)
	散在型：2基	(17%)

II 類型	密集型：9基	(75%)
	集中型：1基	(8%)
	散在型：0基	(0%)
III 類型	密集型：0基	(0%)
	集中型：0基	(0%)
	散在型：0基	(0%)

【B-2区】

I 類型	密集型：0基	(0%)
	集中型：5基	(50%)
	散在型：0基	(0%)
II 類型	密集型：1基	(10%)
	集中型：3基	(30%)
	散在型：0基	(0%)
III 類型	密集型：1基	(10%)
	集中型：0基	(0%)
	散在型：0基	(0%)

集石遺構の形態では、A区とB-2区で、I～IIIの3タイプに分かれる。B-1区では、IとIIの2タイプに分かれる。B-2区では、I～IIIの3タイプに分かれる。B-1区の集石遺構は、配石をもたないことと掘り込みと配石をもつタイプがないということがあげられる。

礫の集中度では、I類型は集中型と散在型に分かれ、II類型では密集・集中・散在型の3タイプに分かれる。B-1区では、I類型では散在型の1タイプに、II類型は密集型と集中型の2タイプに分かれる。III類型は密集型の1タイプに分かれる。

(2) 使用された礫について (第54～第56図)

二次調査で検出した集石遺構の礫は、東畦原整理作業事務所整理作業を行った。ただし接合作業は行っていない。

各調査区ごとに集石遺構を形態と礫の集中度のタイプごとに分けて礫の分析結果を以下のように整理した。

【A区】

◎ I 類型

○集中型 (SI3、SI7)

石 材：9割以上が砂岩とホルンフェルス
 完形率：7～9割がC
 赤化率：8～9割が赤化
 重 量：漸減型

○散在型 (SI4、SI13、SI14、SI16、SI18)

石 材：8～9割が砂岩とホルンフェルス
 完形率：SI14、SI16が5～6割赤化
 残り7～9割赤化
 重 量：漸減型

◎ II 類型

○密集型 (SI6)

石 材：9割以上が砂岩とホルンフェルス
 完形率：9割がC
 赤化率：6割以上赤化
 重 量：漸減型

○集中型 (SI1、SI17、SI19) ※SI1はデータなし

石 材：9割以上は砂岩とホルンフェルス
 完形率：9割以上がC
 赤化率：6～7割が赤化
 重 量：漸減型

○散在型 (SI11、SI15)

石 材：9割以上が砂岩とホルンフェルス
 完形率：9割がC
 赤化率：SI11…3割、SI15…7割
 重 量：漸減型

◎ III 類型

○密集型 (SI2、SI5、SI10、SI12)

石 材：8～9割が砂岩とホルンフェルス
 完形率：8～9割がC
 赤化率：7～9割が赤化
 重 量：漸減型

○散在型 (SI8、SI9)

石 材：9割が砂岩とホルンフェルス
 完形率：8～9割がC
 赤化率：8～9割が赤化
 重 量：漸減型

【B-1区】

◎ I 類型

○散在型 (SI24、SI28)

石 材：9割以上が砂岩とホルンフェルス
 完形率：8～9割がC
 赤化率：8～9割が赤化。中が3割。
 重 量：漸減型

◎ II 類型

○密集型 (SI20、SI22、SI23、SI25、SI26、SI27、SI29、SI30、SI31)

石 材：9割以上が砂岩とホルンフェルス
 完形率：8～9割がC
 赤化率：SI30、SI31…8～9割赤化
 SI20、SI22、SI23、SI25、SI26、SI29
 …6～7割赤化
 SI27…4～5割赤化
 重 量：漸減型

○集中型 (SI21)

石 材：10割砂岩とホルンフェルス
 完形率：9割がC
 赤化率：6割赤化
 重 量：漸減型

【B-2区】

◎ I 類型

○集中型 (SI35、SI37、SI38、SI39、SI41)

石 材：9割以上が砂岩とホルンフェルス
 完形率：7～9割がC
 赤化率：7～9割が赤化
 重 量：漸減型

◎ II 類型

○密集型 (SI40)

石 材：9割が砂岩とホルンフェルス
 完形率：8割がC
 赤化率：7割赤化
 重 量：漸減型

○集中型 (SI33、SI34、SI42)

石 材：9割砂岩とホルンフェルス (砂岩が
 6～8割)
 完形率：9割C
 赤化率：SI34、SI42…7割赤化
 SI33…4割赤化
 重 量：漸減型

◎Ⅲ類型

○密集型 (SI36)

石 材：9割以上砂岩とホルンフェルス
完形率：9割C
赤化率：7割赤化
重 量：漸減型

以上、集石遺構の形態別ごとに礫整理の結果を整理した。

その結果、集石遺構の礫の石材は、8～9割が砂岩とホルンフェルスが占め、尾鈴山酸性岩類が極端に少ないという結果が得られた。このことについては、西畦原第2遺跡（三次調査）において、旧石器時代の礫群と縄文時代早期の集石遺構の礫を分析した結果、時代とともに砂岩が個数・重量とも増加し、尾鈴山酸性岩類は減少していく傾向を指摘している

(2) ことと一致する。また、ホルンフェルスは旧石器時代には増加の傾向にあったが、縄文時代早期には減少に転じていることを指摘しているが、本遺跡の集石遺構にも砂岩の割合が多いものもあることから集石遺構の時期差として捉えられることも考えられる。礫の供給地については、本遺跡の近くに藤山川が流れており、礫の獲得が容易であったため石材も砂岩やホルンフェルスが多くなったと考えられる。

礫の完形度ではほとんどの集石遺構の礫の8～9割が40%未満であり、使用頻度が非常に高いことが指摘できよう。

また赤化度については、ほとんどが赤化しているが、集石遺構のなかには赤化の割合が3～5割のものもある。礫の完形度では40%未満のものが多いことから、使用されていたことは考えられる。被熱の問題は、単に集石遺構が被熱の準備段階にあるという理由だけではなく、それ以外の理由があるように思われる。一つの答えとして調理法によって礫の被熱の違いが起きたのではないかと考えられる。このことは、実際にさまざまな調理法を試して礫の被熱の状況を調べるといふ実験的なデータをもとに検討する必要がある(3)。

礫の重量については、重量分布の結果、重量が重くなるほど数量が減少する漸減型をとるものがほと

んどであることが指摘できる。

〔遺物〕

遺物としては、旧石器時代の石器、縄文時代の土器、石器、弥生時代の土器、古墳時代の須恵器が出土した。

旧石器時代の石器は、ナイフ形石器などの製品と石核・剥片・碎片などの石器製作に関わる遺物が出土している。出土層が第Ⅶ層・Ⅷ層と縄文時代の包含層であり、丘陵という地形的な条件もあって文化層の認定は難しい。接合資料も出土していることから石器製作の場も存在するが、石器ブロックなどは確認できなかった。

縄文時代の遺物としては、早期の貝殻条痕文土器や押型文土器と後期～晩期の阿高系の土器が出土している。早期の貝殻条痕文土器はB-1区の散礫中から出土している。また押型文土器は、A区では43の田村式がB-2区でも44の押型文土器が集石遺構中から出土している。貝殻条痕文土器の一部と押型文土器は共伴する例があるが、貝殻条痕文土器が押型文土器に先行する時期に存在しており、時期的な差があるとみられる。後期～晩期の土器はA区の旧地形の谷部の落ち込みから出土している。遺構に伴わずに出土しており、流れ込みとみられる。

弥生時代の土器と古墳時代の須恵器もA区の落ち込み部分から出土しており、流れ込みとみられる。

〔まとめ〕

本遺跡では、42基の集石遺構が検出された。集石遺構については、形態の違いを時期的な違いとみる見解がある。つまり、掘り込みを持たないタイプ(I類)→掘り込みを持つが、配石を持たないタイプ(II類)→掘り込みと配石を両方もつタイプ(III類)というように新しくなるという。本遺跡においても、3タイプの集石遺構に分類されるが、A区とB-2区では3タイプに、B-II区ではIとIIの2タイプに分類され、各調査区にそれぞれのタイプが存在する状況である。しかし、検出した層は同じ層であり、層序的な違いはみられない。形態の違いのみで時期的な差を指摘することはできない。本遺跡では、B-1区

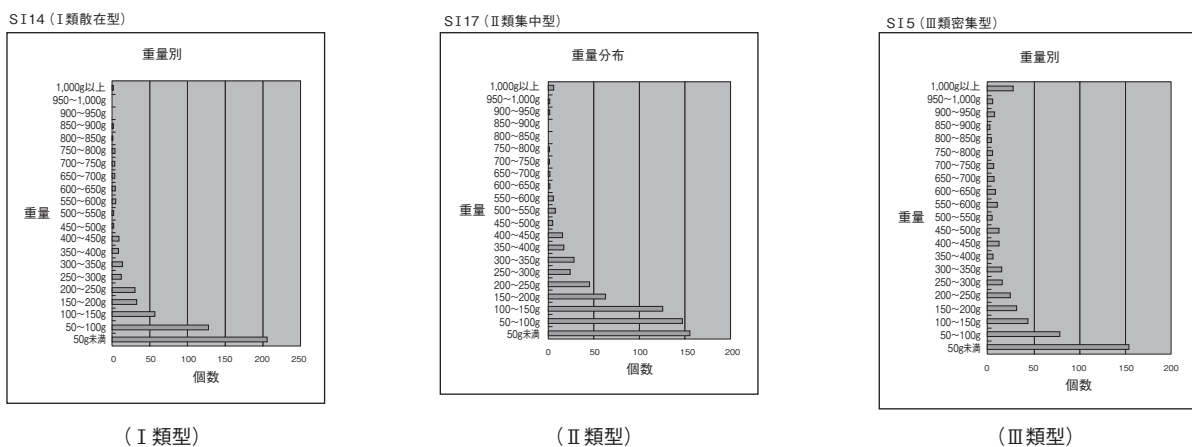
で検出した集石遺構の上面の散礫から縄文時代早期の前半の桑ノ丸式の貝殻条痕文土器が出土している。またA区とB-2区で検出した集石遺構では田村式とみられる押型土器が出土している。また、調理法により集石遺構の形態が異なることも指摘されている(4)。つまり、集石遺構の形態の違いを料理法による違いと捉えている。同じ調査区で様々な形態の集石遺構が検出された場合、時期的な差と捉えるだけでなく、そこで調理されたもの(調理法)の違いがあったと捉える見方も必要である。以上のことから、本遺跡の集石遺構を整理してみると、調査区内で時期的な変遷を捉えるよりも、調査区毎に時期的な差があると捉えることが妥当と思われる。つまり、B-1区の集石遺構が古く、A区とB-2区の集石遺構が新しいということが指摘できるのではないだろうか。その理由としては、B-1区とA区とB-2区で出土している土器の違いから時期的な差があると考えられるからである。

最後に、本遺跡の調査は台地の縁辺部とその下の低地の調査であった。遺物は主に低地から出土しており、ほとんどが遺構に関係しておらず、流れ込みと考えられる。丘陵部で出土した遺物も傾斜にそった分布をしていることから原位置を動いているとみられる。また遺構としては、集石遺構のみの検出で、集石遺構を使用した人々の住居跡などは検出されな

かった。時期不明の土坑を確認したが、炉穴の可能性もあり、集石遺構と炉穴が集落の周囲に広がるという空間的に遺構が広がる例があることから、恐らく台地の中心部に住居などが存在する可能性がある。また、出土した遺物も縄文時代から古墳時代にかけてのものであり、ほとんどが流れ込みであることから縄文時代から古墳時代にかけての集落が存在したことが推定できる。

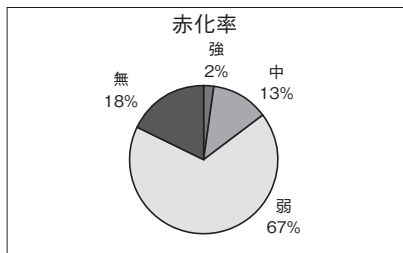
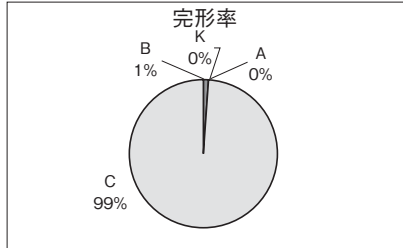
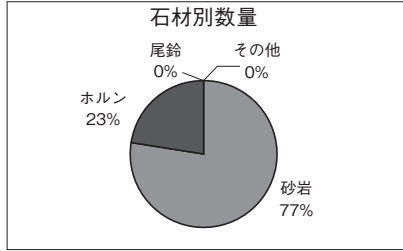
〈参考文献〉

- (1) 小栗一夫「遺構研究 集石遺構」
(『縄文時代』第10号、縄文時代文化研究会、1999年)
- (2) 『西畦原第2遺跡(二次・三次)』
(宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第109集、
宮崎県埋蔵文化財センター、2005年)
- (3) 竹内直文「礫群の重量分布検討の意義」
(『考古学ジャーナル』No531、2005年)
- (4) 野嶋洋子「焼石調理の民俗誌—礫群研究の民俗考古学的
視点—」(『考古学ジャーナル』No531、2005年)



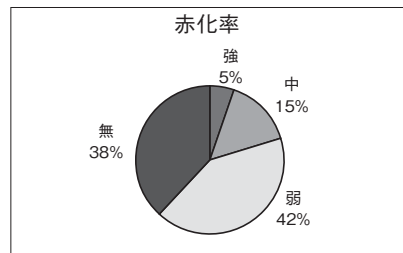
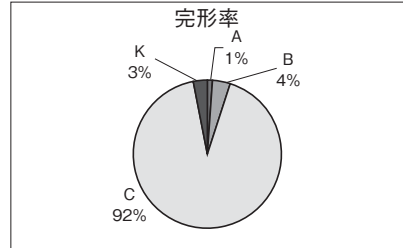
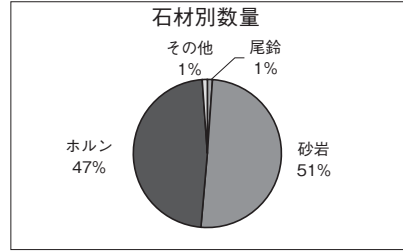
第54図 集石遺構礫重量分布図

SI3 (I類集中型)



(I類型)

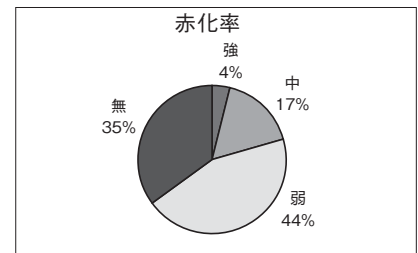
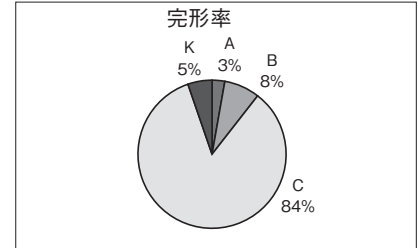
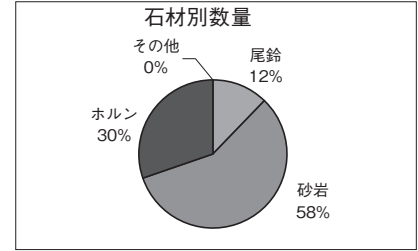
SI17 (II類集中型)



(II類型)

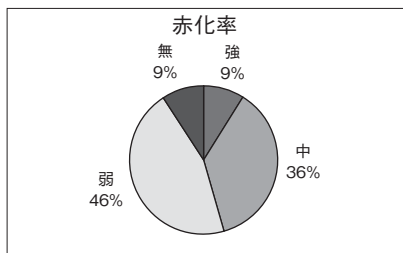
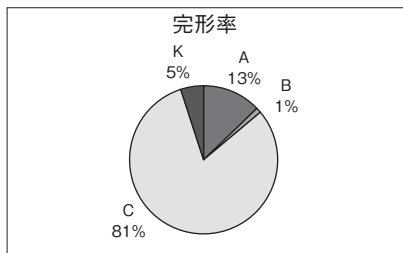
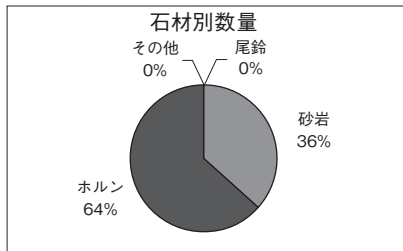
〈A区集石遺構礫分析〉

SI10 (III類密集型)



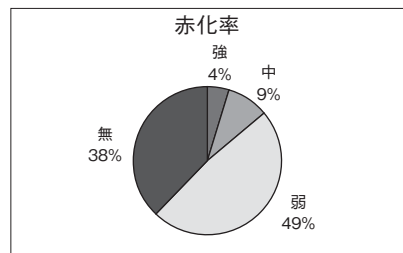
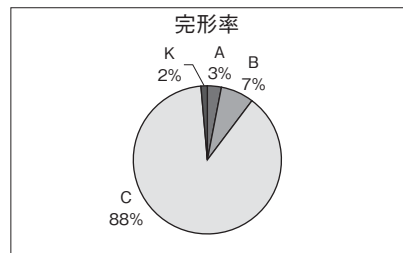
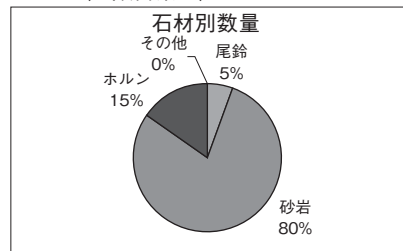
(III類型)

SI24 (I類散在型)



(I類型)

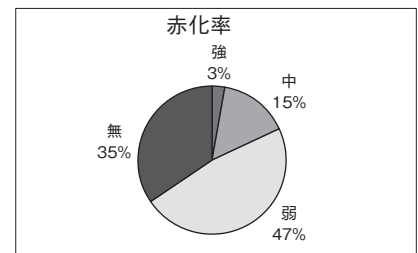
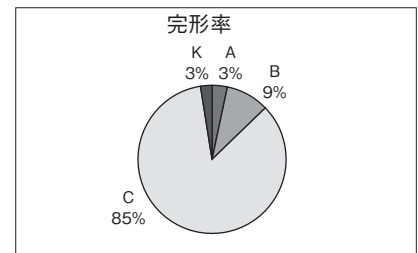
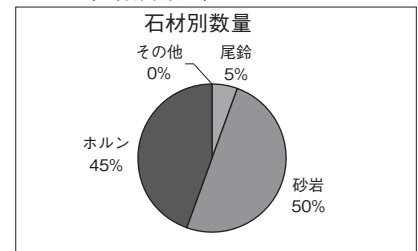
SI22 (II類密集型)



(II類型)

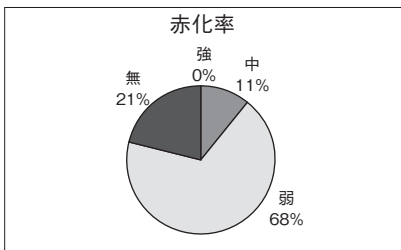
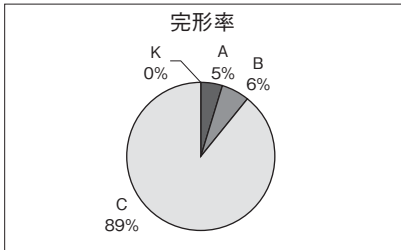
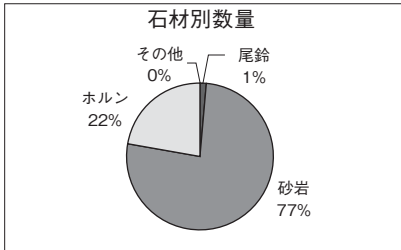
〈B-1区集石遺構礫分析〉

SI23 (II類密集型)



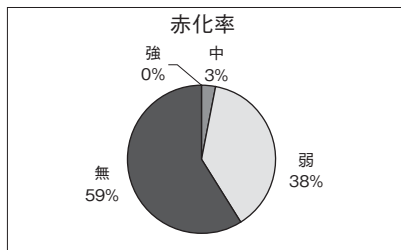
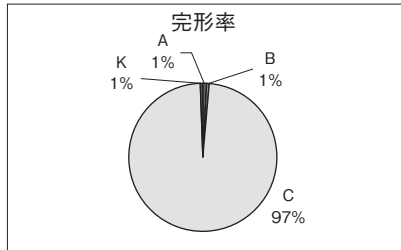
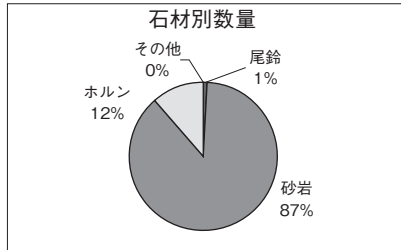
第55図 集石遺構礫分析図 (1)

S137 (I類集中型)



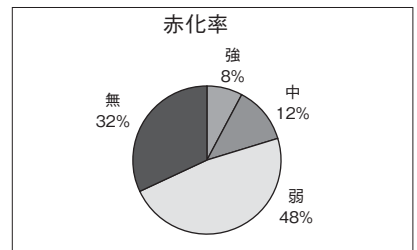
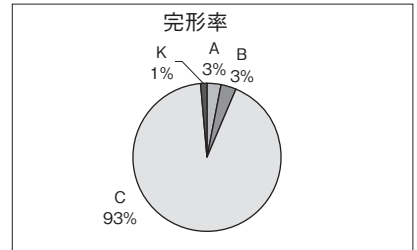
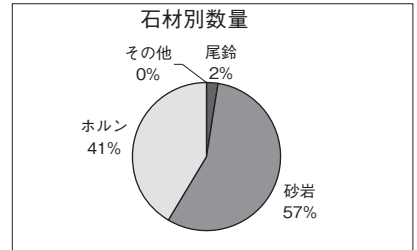
(I類型)

S133 (II類集中型)



(II類型)

S136 (III類密集型)



(III類型)

〈B-2区集石遺構礫分析〉

第56図 集石遺構礫分析図 (2)

第9表 石器計測表①〔Ⅷ層〕

調査区	Gr.	層	取り上げNo.	石材	接合 No.	X座標	Y座標	Z座標	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
A1	C13	Ⅷ	766	チャート		-101,353.172	40,266.654	25.711	剥片	1.4	1	0.4	0.3	
A1	B12	Ⅷ	768	黒曜石		-101,361.725	40,269.084	25.452	チップ	1.2	0.6	0.3	0.1	姫島産
A1	B12	Ⅷ	769	黒曜石		-101,361.560	40,269.099	25.427	剥片	2.7	1	0.9	1.2	姫島産
A1	B12	Ⅷ	770	黒曜石		-101,361.144	40,269.371	25.395	チップ	0.8	0.7	0.2	0.1	姫島産
A1	B12	Ⅷ	772	黒曜石		-101,360.712	40,270.069	25.470	剥片	2.9	1.9	0.9	3.9	姫島産
A1	B12	Ⅷ	774	黒曜石		-101,361.907	40,263.676	25.520	チップ	0.8	0.4	0.25	0.1未	姫島産
A1	B13	Ⅷ	952	チャート		-101,356.664	40,265.274	25.587	剥片	1.6	1.2	0.4	0.6	
A1	B13	Ⅷ	965	黒曜石		-101,358.445	40,264.761	25.625	チップ	1	0.7	0.35	0.1	
A1	B13	Ⅷ	967	黒曜石		-101,357.894	40,267.816	25.534	剥片	1.8	1.6	0.8	1	
A1	C13	Ⅷ	1016	流紋岩		-101,351.386	40,273.062	25.165	剥片	4.3	3.2	0.9	9.9	
A1	C13	Ⅷ	1017	流紋岩		-101,353.691	40,273.293	25.258	剥片	6.4	4.4	0.9	26.3	
A1	C13	Ⅷ	1020	ホルンフェルス		-101,352.936	40,270.057	25.427	剥片	9.1	6.2	3.1	215.3	
A1	B14	Ⅷ	1041	黒曜石		-101,361.163	40,255.684	25.356	チップ	0.9	0.6	0.3	0.1未	
A1	B13	Ⅷ	1042	黒曜石		-101,357.358	40,258.051	25.459	剥片	1.6	1.2	0.4	0.4	姫島産
A1	B13	Ⅷ	1043	ホルンフェルス		-101,356.623	40,259.324	25.472	剥片	3.4	2.5	1.4	8.3	
A1	B12	Ⅷ	1053	チャート		-101,353.265	40,261.765	25.589	剥片	1.4	1.05	0.5	0.5	
A1	B12	Ⅷ	1054	ホルンフェルス		-101,354.595	40,262.728	25.515	剥片	7.5	3.2	1.1	22.2	
A1	B12	Ⅷ	1056	チャート		-101,353.516	40,264.270	25.643	剥片	2.5	1.35	0.8	1.9	
A1	C13	Ⅷ	1062	黒曜石		-101,362.132	40,261.785	25.346	剥片	2.9	2.7	1.2	6.4	姫島産
A1	C13	Ⅷ	1065	流紋岩		-101,362.119	40,262.392	25.353	剥片	2.8	2.75	0.75	3.3	
A1	B12	Ⅷ	1067	ホルンフェルス		-101,354.380	40,265.729	25.711	チップ	2.2	1.1	0.5	0.8	
A1	B12	Ⅷ	1068	チャート		-101,354.454	40,263.630	25.579	チップ	1.1	0.7	0.25	0.1	
A1	B12	Ⅷ	1069	流紋岩	+100	-101,354.449	40,263.566	25.547	残核	9.5	9.8	8.1	790.9	
A1	B12	Ⅷ	1070	チャート		-101,354.452	40,263.466	25.582	剥片	5.1	3.8	1.3	22.1	
A1	C13	Ⅷ	1071	チャート		-101,358.708	40,267.131	25.410	チップ	0.9	0.5	0.2	0.1未	
A1	B13	Ⅷ	1074	黒曜石		-101,360.489	40,258.881	25.451	剥片	1.7	1	0.35	0.2	姫島産
A1	B13	Ⅷ	1075	ホルンフェルス		-101,359.691	40,263.168	25.451	剥片	5.3	3.7	3.7	50.3	
A1	B13	Ⅷ	1076	流紋岩		-101,363.247	40,262.062	25.407	剥片	5.4	5.05	0.9	15.6	
A1	B13	Ⅷ	1077	ホルンフェルス		-101,363.883	40,261.444	25.375	剥片	14	6.2	4.6	398.5	
A1	B14	Ⅷ	1079	流紋岩		-101,369.034	40,258.519	25.115	剥片	3.2	2.1	0.4	2.5	
A1	B13	Ⅷ	1081	ホルンフェルス		-101,365.619	40,258.938	25.327	剥片	6.4	3.8	0.9	15.9	
A1	B13	Ⅷ	1083	流紋岩		-101,367.481	40,259.955	25.303	剥片	3	2.9	0.5	3.4	
A1	B14	Ⅷ	1084	ホルンフェルス		-101,368.923	40,260.963	25.120	チップ	2.5	1.9	0.5	1.8	
A1	B13	Ⅷ	1085	ホルンフェルス		-101,363.248	40,262.322	25.391	剥片	10.3	7.5	2.4	136.2	
A1	C13	Ⅷ	1087	砂岩		-101,360.961	40,266.921	25.334	台石	19.7	18.1	9.3	3381	
A1	C13	Ⅷ	1088	尾鈴山酸性岩		-101,360.770	40,268.926	25.172	台石	22.9	15.9	12.5	5981	
A1	C13	Ⅷ	1089	ホルンフェルス		-101,361.714	40,269.702	25.139	剥片	8.7	7.4	2	109.5	
A1	C13	Ⅷ	1091	砂岩		-101,363.708	40,270.845	24.647	台石	25.1	10.8	13.5	4781	
A1	C13	Ⅷ	1092	尾鈴山酸性岩		-101,362.534	40,272.623	24.731	磨石	8.8	6.4	5.6	438.3	
A1	C13	Ⅷ	1094	チャート		-101,358.208	40,266.911	25.412	チップ	0.9	0.5	0.25	0.1未	
A1	C13	Ⅷ	1095	チャート		-101,358.608	40,266.089	25.425	チップ	1.1	1	0.3	0.2	
A1	C13	Ⅷ	1096	砂岩		-101,356.778	40,268.093	25.445	台石	22.4	17.1	8.5	4981	
B1	J2	Ⅷ	5289	流紋岩		-101,254.661	40,336.624	44.486	剥片	4.8	4	1	18.4	
B1	G4	Ⅷ	5311	頁岩		-101,265.037	40,305.707	41.615	剥片	2.4	2.4	1.1	4.7	
B1	G4	Ⅷ	5314	流紋岩		-101,272.986	40,311.640	41.216	チップ	1	0.7	0.2	0.1	
B1	G3	Ⅷ	5315	流紋岩		-101,261.783	40,311.748	41.081	剥片	3.5	2	1.3	5.6	
B1	J2	Ⅷ	5317	黒曜石		-101,253.434	40,335.141	39.386	石核	2	1.5	2	6	
B1	F4	Ⅷ	5318	流紋岩		-101,269.836	40,299.504	39.963	チップ	2.2	1.6	1	1.2	
B1	F4	Ⅷ	5325	黒曜石		-101,274.571	40,298.921	35.885	チップ	0.7	0.5	0.05	0.1未	
B1	E5	Ⅷ	5326	流紋岩		-101,277.882	40,289.706	35.258	剥片	4.5	4.1	1	17	
B1	E6	Ⅷ	5329	流紋岩		-101,292.366	40,290.352	34.586	剥片	3.8	2	1.2	7	
B1	D6	Ⅷ	5332	流紋岩		-101,290.078	40,280.009	33.932	剥片	7	5.8	2.9	117.6	
B1	I2	Ⅷ	5349	砂岩		-101,255.557	40,326.132	43.526	剥片	5	4.1	2	26.8	
B1	I2	Ⅷ	5353	ホルンフェルス		-101,250.415	40,328.636	44.067	剥片	5	4.7	3.2	38.5	
B1	I3	Ⅷ	5359	流紋岩		-101,259.427	40,334.568	42.136	剥片	5.2	2.4	1.3	12.8	
B1	I3	Ⅷ	5386	流紋岩		-101,255.978	40,326.160	43.835	剥片	2.9	2.4	0.5	3.1	
B1	I2	Ⅷ	5388	流紋岩		-101,252.688	40,328.456	43.851	チップ	1.4	0.6	0.4	0.2	
B1	I2	Ⅷ	5389	流紋岩		-101,252.094	40,331.017	44.187	チップ	2	1.1	0.3	0.4	
B1	I3	Ⅷ	5390	流紋岩		-101,259.488	40,329.473	43.865	剥片	4.7	2.2	0.9	4.6	
B1	I2	Ⅷ	5391	流紋岩		-101,250.309	40,328.467	43.685	チップ	1.9	2	0.4	0.7	
B1	I3	Ⅷ	5393	流紋岩		-101,257.199	40,334.254	44.473	剥片	2.6	1.9	0.5	1.8	
B1	I3	Ⅷ	5395	ホルンフェルス		-101,260.269	40,325.278	43.441	剥片	3.6	3.9	0.9	9.6	
B1	I3	Ⅷ	5397	ホルンフェルス		-101,260.874	40,334.591	43.310	チップ	1.8	2	0.4	0.8	
B1	I2	Ⅷ	5400	ホルンフェルス		-101,251.970	40,325.637	43.214	剥片	3.6	2.4	0.6	4.8	
B1	H3	Ⅷ	5405	ホルン		-101,266.079	40,321.537	41.919	剥片	7.7	1.7	0.8	8.1	
B1	H3	Ⅷ	5408	流紋岩		-101,259.048	40,318.677	42.689	剥片	3	2.8	0.6	2.6	
B1	H3	Ⅷ	5411	ホルンフェルス		-101,258.632	40,317.104	42.502	剥片	8.3	6	8.8	89.1	
B1	H3	Ⅷ	5413	流紋岩		-101,257.473	40,316.737	42.526	剥片	3.4	2	1	6.6	
B1	H3	Ⅷ	5414	流紋岩		-101,261.367	40,316.724	42.621	チップ	2.9	1.4	0.5	1	
B1	H3	Ⅷ	5415	流紋岩		-101,260.964	40,316.654	42.595	チップ	1.8	2	0.3	0.5	
B1	H3	Ⅷ	5419	チャート		-101,261.534	40,315.659	42.535	剥片	2.4	2	0.5	1.3	
B2	E6	Ⅷ	5432	砂岩		-101,291.660	40,286.937	34.939	剥片	3	2.8	0.8	6.1	
B2	E6	Ⅷ	5435	流紋岩		-101,292.452	40,287.468	34.149	剥片	2.5	1.4	0.9	2.2	
B2	E6	Ⅷ	5436	流紋岩		-101,292.155	40,282.821	34.170	剥片	5.8	4.9	2	55.3	
B2	D6	Ⅷ	5438	流紋岩		-101,299.274	40,282.825	33.559	剥片	3.3	2.2	1	6.7	
B2	D6	Ⅷ	5439	ホルンフェルス		-101,298.410	40,280.667	33.863	剥片	5.9	5.3	2.7	80.9	
B2	D6	Ⅷ	5440	流紋岩		-101,298.216	40,280.637	33.807	剥片	5.8	4.2	1.4	29.3	
B2	D6	Ⅷ	5441	流紋岩		-101,300.408	40,278.449	33.805	剥片	3.4	2.3	1.2	7.1	
B2	D6	Ⅷ	5444	黒曜石		-101,291.395	40,285.716	34.444	チップ	1	0.6	0.2	0.1未	
B2	D5	Ⅷ	5450	ホルンフェルス		-101,285.867	40,284.837	34.577	剥片	6.8	3.7	1.8	26.7	
B2	D6	Ⅷ	5453	頁岩		-101,286.536	40,288.561	33.963	チップ	1.3	0.9	0.3	0.2	
B1	G3	Ⅷ	5455	黒曜石		-101,272.913	40,307.623	41.313	剥片	2.5	2.1	0.9	3.4	
B1	G3	Ⅷ	5456	チャート		-101,270.637	40,306.320	41.796	剥片	1.9	1.3	0.3	0.4	
B1	G3	Ⅷ	5457	チャート		-101,264.653	40,305.932	42.031	チップ	1.3	0.7	0.2	0.1	
B1	G3	Ⅷ	5458	チャート		-101,269.691	40,306.890	41.919	剥片	1.6	1	0.2	0.3	
B1	G3	Ⅷ	5461	チャート		-101,264.968	40,305.505	42.467	チップ	1.1	0.8	0.3	0.2	

第10表 石器計測表②〔Ⅶ層〕

調査区	Gr.	層	取り上げNo.	石材	接合 No.	X座標	Y座標	Z座標	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
A1	B13	Ⅶ	269	流紋岩		-101.364.116	40,265.462	25.510	チップ	1.7	1.4	0.4	0.7	
A1	B13	Ⅶ	275	黒曜石		-101.364.772	40,267.616	25.464	剥片	1.7	1.3	0.4	0.4	姫島産
A1	B14	Ⅶ	282	ホルンフェルス		-101.366.165	40,267.679	25.380	剥片	4	3	2	16.4	
A1	B14	Ⅶ	289	ホルンフェルス		-101.366.740	40,266.945	25.330	剥片	4	1.8	0.8	3.7	
A1	B14	Ⅶ	294	ホルンフェルス		-101.366.046	40,264.919	25.507	剥片	6.8	2.9	2.8	26.7	
A1	B14	Ⅶ	296	ホルンフェルス		-101.366.172	40,264.617	25.420	剥片	6.3	4.8	1.4	28.9	
A1	B14	Ⅶ	302	流紋岩		-101.366.880	40,263.720	25.388	剥片	3.8	1.6	1	3.8	
B1	J2	Ⅶ	5002	流紋岩		-101.250.196	40,338.873	44.354	剥片	6.4	5.5	1.5	41.3	
B1	J2	Ⅶ	5024	ホルンフェルス		-101.254.702	40,339.767	44.275	台石?	27.7	18.6	7.8	5917.9	粗粒
B1	I2	Ⅶ	5031	流紋岩		-101.254.698	40,334.130	44.460	剥片	4.2	4.1	1.4	22.7	
B1	I2	Ⅶ	5039	流紋岩		-101.253.571	40,333.254	44.670	チップ	0.9	0.5	0.15	0.1未	
B1	H3	Ⅶ	5047	ホルンフェルス	+5048	-101.255.863	40,322.589	43.818	剥片	9.2	3.4	1.1	33	
B1	H3	Ⅶ	5048	ホルンフェルス	+5047	-101.255.855	40,322.610	43.826	剥片	8.8	5.4	1.5	64.7	
B1	I2	Ⅶ	5055	ホルンフェルス		-101.254.140	40,325.279	43.919	剥片	3.5	3	2.2	14	
B1	I2	Ⅶ	5056	砂岩		-101.254.292	40,325.744	43.892	チップ	1.3	1	0.3	0.3	
B1	I3	Ⅶ	5075	流紋岩		-101.257.860	40,334.520	42.392	剥片	4.4	2.3	1.2	9.2	
B1	I3	Ⅶ	5087	流紋岩		-101.264.754	40,328.169	42.546	チップ	2.1	0.9	0.4	0.6	
B1	H3	Ⅶ	5095	黒曜石		-101.267.353	40,324.558	42.484	チップ	1.2	0.9	0.4	0.5	
B1	H3	Ⅶ	5097	頁岩		-101.264.999	40,324.581	42.867	チップ	1.3	1	0.3	0.3	
B1	H4	Ⅶ	5107	流紋岩		-101.267.355	40,316.402	41.875	剥片	2.2	1.5	0.5	1.6	
B1	H4	Ⅶ	5108	ホルンフェルス		-101.267.677	40,315.923	41.994	剥片	4.1	1.8	1.2	8.8	
B1	H4	Ⅶ	5110	流紋岩		-101.266.947	40,317.999	41.518	剥片	4.3	3.7	1.2	15.3	
B1	G4	Ⅶ	5111	流紋岩		-101.265.439	40,314.834	41.774	剥片	6.8	6.1	1.4	53.7	
B1	H3	Ⅶ	5112	流紋岩		-101.263.366	40,316.194	41.024	剥片	3.6	2.5	1.1	6.8	
B1	G4	Ⅶ	5121	チャート		-101.269.568	40,309.847	41.669	剥片	1.5	1.1	0.3	0.2	
B1	H4	Ⅶ	5125	チャート		-101.271.582	40,315.955	40.896	剥片	1.7	1.2	0.9	1.4	
B1	G4	Ⅶ	5126	流紋岩		-101.261.398	40,311.292	40.804	チップ	2	1.6	0.3	0.7	
B1	H4	Ⅶ	5127	流紋岩		-101.267.211	40,317.923	40.072	剥片	5	1.1	0.9	3.8	
B1	G4	Ⅶ	5128	流紋岩		-101.265.263	40,313.515	40.331	剥片	3.2	1.5	0.9	3.2	
B1	G4	Ⅶ	5129	ホルンフェルス		-101.270.448	40,313.822	41.103	剥片	8.3	2.1	1.3	18.3	
B1	G3	Ⅶ	5133	ホルンフェルス		-101.262.102	40,312.577	41.478	剥片	6.4	5.9	2.5	92.1	
B1	G3	Ⅶ	5134	チャート		-101.264.523	40,307.091	41.612	チップ	1.1	1	0.3	0.2	
B1	G3	Ⅶ	5137	チャート		-101.264.722	40,306.096	41.840	チップ	0.9	0.4	0.05	0.1未	
B1	G3	Ⅶ	5138	チャート		-101.264.304	40,305.846	41.813	チップ	1.1	0.7	0.3	0.2	
B1	G3	Ⅶ	5141	チャート		-101.264.106	40,309.566	41.790	チップ	1.2	0.8	0.2	0.2	
B1	G3	Ⅶ	5143	チャート		-101.262.344	40,309.285	42.023	剥片	2	2.1	0.5	1.9	
B1	G3	Ⅶ	5144	チャート		-101.262.088	40,309.603	42.105	剥片	1.9	0.8	0.4	0.3	
B1	G3	Ⅶ	5149	チャート		-101.264.305	40,307.154	42.500	剥片	1.8	0.8	0.5	0.5	
B1	F3	Ⅶ	5150	流紋岩		-101.264.141	40,301.739	42.566	チップ	0.7	0.4	0.2	0.1未	
B1	G4	Ⅶ	5152	流紋岩		-101.269.174	40,305.956	39.684	チップ	1.8	1.5	0.6	1.2	
B1	F5	Ⅶ	5154	流紋岩		-101.276.266	40,302.509	39.469	剥片	4.5	4	1.7	29	
B1	G5	Ⅶ	5169	ホルンフェルス		-101.276.174	40,305.896	38.709	剥片	3.8	3.1	0.5	5.1	
B1	G4	Ⅶ	5173	流紋岩		-101.272.024	40,307.533	38.188	剥片	3.4	2.3	1.5	8.2	
B1	G4	Ⅶ	5193	砂岩		-101.271.900	40,308.341	37.904	剥片	2.6	2.6	1.5	4	
B1	F4	Ⅶ	5200	流紋岩		-101.273.929	40,303.257	39.245	剥片	4.3	2.6	0.8	5.6	
B1	G3	Ⅶ	5202	流紋岩		-101.264.710	40,305.960	39.620	チップ	2.2	1.4	0.5	0.7	
B1	F4	Ⅶ	5203	ホルンフェルス		-101.272.389	40,300.646	39.692	剥片	6.8	3.5	1	12.3	
B1	F4	Ⅶ	5204	流紋岩		-101.273.180	40,300.130	39.921	剥片	4.8	3.3	1.2	19.2	
B1	F4	Ⅶ	5205	ホルンフェルス		-101.270.475	40,303.529	38.702	剥片	6.2	5	2.3	46.6	
B1	F4	Ⅶ	5206	ホルンフェルス		-101.268.764	40,303.640	38.380	剥片	6	3.4	1.4	26.3	
B1	F4	Ⅶ	5214	流紋岩		-101.265.194	40,304.233	37.566	チップ	2.5	1.5	0.4	0.7	
B1	F3	Ⅶ	5215	流紋岩		-101.264.846	40,303.780	37.250	チップ	2.4	1.1	0.4	0.7	
B1	F5	Ⅶ	5227	黒曜石		-101.276.267	40,296.372	36.255	剥片	1.7	1.4	0.8	1.7	
B1	F5	Ⅶ	5228	黒曜石		-101.277.094	40,296.595	36.333	チップ	0.8	0.2	0.1	0.1未	
B1	F4	Ⅶ	5230	ホルンフェルス		-101.273.591	40,296.954	35.809	剥片	4	3.4	2.5	21.3	
B1	E5	Ⅶ	5235	ホルンフェルス		-101.279.205	40,289.535	35.992	剥片	7	2.9	0.7	18.1	
B1	E5	Ⅶ	5240	黒曜石		-101.277.250	40,392.623	35.381	剥片	1.7	1.4	0.5	0.6	
B1	F4	Ⅶ	5249	流紋岩		-101.271.293	40,301.574	35.038	剥片	3.8	2.7	0.9	6	
B1	F4	Ⅶ	5251	流紋岩		-101.267.777	40,303.846	34.229	剥片	1.5	1.3	0.5	0.7	
B1	E6	Ⅶ	5252	頁岩		-101.287.227	40,289.836	34.031	チップ	1.3	1	0.3	0.3	
B1	E6	Ⅶ	5253	流紋岩		-101.287.321	40,295.492	34.011	チップ	2.1	1.4	0.5	1.2	
B1	F4	Ⅶ	5254	チャート		-101.267.650	40,304.940	34.143	剥片	3.4	1.7	1	4	
B1	D6	Ⅶ	5257	流紋岩		-101.285.988	40,280.311	33.955	剥片	7.2	5.8	1.6	52.1	
B1	D6	Ⅶ	5258	流紋岩		-101.286.076	40,281.045	33.819	剥片	1.8	1.6	0.5	1.5	
B1	D6	Ⅶ	5259	流紋岩		-101.286.314	40,282.566	33.690	剥片	2.5	1.8	0.7	2.3	
B1	D6	Ⅶ	5260	黒曜石		-101.287.636	40,281.577	33.916	剥片	1.7	1.4	0.8	1.5	
B1	D6	Ⅶ	5261	流紋岩		-101.288.050	40,282.236	33.760	剥片	2.3	1.1	0.4	0.9	
B1	D6	Ⅶ	5262	流紋岩		-101.288.725	40,281.690	33.946	剥片	2.9	1.6	0.6	2.1	
B1	D6	Ⅶ	5266	流紋岩		-101.292.204	40,278.989	34.470	剥片	3.9	3.4	1.2	12.4	
B1	D6	Ⅶ	5267	流紋岩		-101.289.801	40,282.322	34.452	剥片	3.9	2.2	0.8	7.1	
B1	I2	Ⅶ	5269	ホルンフェルス		-101.249.416	40,332.693	44.324	剥片	5.4	4.6	1.1	15.1	
B1	J2	Ⅶ	5274	ホルンフェルス		-101.253.087	40,341.935	44.076	剥片	5.7	3.2	0.8	15.5	
B1	J2	Ⅶ	5284	流紋岩		-101.251.295	40,338.590	44.327	剥片	5.5	5.2	1.6	36.3	
B1	J2	Ⅶ	5288	ホルンフェルス		-101.249.797	40,336.695	44.507	剥片	3.5	2.6	1.3	8.1	
B1	I2	Ⅶ	5292	流紋岩		-101.252.744	40,332.145	43.723	剥片	3.6	3.2	2.2	19.5	
B1	I3	Ⅶ	5297	流紋岩		-101.261.172	40,332.420	43.073	剥片	6.8	4.4	1.8	48.9	
B1	H3	Ⅶ	5304	流紋岩		-101.259.679	40,322.831	42.510	剥片	5.3	2.8	2.6	63.7	
B1	G4	Ⅶ	5313	流紋岩		-101.269.463	40,310.800	41.636	剥片	3.5	2.3	1.2	9.6	
B1	F5	Ⅶ	5323	黒曜石		-101.275.417	40,299.173	35.999	チップ	1.1	0.6	0.3	0.1	
B1	D6	Ⅶ	5330	黒曜石		-101.286.928	40,283.442	34.191	剥片	1.3	0.9	0.3	0.2	
B1	J2	Ⅶ	5342	流紋岩		-101.250.918	40,338.927	44.222	チップ	1.1	1	0.3	0.2	
B1	J2	Ⅶ	5344	ホルンフェルス		-101.247.500	40,339.637	43.692	剥片	7.2	6.4	4.9	291.4	
B1	I2	Ⅷ	5858	尾鈴山酸性岩		-101.251.376	40,332.446	43.349	磨石	11.2	9.8	4.8	797.9	

調査区	Gr.	層	取り上げNo.	石材	接合No.	X座標	Y座標	Z座標	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
B1	G3	VIII	5462	チャート		-101,266.608	40,305.582	42,464	剥片	2.5	1.6	0.5	1.6	
B1	F3	VIII	5463	チャート		-101,266.056	40,304.891	42,533	剥片	2	2	0.6	1.6	
B1	G3	VIII	5466	チャート		-101,264.365	40,306.093	42,788	チップ	0.8	0.8	0.2	0.1	
B1	G3	VIII	5476	流紋岩		-101,264.718	40,310.917	42,755	チップ	0.9	0.8	0.3	0.1	
B1	G3	VIII	5483	流紋岩		-101,273.350	40,305.323	39,950	剥片	3.9	2.3	1.5	8.3	
B1	G4	VIII	5487	流紋岩		-101,260.308	40,312.069	41,191	チップ	1.5	0.9	0.4	0.4	
B2	H3	VIII	5488	流紋岩		-101,264.979	40,318.694	43,475	剥片	4.3	2.3	1.1	6	
B1	G4	VIII	5490	流紋岩		-101,264.898	40,312.649	41,086	チップ	1.3	1.2	0.3	0.3	
B1	E6	VIII	5493	流紋岩		-101,288.606	40,286.669	35,477	剥片	4.8	3.7	0.8	12.6	
B1	E6	VIII	5499	流紋岩		-101,289.392	40,288.210	34,999	残核	8.6	7.4	6.3	373.9	
B2	E7	VIII	5502	ホルンフェルス		-101,296.872	40,286.436	34,676	剥片	3.2	3.4	1.5	14.2	
B1	E6	VIII	5506	チャート		-101,288.632	40,285.839	34,895	チップ	0.8	0.6	0.4	0.1	
B2	D6	VIII	5507	チャート		-101,279.181	40,283.363	35,027	チップ	1.1	0.8	0.2	0.1	
B2	D6	VIII	5508	黒曜石		-101,280.143	40,283.378	35,053	チップ	0.6	0.8	0.3	0.1	
B1	E6	VIII	5511	ホルンフェルス		-101,285.399	40,285.477	35,090	剥片	7.1	4.5	1	27.5	
B1	J2	VIII	5518	砂岩		-101,247.174	40,333.883	44,329	石皿	22.3	16.9	4.6	1966.8	
B1	J2	VIII	5520	流紋岩		-101,255.052	40,336.884	43,905	剥片	7.2	4.7	1.6	46.3	
B1	J2	VIII	5523	流紋岩		-101,247.599	40,340.075	44,315	剥片	5.5	1.6	0.9	8.2	
B1	I2	VIII	5528	ホルンフェルス	+5755	-101,252.373	40,332.533	43,802	剥片	8.8	3.4	1.4	25.2	
B1	I3	VIII	5531	チャート		-101,259.896	40,334.304	43,505	剥片	5.2	3.5	1.6	25.8	
B1	I3	VIII	5533	チャート	+5539	-101,257.959	40,334.334	43,314	剥片	4.6	4.3	4.5	57.3	
B1	I3	VIII	5535	チャート		-101,257.497	40,334.914	43,180	剥片	3.1	1.8	2.8	8.3	
B1	I3	VIII	5537	流紋岩		-101,256.677	40,333.811	43,211	剥片	5.7	1.7	1.2	13.2	
B1	I3	VIII	5539	チャート	+5533	-101,257.577	40,335.861	43,052	剥片	4.9	4.2	3.5	74	
B1	I3	VIII	5544	チャート		-101,256.966	40,327.032	42,899	剥片	4.3	3.8	2.6	39.8	
B1	I3	VIII	5553	流紋岩	+5893	-101,256.820	40,330.231	42,354	剥片	5.1	2.5	1.7	22.7	
B1	I3	VIII	5555	流紋岩		-101,258.520	40,328.771	42,849	剥片	8.7	4.5	2	70.7	
B1	I4	VIII	5559	流紋岩		-101,267.499	40,328.966	41,816	剥片	3.5	2.6	0.6	4.6	
B1	H4	VIII	5562	流紋岩		-101,266.675	40,316.443	41,798	剥片	4.5	3.2	2	26.3	
B1	H4	VIII	5563	頁岩		-101,267.973	40,317.410	41,655	剥片	3.5	2.3	1.4	12.7	
B1	H4	VIII	5566	ホルンフェルス		-101,269.550	40,315.766	42,093	剥片	7.3	3	1.5	37.5	
B1	H4	VIII	5567	流紋岩		-101,269.491	40,315.082	42,208	剥片	3.3	2.6	1	5.9	
B1	I2	VIII	5568	流紋岩		-101,252.992	40,330.053	44,041	チップ	2.5	1.1	0.7	1.6	
B1	H3	VIII	5572	チャート		-101,256.696	40,318.983	43,176	剥片	2.5	2.4	1.4	9.1	
B1	H4	VIII	5586	流紋岩		-101,269.222	40,320.577	41,174	剥片	6.6	5.5	1.3	41.2	
B1	I2	VIII	5590	頁岩		-101,252.597	40,330.811	43,971	チップ	0.8	1	1	0.7	
B1	G4	VIII	5591	流紋岩		-101,272.651	40,309.613	41,394	剥片	2.8	2.4	0.9	3.8	
B1	G4	VIII	5598	チャート		-101,269.159	40,313.075	40,544	チップ	0.7	0.9	0.2	0.1	
B2	D5	VIII	5619	チャート		-101,282.527	40,282.072	34,673	剥片	2.6	1.2	0.7	2	
B2	D5	VIII	5620	黒曜石		-101,282.968	40,283.933	34,762	剥片	2.2	1.5	0.6	0.8	
B2	D5	VIII	5621	黒曜石		-101,283.272	40,392.867	34,915	チップ	0.9	0.6	0.2	0.1	
B2	D5	VIII	5622	チャート		-101,277.117	40,284.772	35,052	剥片	1.3	1.1	0.5	0.4	
B2	D5	VIII	5623	黒曜石		-101,276.691	40,284.219	35,116	剥片	1.3	0.9	0.3	0.3	
B2	D5	VIII	5624	黒曜石		-101,276.558	40,283.517	35,110	剥片	1.4	0.9	0.3	0.3	
B2	D5	VIII	5625	黒曜石		-101,276.528	40,283.028	35,142	剥片	1.4	1	0.4	0.2	
B2	E5	VIII	5627	黒曜石		-101,281.272	40,289.837	35,410	剥片	2.1	1.5	0.6	1.2	
B2	E5	VIII	5631	流紋岩		-101,284.288	40,291.533	35,143	剥片	6	5	1.8	35.7	
B1	I2	VIII	5635	流紋岩		-101,253.144	40,329.984	44,162	剥片	8.1	4.4	2.2	60	
B1	G3	VIII	5636	ホルンフェルス		-101,267.233	40,309.375	41,546	台石	22.6	15.9	4.4	2553	砂岩源
B1	E6	VIII	5642	流紋岩		-101,293.547	40,287.329	34,788	剥片	7.7	5.2	2.2	107.7	
B1	E6	VIII	5643	流紋岩		-101,293.382	40,287.178	34,813	剥片	2.8	1	0.9	1.9	
B1	E7	VIII	5645	流紋岩		-101,300.091	40,288.669	34,605	剥片	4.2	2.3	0.9	8.3	
B2	E6	VIII	5647	砂岩		-101,289.141	40,289.009	34,087	台石	26.6	26.5	9.5	7580	
B2	E6	VIII	5648	流紋岩		-101,289.241	40,289.627	34,044	台石	18.4	14.8	10.5	3977.4	
B2	E6	VIII	5649	尾鈴山酸性岩		-101,288.986	40,289.762	34,035	台石	18.5	15.3	10.3	3835.2	
B2	E6	VIII	5650	砂岩		-101,289.381	40,285.993	33,827	台石	15.3	13.3	4.4	1347	
B2	D6	VIII	5654	砂岩		-101,291.116	40,285.333	33,890	台石	16.3	15	11.5	3121.7	
B2	E6	VIII	5657	流紋岩		-101,289.106	40,290.569	34,699	剥片	2.1	1	0.5	0.7	
B2	D6	VIII	5659	流紋岩		-101,293.603	40,285.365	33,820	剥片	7.2	4.1	2.3	54.6	
B2	D6	VIII	5662	流紋岩		-101,294.237	40,365.145	33,820	敲石	20.2	8	4.8	1020.2	
B2	D6	VIII	5666	ホルンフェルス		-101,296.229	40,285.259	33,732	台石	24.5	23.1	11.5	7980	砂岩源
B2	D6	VIII	5670	砂岩		-101,294.536	40,283.856	33,880	台石	22.9	16	8.7	4594.3	
B2	D6	VIII	5672	ホルンフェルス		-101,292.909	40,282.944	33,859	台石	26.3	18	17.5	11180	粗粒
B2	D6	VIII	5674	砂岩		-101,292.121	40,283.088	33,971	台石	21.3	15.3	9.5	3527.4	
B2	D6	VIII	5675	流紋岩		-101,292.696	40,284.013	33,961	剥片	7.7	5	4.1	209.6	
B2	D6	VIII	5676	流紋岩		-101,292.506	40,289.275	33,993	チップ	10.8	3.7	5.1	294.6	
B2	D6	VIII	5677	砂岩		-101,293.043	40,283.078	33,908	磨石兼敲石	8.6	7.1	3.7	397	
B2	D5	VIII	5679	黒曜石		-101,284.413	40,283.114	34,877	剥片	1.1	1	0.3	0.2	
B2	D5	VIII	5680	黒曜石		-101,284.969	40,282.865	34,861	剥片	1.5	1.2	0.3	0.2	
B2	D5	VIII	5683	黒曜石		-101,277.834	40,282.185	35,001	剥片	1.6	1.3	0.2	0.4	
B2	D6	VIII	5684	ホルンフェルス		-101,297.220	40,283.547	34,843	剥片	11.7	7	1.9	175.4	
B2	D5	VIII	5686	流紋岩		-101,280.174	40,281.392	34,566	剥片	8.1	6.2	2.8	170.8	
B2	D5	VIII	5687	流紋岩		-101,284.500	40,281.416	34,603	剥片	6.1	5.3	1.4	43.1	
B2	D5	VIII	5692	ホルンフェルス		-101,290.191	40,280.227	34,678	剥片	9.2	7.8	2.6	140.1	
B2	D5	VIII	5695	ホルンフェルス		-101,283.164	40,281.163	35,080	石核	3	1.4	0.6	2.3	
B1	J2	VIII	5710	砂岩		-101,253.495	40,308.807	44,235	敲石	18.9	12.3	8.3	2136.4	
B1	J2	VIII	5711	砂岩		-101,248.483	40,338.854	44,161	石皿	36.3	14.2	6.8	5070	
B1	J2	VIII	5717	砂岩		-101,247.540	40,338.978	44,047	台石	20.3	19.2	7.5	3784.2	
B1	J2	VIII	5719	砂岩		-101,251.560	40,308.779	43,885	敲石	9.7	5.9	3.3	237.9	
B1	J2	VIII	5730	流紋岩		-101,249.440	40,337.807	43,610	剥片	5.1	5	2.8	63.9	
B1	J2	VIII	5731	砂岩		-101,248.142	40,337.402	44,196	台石	41	30	11.2	14780	
B1	I2	VIII	5732	ホルンフェルス		-101,252.876	40,334.068	44,129	剥片	4.4	3.4	0.5	5.6	
B1	I2	VIII	5733	流紋岩		-101,253.231	40,330.011	44,143	剥片	7.3	5.2	1.4	38.3	
B1	I2	VIII	5739	ホルンフェルス		-101,250.844	40,329.148	43,690	剥片	7.8	6.3	1.2	50	
B1	I2	VIII	5740	砂岩		-101,251.212	40,329.171	43,745	剥片	4.6	4	4.1	87.2	
B1	I2	VIII	5747	流紋岩		-101,254.998	40,333.619	43,770	剥片	4.2	3	0.7	5.7	
B1	I3	VIII	5750	ホルンフェルス		-101,262.571	40,329.750	43,489	剥片	5.9	5	1	23.4	

調査区	Gr.	層	取り上げNo.	石材	接合 No.	X座標	Y座標	Z座標	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
B1	I3	VIII	5751	流紋岩		-101,262.046	40,330.086	43,402	剥片	5.7	3.2	1.1	18.2	
B1	I3	VIII	5752	流紋岩		-101,262.110	40,330.538	43,404	剥片	4	3	0.8	8.6	
B1	I3	VIII	5753	流紋岩		-101,262.222	40,331.270	43,343	剥片	3.8	2.6	0.9	8	
B1	I3	VIII	5754	流紋岩		-101,263.498	40,330.888	43,505	剥片	4.5	1.8	1.2	7.4	
B1	H3	VIII	5755	ホルンフェルス	+5528	-101,262.297	40,317.392	43,266	剥片	4.8	3.5	1	9.9	
B1	I3	VIII	5756	流紋岩		-101,259.437	40,325.419	43,125	剥片	5	4.1	1	11.9	
B1	I3	VIII	5757	チャート		-101,260.963	40,332.589	43,470	剥片	2.6	1.8	1.3	5.7	
B1	I3	VIII	5760	砂岩		-101,264.843	40,325.175	43,438	台石	18.8	14.4	8	2549.7	
B1	I3	VIII	5767	ホルンフェルス		-101,257.211	40,324.790	42,847	残核	10.4	8.4	6	575.4	
B1	I3	VIII	5769	ホルンフェルス		-101,258.107	40,335.566	42,994	剥片	9.5	7.8	3.1	195.3	
B1	I3	VIII	5770	砂岩		-101,256.380	40,334.625	42,687	剥片	7.8	4.9	1.6	32.9	
B1	I4	VIII	5772	流紋岩		-101,268.653	40,326.616	41,406	剥片	4.4	2.5	0.8	6.2	
B1	I3	VIII	5773	流紋岩		-101,258.715	40,327.358	42,903	剥片	11.6	9	3	349.5	
B1	H3	VIII	5777	ホルンフェルス		-101,260.345	40,323.183	42,354	剥片	8.8	3.8	2.5	68.2	
B1	H3	VIII	5784	流紋岩		-101,259.773	40,324.188	42,097	剥片	4.1	5	2.5	26.4	
B1	I3	VIII	5786	流紋岩		-101,260.086	40,325.848	41,890	剥片	4.6	3.7	1	15.5	
B1	I3	VIII	5787	流紋岩		-101,260.317	40,325.310	41,897	剥片	4.6	5.1	1.5	32.2	
B2	E5	VIII	5790	黒曜石		-101,277.030	40,301.463	35,193	チップ	1.1	0.5	0.1	0.1	
B2	E5	VIII	5791	黒曜石		-101,276.639	40,301.891	35,180	チップ	0.8	0.6	0.2	0.1	未
B2	E5	VIII	5793	流紋岩		-101,284.484	40,289.949	36,033	剥片	2.9	2.3	0.7	3.4	
B2	D5	VIII	5794	黒曜石		-101,278.611	40,284.188	34,647	剥片	2.3	1.6	0.4	0.9	
B2	D5	VIII	5798	黒曜石		-101,278.476	40,282.302	34,694	剥片	1.6	0.9	0.4	0.2	
B2	E5	VIII	5804	流紋岩		-101,283.239	40,290.976	35,198	剥片	6.1	4.8	1.2	38.5	
B2	E5	VIII	5805	流紋岩		-101,282.915	40,292.665	35,053	剥片	5.5	2.3	0.7	8.4	
B2	E5	VIII	5807	ホルンフェルス		-101,282.398	40,290.848	35,188	剥片	6.5	4.7	2.1	53.5	
B2	E5	VIII	5814	ホルンフェルス		-101,280.635	40,292.843	35,406	剥片	5.7	3	2.1	21	
B2	E5	VIII	5815	ホルンフェルス		-101,284.844	40,288.946	36,355	残核	6.5	6.1	3.7	184.8	
B2	E5	VIII	5817	ホルンフェルス		-101,281.226	40,288.554	36,328	剥片	5.8	4.2	1.4	41	
B1	G3	VIII	5821	チャート		-101,261.735	40,312.639	41,977	チップ	1.3	0.8	0.3	0.2	
B1	H4	VIII	5822	流紋岩		-101,269.542	40,323.178	42,044	剥片	4.2	2.5	1.3	11.1	
B1	H3	VIII	5834	流紋岩		-101,265.219	40,322.608	42,703	剥片	8.4	4	2.1	79	
B1	I3	VIII	5840	ホルンフェルス		-101,263.833	40,329.192	43,154	剥片	5.9	4.4	1.5	27.6	
B1	I3	VIII	5842	ホルンフェルス		-101,262.235	40,325.765	43,582	剥片	7.8	4.8	1.3	39.5	
B1	D6	VIII	5844	黒曜石		-101,294.828	40,284.353	34,223	石核	2	1.7	1.2	3.9	
B1	G4	VIII	5851	黒曜石		-101,270.292	40,306.743	40,028	剥片	1.9	1.1	0.4	0.8	
B1	G3	VIII	5852	チャート		-101,262.676	40,312.752	41,975	チップ	1.1	1	0.3	0.1	
B1	F4	VIII	5853	頁岩		-101,268.303	40,301.303	41,159	剥片	5.5	4.7	2.1	40.7	
B1	J2	VIII	5854	流紋岩		-101,247.397	40,335.378	43,526	剥片	4.1	1.5	0.6	5	
B1	J2	VIII	5856	砂岩		-101,249.802	40,334.961	43,235	台石	31.1	22.4	8.7	6780	
B1	I2	VIII	5858	尾鈴山酸性岩		-101,251.376	40,332.446	43,349	磨石	11.2	9.8	4.8	797.9	
B1	I3	VIII	5870	砂岩		-101,259.039	40,334.612	42,235	敲石	11.1	9.9	5.4	776.6	
B1	I3	VIII	5889	流紋岩		-101,262.404	40,329.590	42,395	剥片	3.1	3.1	1.1	8.8	
B1	I3	VIII	5893	流紋岩		-101,262.693	40,332.899	41,994	剥片	4.6	4.2	1.6	22.8	
B1	I3	VIII	5896	流紋岩		-101,260.355	40,332.911	42,314	剥片	3.7	2.5	1.4	8.2	
B1	I3	VIII	5897	流紋岩		-101,260.550	40,332.567	42,346	剥片	3.5	3	1	8	
B1	I3	VIII	5898	流紋岩	+ 5905	-101,260.082	40,332.478	42,420	石核	4	1.2	0.7	2.5	
B1	I3	VIII	5902	流紋岩		-101,260.106	40,331.871	42,526	剥片	2.7	1.8	0.7	2.3	
B1	I3	VIII	5905	流紋岩	+ 5898	-101,259.976	40,332.419	42,447	石核	11.2	10.2	3	263.4	
B1	I3	VIII	5913	流紋岩		-101,262.514	40,332.129	42,039	剥片	7.1	5.1	2.9	96.6	
B1	I4	VIII	5916	ホルンフェルス		-101,265.784	40,329.568	41,685	剥片	6.8	3.3	0.9	12.4	
B1	I4	VIII	5917	流紋岩		-101,265.637	40,329.730	41,673	残核	10.2	8	4.7	463.8	
B1	I4	VIII	5919	ホルンフェルス		-101,265.106	40,331.723	41,661	剥片	7.4	2.6	1.2	24.6	
B1	I4	VIII	5920	流紋岩		-101,264.015	40,332.007	41,876	剥片	5	3.5	2.7	22.3	
B1	I4	VIII	5922	流紋岩		-101,264.306	40,332.533	41,704	剥片	6.4	4	2.3	59	
B1	H4	VIII	5930	ホルンフェルス		-101,268.787	40,318.394	41,174	剥片	6	5.9	1.7	54.3	
B1	H4	VIII	5934	流紋岩		-101,263.868	40,317.766	42,349	剥片	2.6	2.1	0.5	2.3	
B1	H3	VIII	5935	流紋岩		-101,263.441	40,315.936	42,392	剥片	5.3	3.7	1.3	19.9	
B1	H3	VIII	5936	チャート		-101,265.952	40,320.376	41,981	剥片	3	2.9	0.8	5.4	
B1	H4	VIII	5939	流紋岩		-101,270.059	40,322.065	40,905	剥片	7.8	6	2	68.3	
B2	E5	VIII	5940	黒曜石		-101,279.927	40,286.475	35,160	チップ	0.9	0.8	0.2	0.1	
B2	E6	VIII	5942	流紋岩		-101,288.095	40,287.956	34,280	剥片	2.9	1.5	0.7	3.1	
B2	E6	VIII	5943	流紋岩		-101,288.052	40,287.923	34,331	剥片	4	2.5	0.8	6.9	
B2	E6	VIII	5944	流紋岩		-101,289.561	40,286.037	34,073	剥片	7.8	5.8	2.8	103.8	
B2	D6	VIII	5949	ホルンフェルス		-101,291.721	40,284.706	33,873	剥片	2.3	1.4	1	2.1	
B2	D6	VIII	5950	流紋岩		-101,292.653	40,286.034	33,862	剥片	3.5	1.8	0.7	2.6	
B2	D6	VIII	5952	流紋岩		-101,292.207	40,284.437	33,856	剥片	5.4	3.2	1	12.4	
B2	D6	VIII	5953	流紋岩		-101,293.136	40,283.634	33,734	剥片	5.4	2.3	1.1	8.6	
B2	D6	VIII	5956	流紋岩		-101,290.117	40,283.913	34,079	剥片	3.8	2.3	1.3	9.1	
B2	D6	VIII	5957	砂岩		-101,298.676	40,292.974	34,103	磨石兼敲石	9.3	7.7	5.1	498.4	
B2	D5	VIII	5962	黒曜石		-101,286.154	40,283.735	34,433	剥片	2.8	1.6	0.9	2.4	
B2	D5	VIII	5963	ホルンフェルス		-101,286.670	40,282.679	34,206	剥片	5.4	1.3	0.8	6.3	
B2	E5	VIII	5964	頁岩		-101,283.797	40,286.193	34,783	剥片	3.5	2.3	1.1	7.1	
B1	J2	VIII	5966	流紋岩		-101,253.597	40,334.996	43,895	剥片	5	3.2	1.9	23	
B2	D6	VIII	5968	砂岩		-101,300.270	40,294.651	33,931	敲石	8.3	5.4	4.8	300	
B2	D6	VIII	5969	流紋岩		-101,290.580	40,284.604	33,951	剥片	4.7	3.5	1.6	20.2	
B2	D6	VIII	5970	砂岩		-101,300.607	40,294.097	33,892	敲石	13.2	5.2	3.2	319.9	
B2	D6	VIII	5971	流紋岩		-101,286.884	40,285.127	34,426	剥片	3.3	2.7	1	6.9	
B1	H2	VIII	5979	流紋岩		-101,255.420	40,321.927	42,144	剥片	7	5.5	1.5	48.6	
B	G5	VIII	21922	砂岩		-101,275.400	40,306.144	38,754	剥片	5	4.3	3.4	55.6	
B	G5	VIII	21992	砂岩		-101,275.400	40,306.144	38,754	石皿	20.8	15.5	5.4	2240.3	
B	I4	VIII	22015	砂岩		-101,265.000	40,327.081	42,185	敲石	12.3	8	4.4	528.1	
B	I4	VIII	22031	砂岩		-101,268.000	40,328.119	41,065	石皿	43	15.7	11.2	8100	
B1	I3	VIII	22082	砂岩		-101,263.400	40,332.572	41,910	剥片	6.8	3.8	2.1	43.7	



遺跡遠景（北から）

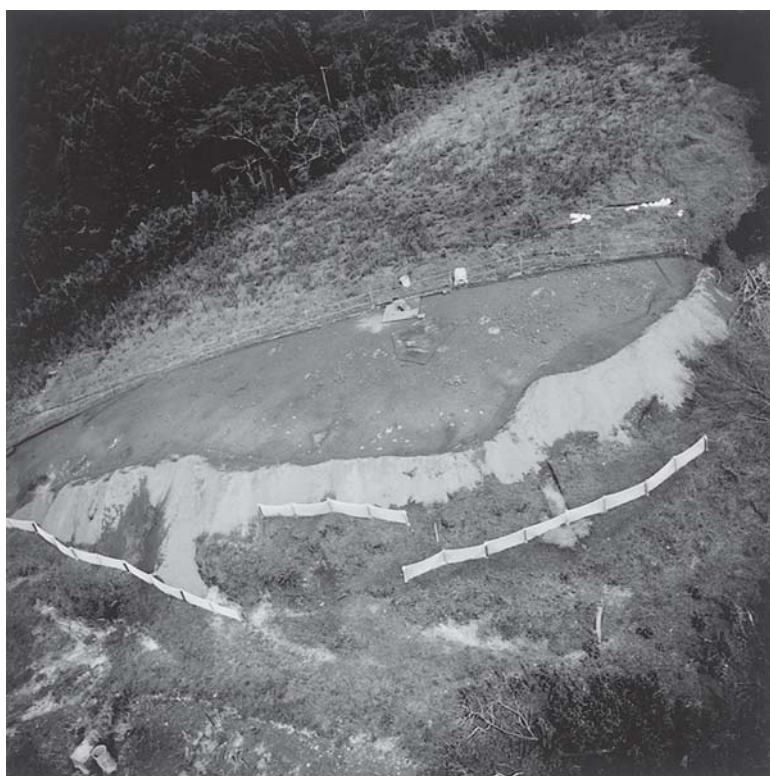


遺跡遠景（南から）

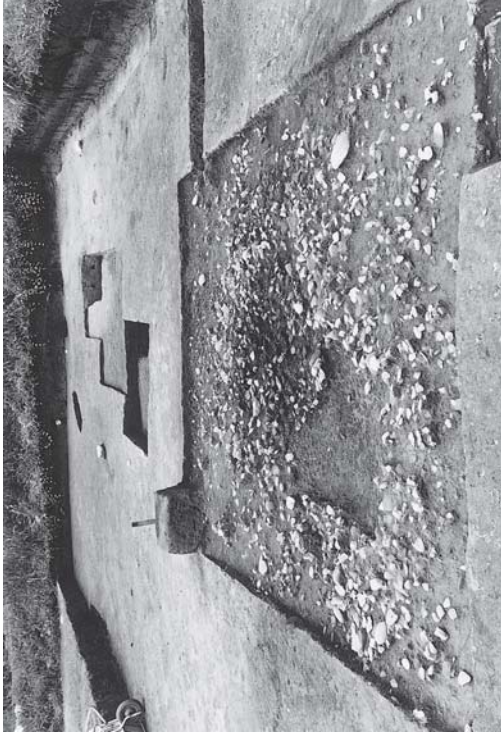
图版 2



A区散礫検出状況



B-1区散礫検出状況



SI1散礫検出状況（南から）



B-1区集石遺構検出状況（北から）



A区散礫検出状況（北から）



B-2区散礫検出状況（南から）

図版 4



SI 3検出状況 (I類密集型)



SI 40検出状況 (II類密集型)



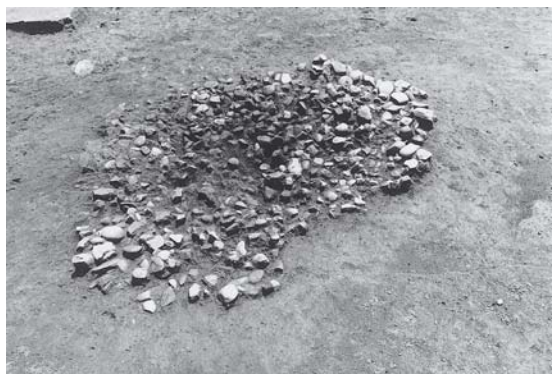
SI 3完掘状況



SI 40完掘状況



SI 4検出状況 (I類散在型)



SI 1検出状況 (II類集中型)



SI 4完掘状況



SI 1完掘状況



SI 15検出状況 (Ⅱ類散在型)



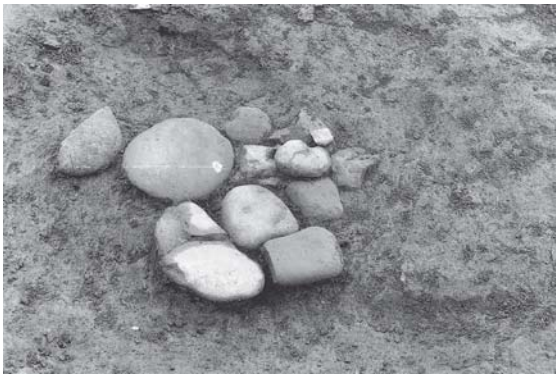
SI 9検出状況 (Ⅲ類散在型)



SI 2検出状況 (Ⅲ類密集型)



SI 9配石検出状況



SI 2配石検出状況



SC3完掘状況



SI 2完掘状況

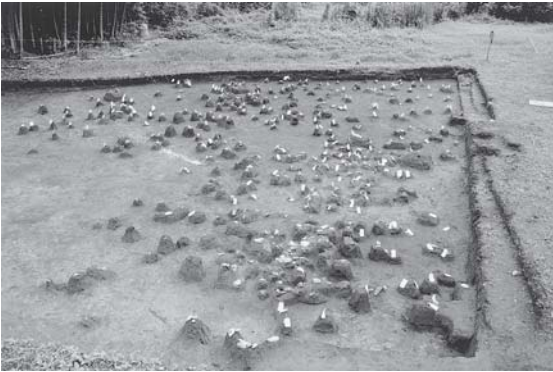
図版6



SC6半截状況



作業風景1



A区遺物出土状況（アカホヤ土）



作業風景2



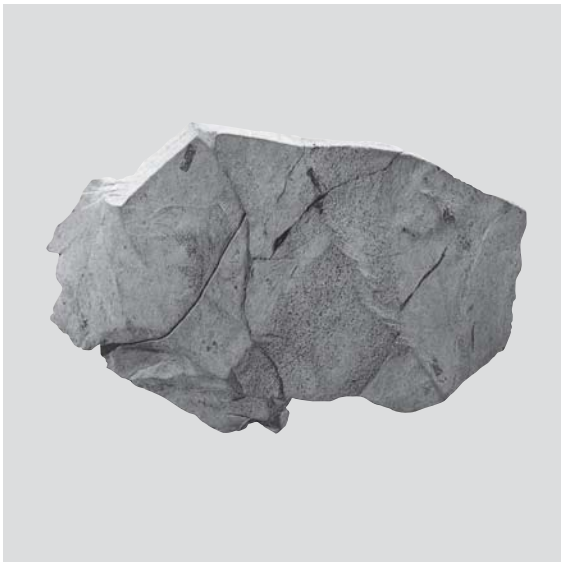
B-1区XI層状況



接合資料 1



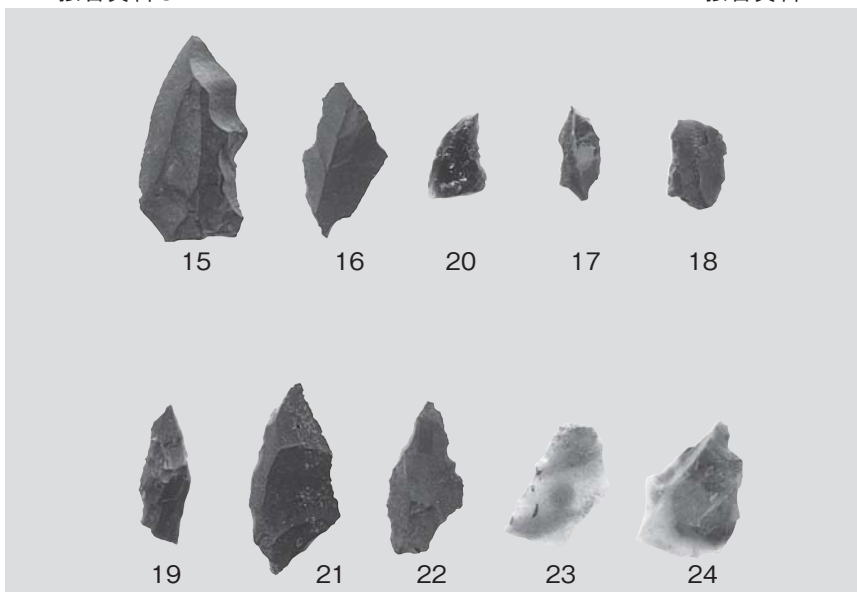
接合資料 2



接合資料 3

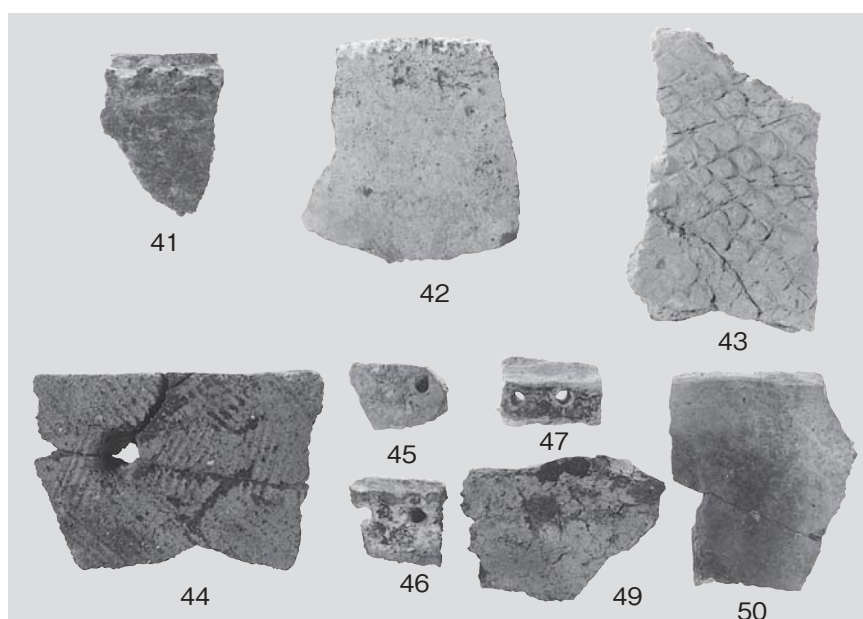
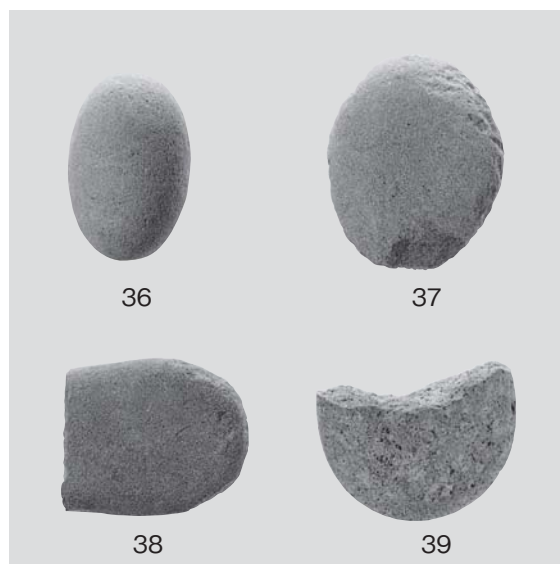
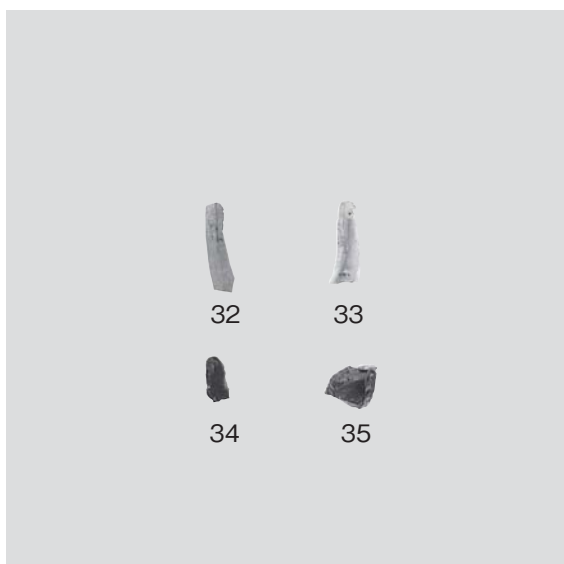
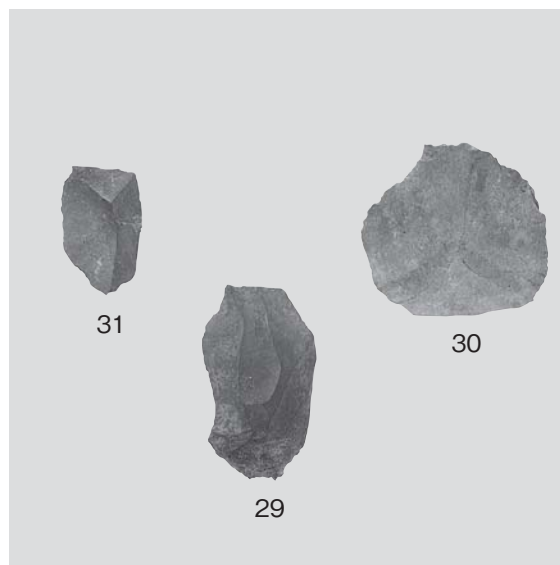
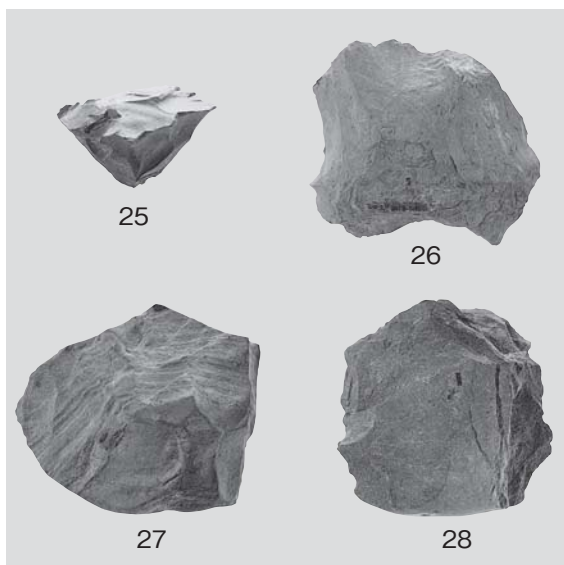


接合資料 4

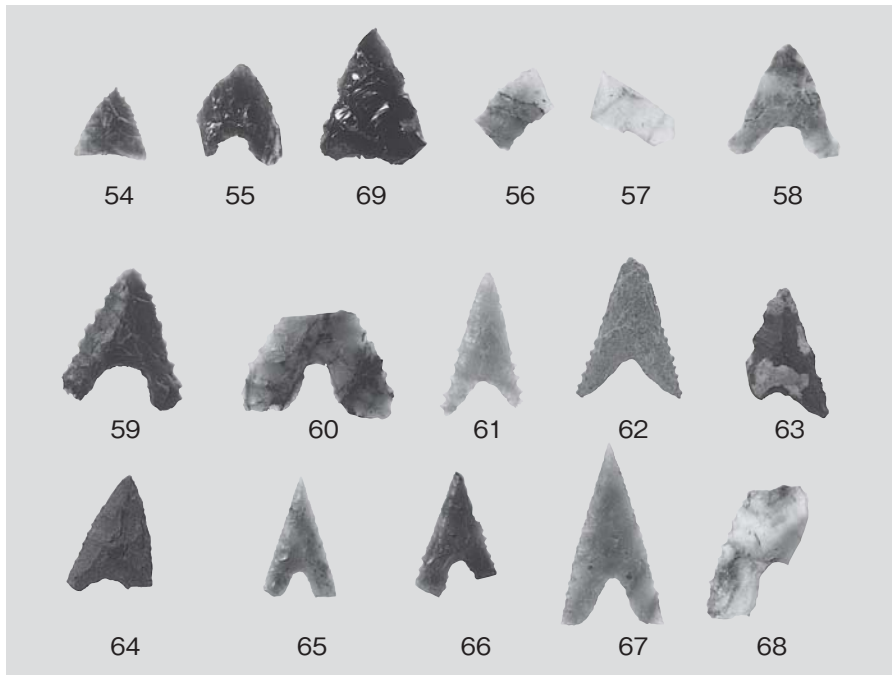
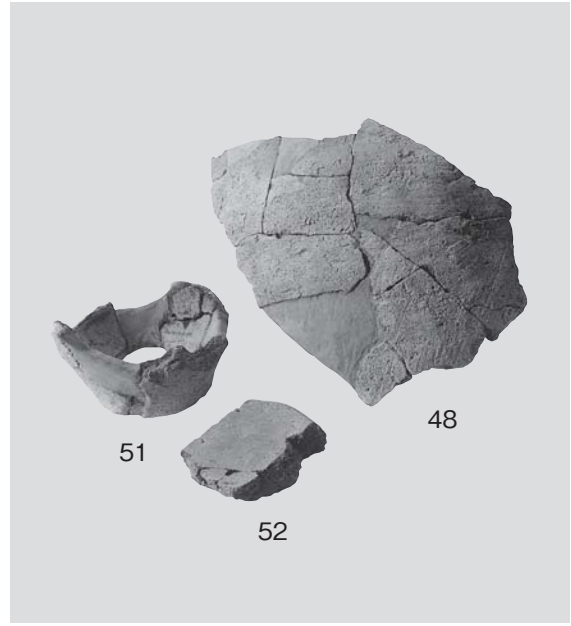
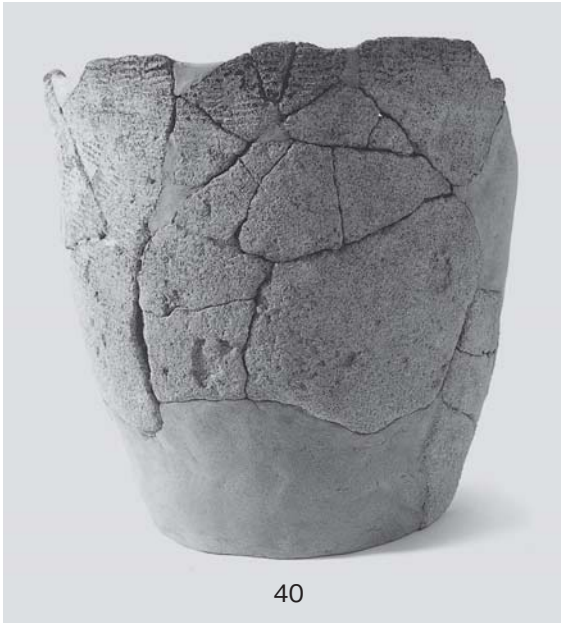


出土遺物 (1)

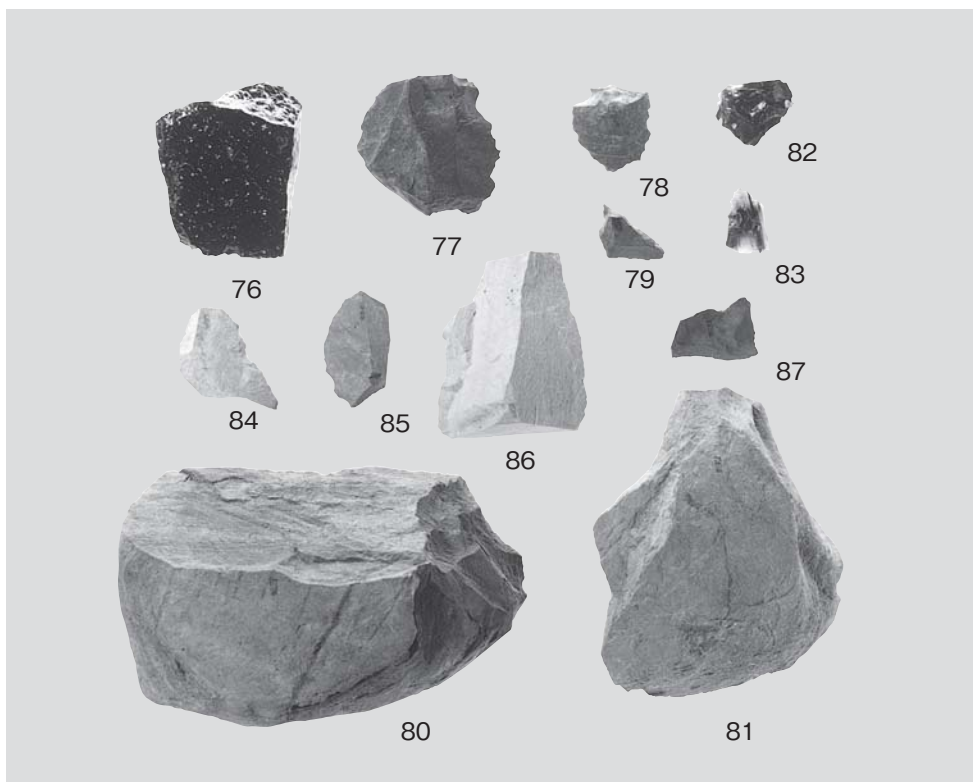
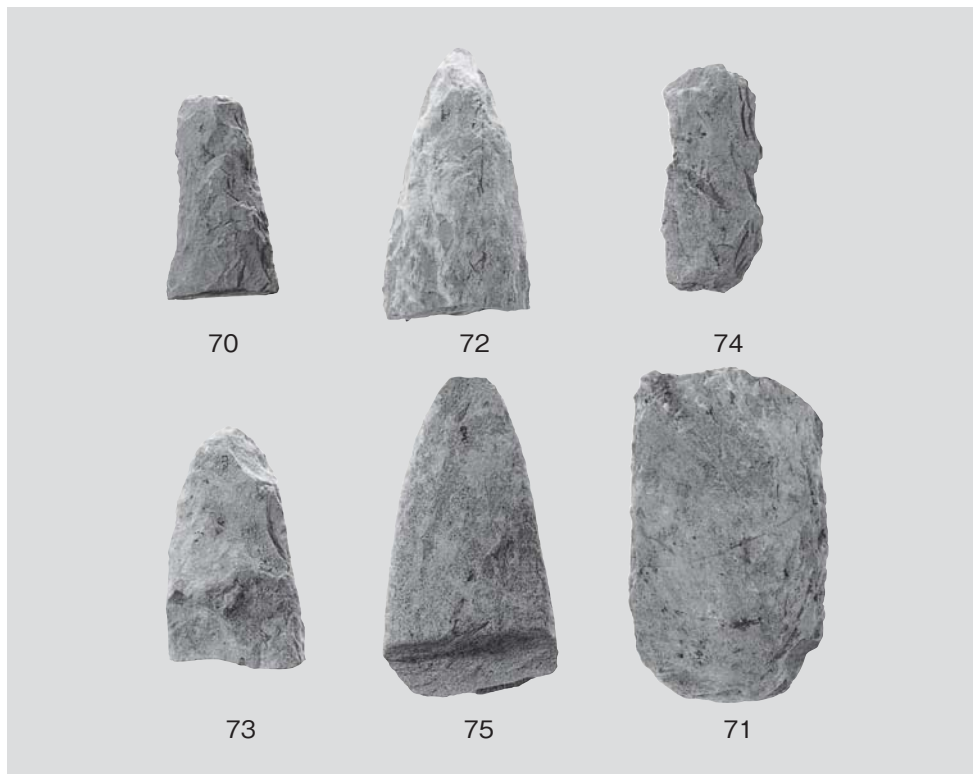
图版 8



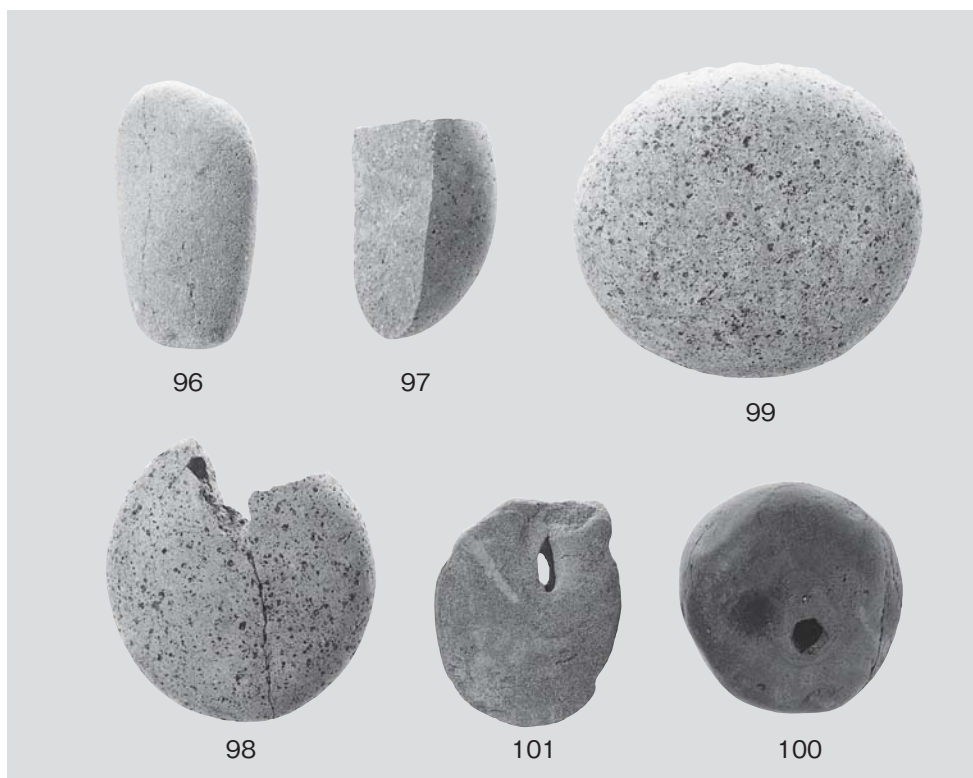
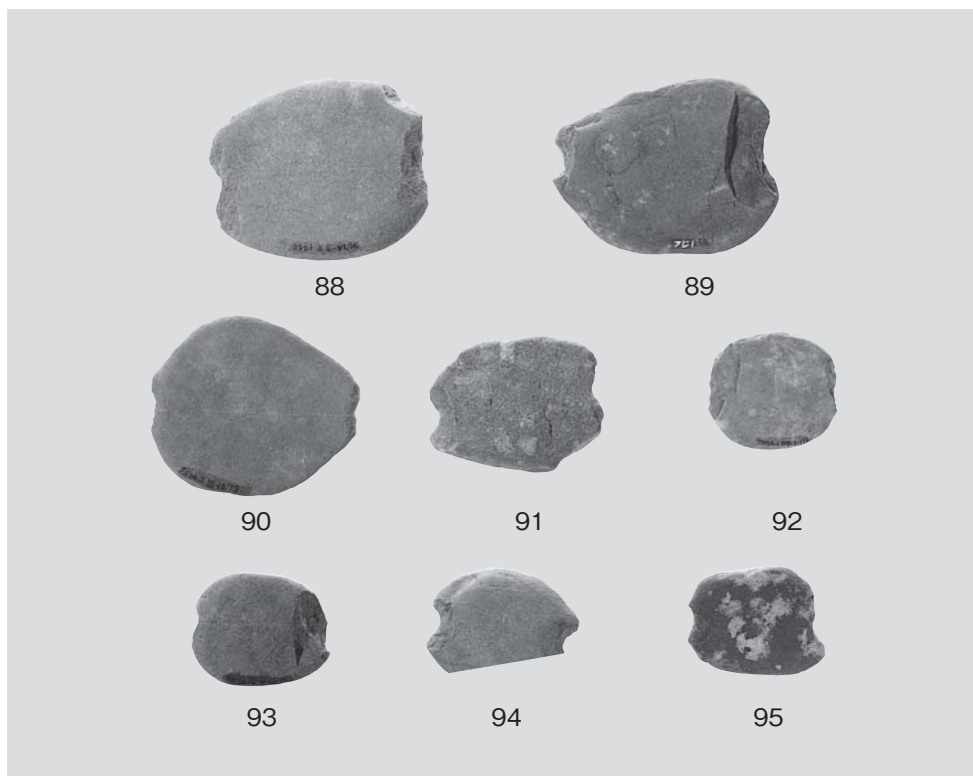
出土遺物 (2)



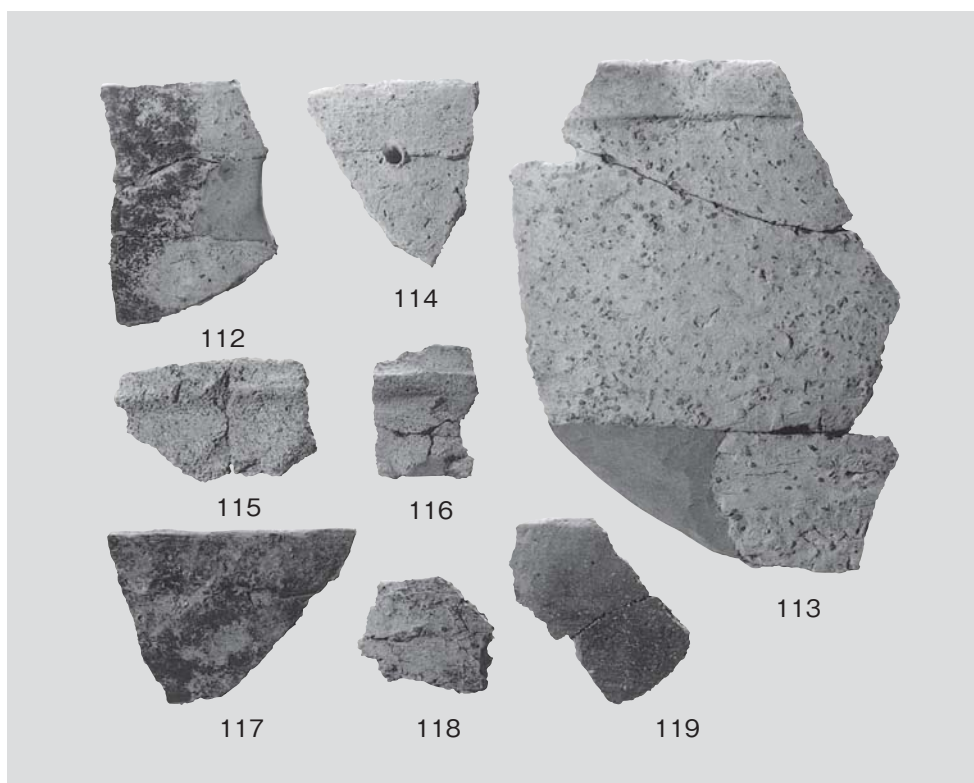
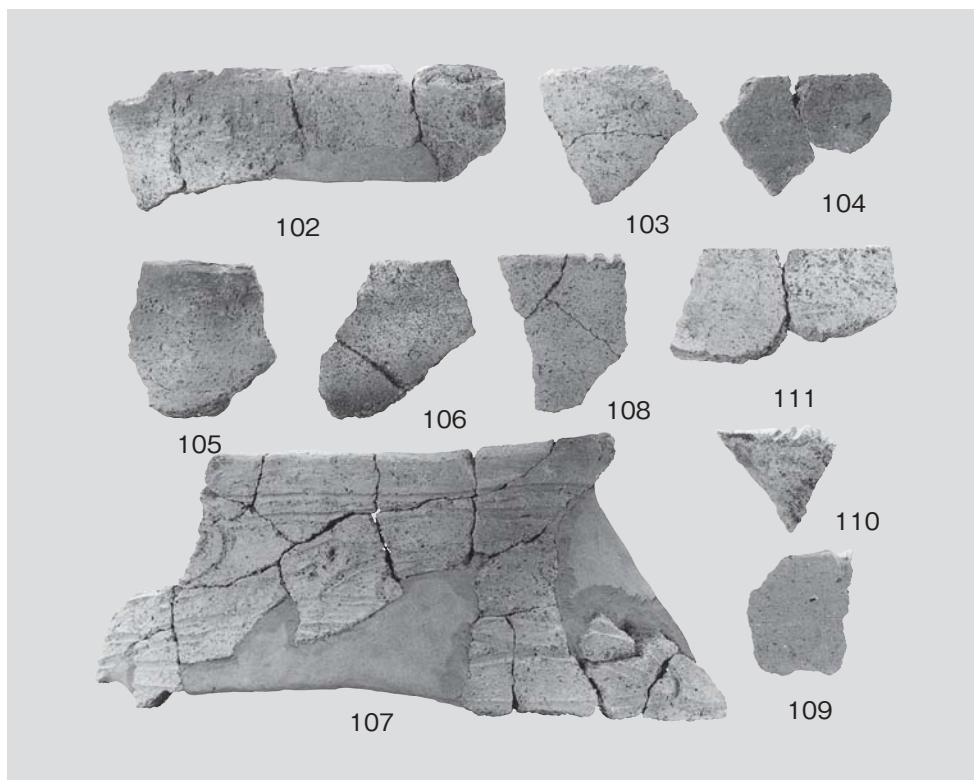
出土遺物 (3)



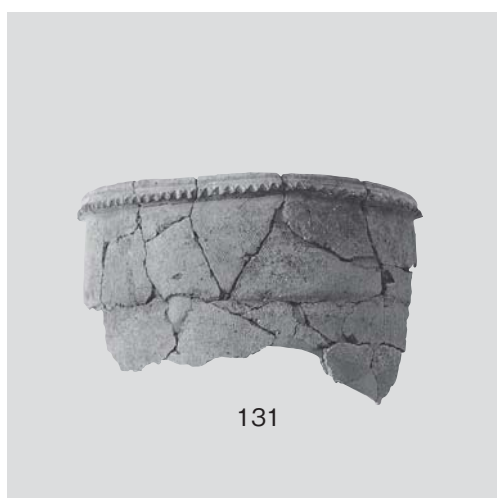
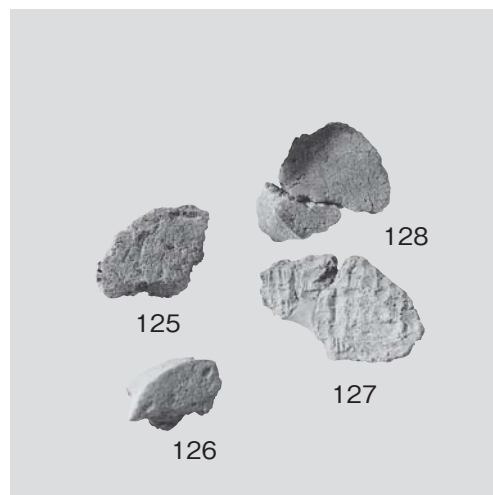
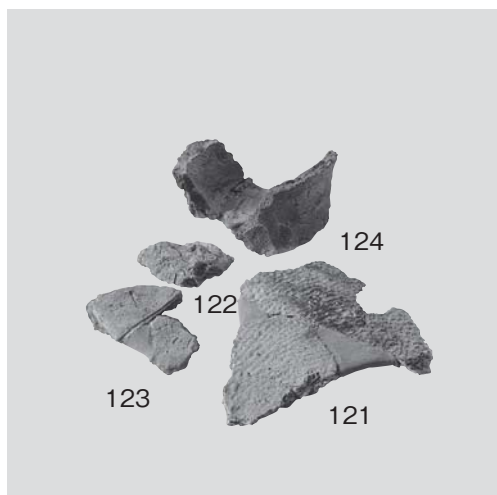
出土遺物 (4)



出土遺物 (5)



出土遺物 (6)



出土遺物 (7)

報告書抄録

ふりがな	ふじやまだいいちいせき							
書名	藤山第1遺跡							
副書名	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	39							
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第142集							
執筆・編集担当者名	小山 博							
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター							
所在地	〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地 TEL 0985-36-1171							
発行年月日	2007年1月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふじやまだいいち 藤山第1遺跡	みやざきけん 宮崎県 こゆぐんしんとみちよう 児湯郡新富町 おおあぎにゆうた 大字新田 あざわたち 字綿内	454028		32° 5'10"	131° 25'45"	一次調査 20020603) 20020715 二次調査 20040713) 20040924	一次調査 500㎡ 二次調査 1,800㎡	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う発掘調査

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡 散布地	後期旧石器時代 縄文時代早期 〃 後・晩期	集石遺構 42基 土坑 5基	ナイフ形石器・スクレイパー・細石刃核・細石刃・剥片・石核 貝殻条痕文土器・押型文土器・石鎌・石斧 孔列文土器	

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第142集

藤山第1遺跡

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書39

2007年1月31日

発行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地

TEL 0985 (36) 1171 FAX 0985 (72) 0660

印刷 株式会社 都城印刷

〒885-0055 宮崎県都城市早鈴町1618番地

TEL 0986 (22) 4392 FAX 0986 (22) 4891
